

一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅱ

下 割 遺 跡 Ⅱ

2 0 0 4

新 潟 県 教 育 委 員 会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅱ

しも わり 遺 跡 Ⅱ
下 割

2004

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

上越三和道路は、上越市と中頸城郡三和村を結ぶ地域高規格道路（自動車専用道路）で、上越市から南魚沼郡六日町に至る延長約60kmの一般国道253号上越魚沼地域振興快速道路の一部です。この地域高規格道路は、地域の活性化と他地域との交流を促進することを目的として建設される道路です。上越地域においては、高規格幹線道路である北陸自動車道と併せて、信頼性の高い循環型広域ネットワークを形成することを目指し、これによって、沿線地域の産業・経済・文化の交流発展が促進されるものと期待されています。

本書は、この上越三和道路建設に先立ち、平成15年度に実施した下割遺跡の発掘調査報告書です。発掘調査は平成14年度から実施し、14年度分については報告書を刊行済みです。今年度の調査の結果、上層からは中世、下層からは古墳時代の遺構・遺物が発見されました。古墳時代の調査では、河川跡から古墳時代前期の土師器が多数出土し、川岸には掘立柱建物が2棟検出されました。このことから、古墳時代には遺跡の中を川が流れ、その川岸に人々が生活を営んでいたことがわかりました。また、中世の調査では、掘立柱建物や井戸、溝など、昨年度調査した集落から続く遺構が検出されました。遺物としては、中世の北陸地方を代表する焼き物である珠洲焼をはじめ、漆器や曲物などの木製品が出土しました。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための研究資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御協力と御援助を賜った上越市教育委員会、並びに地元の方々、また、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配を賜った国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所に対して厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

新潟県教育委員会

教育長 板屋越 麟一

例 言

- 1 本報告書は、新潟県上越市大字米岡字下割1,205番地ほかに所在する下割遺跡の発掘調査記録である。
- 2 本調査は上越三和道路の建設に伴い、国土交通省から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したもので、発掘調査は調査主体である県教委が財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に委託し、平成15年4月7日から11月21日に実施した。
- 3 出土遺物及び調査・整理事業に係わる各種資料は、一括して県教委が保管・管理している。
- 4 遺物の注記は、調査年度と下割遺跡の略記号を合わせ「03下ワリ」とし、出土地点や層位を続けて記した。
- 5 本書の図中で示す方位は、すべて真北である。
- 6 遺物番号は種別に係わりなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。
- 7 引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。ただし、第Ⅶ章木製品の樹種同定については、巻末に記載した。
- 8 調査成果の一部は現地説明会（平成15年8月30日）、遺跡発掘調査報告会（平成16年3月7日）などで公表しているが、本報告書の記述をもって正式な報告とする。
- 9 本報告書の作成にあたり、航空写真撮影・遺構の図化・自然科学分析は、以下の機関に委託した。
航空写真撮影……国際航業株式会社
遺構の図化……有限会社東北測量設計社
木製品の樹種同定……株式会社バリノ・サーヴェイ
- 10 遺構図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビアスに委託して編集をした。遺物写真撮影はデジタルカメラ（ニコンD100）で撮影し、デジタル化した遺構写真と合わせて編集した。なお、図版作成・編集作業に係わり、業者に支給した資料は以下のとおりである。
本文・挿図：テキスト形式・Excel形式のデータ、トレース原因・貼り込み版下
遺構図面図版：原図（修正済）・レイアウト図・文字データ
遺物図面図版：トレース図（個別）・拓影・レイアウト図
写真図版：デジタルデータ（CD）・レイアウト図
- 11 本報告書の執筆は、山崎忠良（埋文事業団調査課 班長）、金子正宏（同 主任調査員）、椿 一之（同 主任調査員）、継 実（株式会社吉田建設埋蔵文化財事業部 調査員）がこれにあたり、編集は山崎が担当した。執筆分担は以下のとおりである。
第Ⅰ章・第Ⅳ章2B2）・第Ⅴ章2A2）・B3）…椿 第Ⅱ章・第Ⅲ章1・2・第Ⅳ章1A～D…金子
第Ⅲ章3・第Ⅳ章1E・F・2C・第Ⅴ章1・2A1）・B1）・2）・4）・第Ⅶ章2…山崎
第Ⅳ章2A・B1）・第Ⅶ章1…継 第Ⅵ章…株式会社バリノ・サーヴェイ
- 12 発掘調査から本報告書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くのご教示・ご協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げます。
相田泰臣 相羽重徳 赤澤徳明 岡本郁栄 金子拓男 上村光二 川上 環
国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所 小島幸雄 笹澤正史 沙見一夫 宗基富貴子
上越市教育委員会 高野武男 高橋浩二 田村良照 長沼吉嗣 橋本博文 秦 繁治 藤田 剛
宮田 真 森 孝子 湯尾和広 吉川俊久

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査と整理作業	2
A 調査と調査体制	2
B 整理作業と整理体制	6
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	7
1 遺跡周辺の地理的環境	7
2 遺跡の分布と歴史的環境	8
A 周辺遺跡の概要	8
B 周辺の水利環境	11
第Ⅲ章 調査の概要	12
1 グリッドと調査区の設定	12
2 基本層序	12
3 遺構・遺物の検出状況	14
A 古墳時代	14
B 古代・中世	14
第Ⅳ章 古墳時代の調査	16
1 遺 構 各 説	16
A 掘立柱建物	16
B 井 戸	17
C 溝	17
D 土 坑	18
E 性格不明遺構	19
F 旧 河 川	21
2 遺 物	21
A 時期の設定・器種分類	21
B 遺構出土の遺物	23
C 包含層出土の遺物	31
第Ⅴ章 中世の調査	33
1 遺 構 各 説	33
A 掘立柱建物	33
B 井 戸	34
C 溝	36
D 土 坑・ピット	36

2 遺物	36
A 遺構出土の遺物	36
B 包含層出土の遺物	38
第VI章 木製品の樹種同定	39
1 はじめに	39
2 試料	39
3 分析方法	39
4 結果	39
5 考察	41
第VII章 まとめ	45
1 古墳時代の土師器	45
2 中世の集落	52
〈要約〉	55
〈引用文献〉	56
〈遺物観察表〉	57

挿図目次

第1図 試掘調査トレンチ位置図	3	第8図 古墳時代土師器の器種分類図	22
第2図 本発掘調査対象範囲と平成15年度本発掘調査範囲	3	第9図 検出樹種の顕微鏡写真(1)	43
第3図 整理作業の経過	6	第10図 検出樹種の顕微鏡写真(2)	44
第4図 位置と周辺の遺跡	9	第11図 下割Ⅰ期の土師器	46
第5図 グリッド設定図	13	第12図 下割Ⅱ期の土師器	48
第6図 基本層序柱状図	13	第13図 下割Ⅲ期の土師器	50
第7図 古墳時代土師器片の出土数	15	第14図 下割遺跡出土弥生時代の土器	50
		第15図 中世の遺構配置図	53

表目次

第1表 周辺の主要な遺跡	8	第3表 古墳時代土師器の遺構別組成	51
第2表 下割遺跡の時期区分	50	第4表 中世の土器・陶磁器の組成	51

図版目次

【図面】

- 図版 1 遺構全体図
図版 2 古墳時代遺構全体図
図版 3 分割図 (1)
図版 4 遺構断面図 (1)
図版 5 遺構断面図 (2)
図版 6 分割図 (2)
図版 7 遺構断面図 (3)
図版 8 分割図 (3)
図版 9 分割図 (4)
図版 10 遺構断面図 (4)
図版 11 分割図 (5)
図版 12 遺構個別図 (1)
図版 13 遺構個別図 (2)
図版 14 遺構個別図 (3)
図版 15 遺構個別図 (4)
図版 16 遺構個別図 (5)
図版 17 遺構個別図 (6)
図版 18 遺構個別図 (7)
図版 19 遺構個別図 (8)
図版 20 中世遺構全体図
図版 21 分割図 (6)
図版 22 分割図 (7)
図版 23 遺構個別図 (9)
図版 24 遺構個別図 (10)
図版 25 遺構個別図 (11)
図版 26 遺構個別図 (12)
図版 27 遺構個別図 (13)
図版 28 遺構個別図 (14)
図版 29 遺構個別図 (15)
図版 30 遺構個別図 (16)
図版 31 遺構個別図 (17)
図版 32 遺構個別図 (18)
図版 33 遺構個別図 (19)
図版 34 古墳時代の遺物 (1)
図版 35 古墳時代の遺物 (2)
図版 36 古墳時代の遺物 (3)
図版 37 古墳時代の遺物 (4)
図版 38 古墳時代の遺物 (5)
図版 39 弥生時代の遺物 (1)・古墳時代の遺物 (6)
図版 40 古墳時代の遺物 (7)
図版 41 弥生時代の遺物 (2)・古墳時代の遺物 (8)
図版 42 古墳時代の遺物 (9)
図版 43 古墳時代の遺物 (10)
図版 44 古墳時代の遺物 (11)
図版 45 古墳時代の遺物 (12)
図版 46 古墳時代の遺物 (13)
図版 47 古代の遺物・中世の遺物 (1)
図版 48 中世の遺物 (2)
【写真】
図版 49 調査区近景
図版 50 A地区・B I・II・V・VI区
図版 51 A地区
図版 52 基本層序・古墳時代 掘立柱建物 (1)
図版 53 古墳時代 掘立柱建物 (2)
図版 54 古墳時代 井戸・溝 (1)
図版 55 古墳時代 溝 (2)
図版 56 古墳時代 溝 (3)・土坑 (1)
図版 57 古墳時代 土坑 (2)
図版 58 古墳時代 土坑 (3)・性格不明遺構 (1)
図版 59 古墳時代 性格不明遺構 (2)
図版 60 古墳時代 性格不明遺構 (3)
図版 61 古墳時代 性格不明遺構 (4)・旧河川
図版 62 B地区
図版 63 B I・V区
図版 64 B I～III区
図版 65 中世 掘立柱建物 (1)
図版 66 中世 掘立柱建物 (2)・井戸 (1)
図版 67 中世 井戸 (2)
図版 68 中世 井戸 (3)
図版 69 中世 井戸 (4)
図版 70 中世 井戸 (5)・溝
図版 71 中世 土坑など
図版 72 古墳時代の遺物 (1)
図版 73 古墳時代の遺物 (2)
図版 74 古墳時代の遺物 (3)
図版 75 古墳時代の遺物 (4)
図版 76 弥生時代の遺物 (1)・古墳時代の遺物 (5)
図版 77 弥生時代の遺物 (2)・古墳時代の遺物 (6)
図版 78 古墳時代の遺物 (7)
図版 79 古墳時代の遺物 (8)
図版 80 古墳時代の遺物 (9)
図版 81 古墳時代の遺物 (10)
図版 82 古代の遺物・中世の遺物 (1)
図版 83 中世の遺物 (2)

第1章 序 説

1 調査に至る経緯

上越三和道路は、上越魚沼地域振興快速道路（一般国道253号）のうち、新潟県上越市から中頸城郡三和村までの7.4km区間を指す。上越魚沼地域振興快速道路（一般国道253号）は、上越市から六日町を結ぶ自動車専用の地域高規格道路として計画され、上越地方と首都圏を結ぶ最短経路として広域的な交流を促し、上越地域の活性化に貢献することが期待されている。

国土交通省は上越三和道路の着工に向けて、県教委に計画予定地内における埋蔵文化財の分布調査を委託した。県教委の委託を受けた埋文事業団が平成13（2001）年4月に分布調査を実施したところ、範囲内24か所から古代・中世の遺物が採取された。この結果、ほぼ全域にわたり、試掘調査による遺跡の存在確認が必要である旨を報告した。

国土交通省の委託を受けて、県教委は埋文事業団に調査を委託し、埋文事業団は平成14年3月初旬に14,000m²を対象に試掘調査を実施した。調査の結果、上層が古代・中世の遺物と遺構、下層が古墳時代の遺物を多数包蔵していることを確認し、対象面積14,000m²のうちの6,500m²については古代・中世と古墳時代の上下2面の本発掘調査が必要で、残り7,500m²についても再調査が必要と国土交通省に通知した。通知を受け、国土交通省と県教委と埋文事業団の三者で調査工程について協議し、平成14年4月より上層6,500m²の本発掘調査を行うことを決定した。

その後県教委は、国土交通省の委託を受けて、埋文事業団に平成13年度試掘調査で再調査が必要とされた範囲を含む24,150m²を対象とする調査を委託し、埋文事業団は平成14年4月～5月に試掘調査を実施した。調査の結果、上層が古代の遺物と遺構、中層が古墳時代・古代の遺物、下層が縄文時代の遺物を包蔵していることを確認した。対象面積24,150m²のうち、上層については調査対象範囲全域を、中層については18,900m²（古墳11,500m²+古墳・古代7,400m²）の本発掘調査が必要であり、下層については上層の本発掘調査終了後に再調査が必要と国土交通省に通知した。通知を受け、国土交通省と県教委と埋文事業団の三者で調査工程について協議し、平成15年4月より、平成14年度調査区の中層6,500m²とその西隣7,500m²の上層の本発掘調査を行うことを決定した。なお平成13・14年度の試掘調査の結果、下割遺跡の本発掘調査必要範囲（平面）は37,500m²となる。

さらに国土交通省の委託を受けて、県教委は、埋文事業団に平成14年度試掘調査で確定した下割遺跡調査範囲以西の167,000m²を対象とする調査を委託し、埋文事業団は平成15年5月～6月・7月に試掘調査を実施した。調査の結果、清水田遺跡・延命寺遺跡・三角田遺跡が新たに発見され、下割遺跡は6,600m²が追加された。追加部分では、上層が古代・中世の遺物、中層が古墳時代の遺物を包蔵していることを確認し、さらに現地表下約3.4mで、平成14年度試掘調査の下層と同一層である可能性が高い灰色土層を確認した。上・中層については6,600m²の本発掘調査の追加が、下層についてはその有無に関して、上・中層の本発掘調査終了後再調査が必要と国土交通省に通知した。平成13～15年度の試掘調査の結果、下割遺跡の本発掘調査必要範囲（平面）は44,100m²となる。

2 調査と整理作業

A 調査と調査体制

1) 試掘調査(第1・2図)

平成13年度

平成14(2002)年3月4日～8日にかけて、埋文事業団が実施した。調査は対象範囲14,000m²に任意にトレンチを設定し、重機を使用して徐々に掘り下げ、遺構・遺物の有無、土層の堆積状況などを観察・記録する方法が採られた。調査の結果、現地表下20～30cmで古代・中世の遺物包含層を確認した。出土した遺物は須恵器・珠洲焼・越中瀬戸が多く、3・4・6～8・11・12トレンチでは溝や井戸の可能性のある遺構が検出された。遺構は調査範囲の東側に位置する米岡集落に向かって、分布が密になる傾向が見られた。また現地表下1～1.5m付近で古墳時代の遺物包含層を確認した。遺物は古墳時代前期末葉～中期初頭の甕形土器・壺形土器(以下、形土器を省略)が主体であるが、遺構は検出されなかった。

平成14年度

平成14(2002)年4月15日～5月8日にかけて、埋文事業団が実施した。調査は対象範囲24,150m²に任意にトレンチを設定し、重機を使用して徐々に掘り下げ、遺構・遺物の有無、土層の堆積状況などを観察・記録する方法が採られた。調査の結果、現地表下20～30cmで古代の遺物包含層(上層)、同1.5m付近で古墳時代・古代の遺物包含層(中層)、同4m付近で縄文時代後期の遺物包含層(下層)が確認された。そして、上層は平成13年度試掘調査古代・中世の遺物包含層に、中層は同古墳時代の遺物包含層にそれぞれ対応すると判断された。

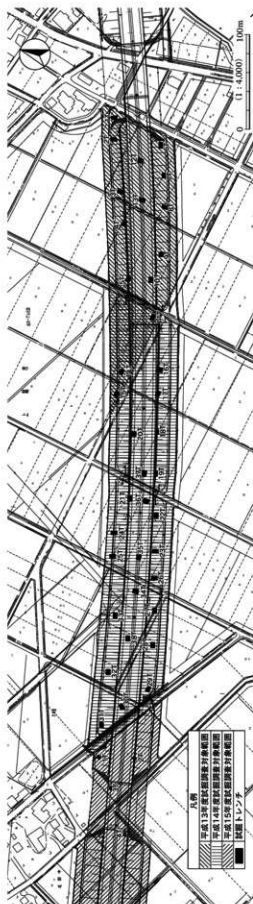
上層では全てのトレンチで遺物が出土したが、特に調査対象範囲内の南側の16～29トレンチにおいて多数の遺物が検出され、濃密な分布を示すことが確認された。出土した遺物は土師器・須恵器が多い。23トレンチでは幅1.3m以上の溝、28トレンチでは幅40cmの溝が検出されるなど、遺構も主として南側から検出される傾向が見られた。

中層はSTA195の周辺の一部のみ存在している。27・33・35トレンチでは現地表下1.3m付近で黒色土層があり、古代の遺物が出土した。27トレンチでは、中層のさらに下位にあたる暗緑色細砂中から古墳時代の遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。

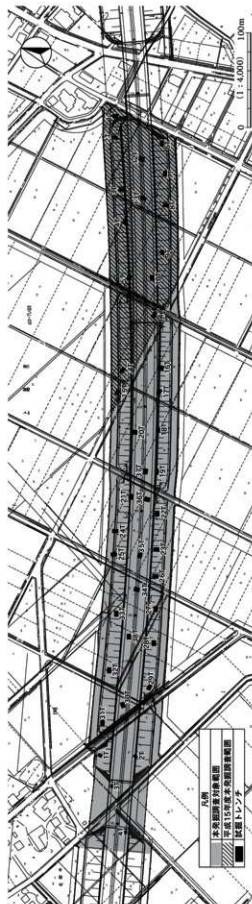
下層に関しては、30・33・34・35トレンチで縄文時代後期の遺物が出土した。遺構は確認できていない。また36・37トレンチでは、下層に相当する黒褐色土層を検出したが遺物は確認されなかった。

平成15年度

平成15(2003)年5月6日～6月17日・7月15日にかけて、埋文事業団が実施した。調査は対象範囲167,000m²に任意にトレンチを設定し、重機を使用して徐々に掘り下げ、遺構・遺物の有無、土層の堆積状況などを観察・記録する方法が採られた。調査の結果、下削遺跡に関しては、平成14年度試掘調査で確定した調査範囲に隣接する6,600m²が追加された。このほか清水田遺跡・延命寺遺跡・三角田遺跡が新たに発見された。以下では追加された6,600m²について記述する。現地表下20cmで古代・中世の遺物包含層(上層)、同30cmで古墳時代の遺物包含層(中層)が確認された。また3トレンチでは現地表下約3.4mの灰色土層で柱根が検出された。土器などが伴わないため時期の確定はされなかったが、この層は平成14年度試掘調査の下層(縄文時代後期)と同一層である可能性が高いと判断された。



第1図 試観測帯トレンチ位置図



第2図 本年度観測帯位置図(平成15年度)

上層は全てのトレンチで土師器・須恵器・珠洲焼が確認された。出土量的には土師器・須恵器が多く、珠洲焼は2点出土したのみである。遺構は土坑・ピット・溝と考えられる遺構が検出された。また1・3・4トレンチでは、上層の確認面に相当する土層からも古代・古墳時代後期の遺物が出土した。

中層は2・3トレンチで古墳時代後期と思われる土師器が確認された。これらの土器は2トレンチでは現地地表約1mで、3トレンチでは同60cmで出土しており、出土位置に差があることから、河川跡による落ち込みの可能性も指摘された。遺構は検出されなかった。

下層に関しては、その有無を上・中層の本発掘調査終了後に再調査し判断することになった。

2) 本発掘調査

平成15年度(以下、今年度)の調査区は、平成14年度(以下、昨年度)調査区の下層にあたり、古墳時代の調査を行う調査区をA地区、A地区の西隣中世の調査を行う調査区をB地区(第5図)と呼称した。遺構番号は調査年03と遺構略号を合わせた上で、A地区は1~1000、B地区は1001以降を使用した。また掘立柱建物は03SB001から03SB011の番号を付した。

A 地区

4月14日から0.7m³の重機を使用し、調査員の指示のもと、V層掘削を開始した。5月1日から作業員(80人)を投入し、I~III区(第5図)の包含層掘削を開始した。5月中旬より土坑・溝などの遺構調査を行った。I区は遺物の出土量が多く、礎板のある掘立柱建物(03SB001)も検出された。6月上旬からはIV~VI区の調査に入り、III~IV区にかけて飯田川の旧流路と考えられる河川跡(03旧河川1)を、V区では総柱建物(03SB002)を検出した。IV~VI区の調査と平行して、7月下旬にVII~VIII区の包含層掘削を開始し、溝や土坑の調査を行った。9月5日にはA地区の航空写真撮影を行った。航空写真撮影後、9月上旬より0.7m³の重機を使用し、03旧河川1の掘削を行った。調査方法は、安全面を考慮し、大グリッドごと、大別層位ごとに掘削し、その土の中から遺物を取り上げる方法を探った。

B 地区

5月12日より表土・包含層を0.7m³の重機を使用し掘削した。5月下旬より作業員を投入し、I・V区(第5図)の遺構精査を開始した。I・V区では、掘立柱建物・井戸などが検出された。6月下旬から順次II~VII区の調査を行った結果、I・V区に遺構が集中し、III・VII区以西は遺構分布が希薄になる傾向が確認できた。そこで18列の水路以西については、9月から0.4m³の重機を使用しトレンチ状に掘削した。そして、その範囲を人力で精査し、遺構を記録した。

またB地区のうち、A地区に接する600m²について中層(古墳時代)の調査を行うことが決定し、9月上旬より0.7m³の重機を使用しV層掘削を開始した。同時に作業員(20人)を投入し、包含層掘削を開始した。この追加部分では土坑・溝などが検出され、畿内系のタタキ甕が多く出土した遺構も確認された。B地区の航空写真撮影は9月5日と10月21日に行った。

現地説明会は8月30日に行った。遺構の実測は、断面図の実測・遺物出土状況図以外の平面図測量を業者に委託した(例言参照)。なお、覆土が単層で、径30cm、深さ30cmに満たない中世の柱穴については、断面図を作成していない。

3) 調査体制

試掘調査（平成14年度）

調査期間 平成14年4月15日～5月8日

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

総 括 黒井 幸一（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）

管 理 長谷川司郎（同 総務課長）

庶 務 高野 正司（同 主任）

調査総括 岡本 郁栄（同 調査課長）

調査指導 高橋 保（同 国土交通省担当課長代理）

調査担当 尾崎 高宏（同 班長）

調査職員 田中 一穂（同 嘱託員）

試掘調査（平成15年度）

調査期間 平成15年5月6日～6月17日・7月15日

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

総 括 黒井 幸一（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）

管 理 長谷川二三夫（同 総務課長）

庶 務 高野 正司（同 主任）

調査総括 藤巻 正信（同 調査課長）

調査指導 田海 義正（同 国土交通省担当課長代理）

調査担当 尾崎 高宏（同 班長）

調査職員 田中 一穂（同 嘱託員）

本発掘調査（平成15年度）

平成15年度は発掘業務を委託した業者からも調査員を参加させ、調査を行った。

調査期間 平成15年4月7日～11月21日

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

総 括 黒井 幸一（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）

管 理 長谷川二三夫（同 総務課長）

庶 務 高野 正司（同 主任）

調査総括 藤巻 正信（同 調査課長）

調査指導 田海 義正（同 国土交通省担当課長代理）

調査担当 山崎 忠良（同 班長）

調査職員	金子 正宏	(同	主任調査員)
	椿 一之	(同	主任調査員)
	今井 勇雄	(同	主任調査員) 6月～8月
	笹川 隆	(同	主任調査員) 6月～8月
	田村 良照	((株) 吉田建設埋蔵文化財事業部調査員)	5月～10月	
	松井 智	((株) 吉田建設埋蔵文化財事業部調査員)	4月～6月	
	継 実	((株) 吉田建設埋蔵文化財事業部調査員)	11月	

B 整理作業と整理体制

1) 整理作業

遺構図面の整理及び出土遺物の水洗・注記・接合・復元・実測・拓本作業は、調査現場で本発掘調査と並行して行った。遺物は固化できる最低限の復元を行った。11月下旬から巻町に整理所を設け、報告書掲載遺物の復元、遺物の写真撮影、図版作成、原稿の執筆を行った。

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
水洗	■											
注記	■											
接合・復元		■										
実測					■							
拓本							■					
遺物写真撮影								■				
図版作成								■				
原稿								■				
校正									■			

第3図 整理作業の経過

2) 整理体制

整理期間 平成15年11月22日～平成16年3月31日

整理主体 新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一）

整理 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

総括 黒井 幸一（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）

管理 長谷川二三夫（同 総務課長）

庶務 高野 正司（同 主任）

整理総括 藤巻 正信（同 調査課長）

整理指導 田海 義正（同 国土交通省担当課長代理）

整理担当 山崎 忠良（同 班長）

整理職員 金子 正宏（同 主任調査員）

椿 一之（同 主任調査員）

継 実（(株) 吉田建設埋蔵文化財事業部調査員）

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 遺跡周辺の地理的環境

下割遺跡は、新潟県上越市大字米岡字下割 1,205 番地ほかに所在し、高田平野のほぼ中央を南から北に流れる飯田川中流部左岸の自然堤防上に立地している。標高は上層で 13.5～13.8m、中層で 12.6～13.5m を測る。

下割遺跡の立地する高田平野は、新潟県西部に位置する堆積平野である。その北側を録取のように海岸と平行して、長さ約 20km にわたり潟町砂丘が発達し、海岸と平野を区画している。北東部は米山 (993m) をはじめとする米山山地が柏崎平野との境をなしている。南東から北東部にかけては東頸城丘陵によって区画され、その東頸城丘陵を挟んで、高田平野の南東方には、信越国境をなす菱ヶ岳 (1,129m)、鍋倉山 (1,289m) などが連なる関田山脈がそびえている。また、西側から南側にかけては西頸城山地に囲まれる。北から鉢巻山 (412m)、南葉山 (949m)、重倉山 (1,029m)、大毛無山 (1,429m) などの山々がそびえ、火打山 (2,462m)、妙高山 (2,446m) へと続く。高田平野には、これらの三方を囲む山から多くの河川が流入している。平野を形成する最大の河川は、西頸城山地南部に源流をもつ関川である。関川は妙高山東麓をぬけて、片貝川・矢代川・正善寺川など西頸城山地西部から流れ出す河川を合流しながら北流して日本海へそそぐ。東頸城丘陵東部からは保倉川が流れ出し、西流して南東部から流れ出す飯田川と合流して、河口付近で関川にそそぐ。南東部からは樺池川・大熊川が流れ出し、平野部南西よりの地域で関川と合流する。高田平野の南西部から南東部にかけては、飯田川・樺池川・大熊川・関川・矢代川などの河川が運搬してきた堆積物によって形成される扇状地が発達している。これらの扇状地と平野北縁の潟町砂丘を除けば、高田平野の大半は氾濫原性低地で占められる。氾濫原性低地は上位の高田面、下位の関川面、関川兩岸の関川氾濫原面に区分されており、大半が高田面により占められる。高田面は礫層と砂層・シルト層の互層からなる高田層によって形成される沖積面で、縄文海進期に貫入した海水域が埋積されたものと考えられている。現在においても平野北東部、大潟町の潟町砂丘の背後には、旧大潟をはじめ朝日池・鶴ノ池などが潟湖として、その痕跡を残している。また、高田面上の河川沿いの地域や旧河道に沿った地域には、河川が繰り返して洪水を起こすことによって形成された自然堤防が発達している。特に飯田川や保倉川に沿った地域で顕著である。

下割遺跡に隣接する米岡集落は、飯田川が扇状地から北に屈曲した先の左岸に位置する。大正～昭和初期にかけて県による河川改修工事が行われる以前、飯田川は米岡集落付近で複雑に蛇行していた。米岡付近に限らず飯田川は蛇行と流路の変更を繰り返し、その度に自然堤防が形成・拡大された。そして、その上が集落や畑地として、背後に広がる氾濫原性低地が水田として利用されてきた。米岡も旧河道の自然堤防上に立地する集落で、標高は 15m を測り、周囲に畑地と林地を有する。遺跡は集落の西側、標高 14.5m の水田から発見された。周辺の現水田は飯田川の流れに沿って下流方向 (北) と離岸方向 (西) に向かいなだらかに傾斜しており、支流や用水路もこの 2 方向で流れている。なお、上越市教育委員会の調査では、耕地整理の際に旧自然堤防を削平して水田化した例も報告されており [菅澤 ほか 1999]、遺跡周辺の環境は、現代の河川改修やほ場整備、道路整備などによりかなり改変されている。

2 遺跡の分布と歴史的環境 (第4図)

遺跡の分布と歴史的環境については『新潟県埋蔵文化財調査報告書第120集 下割遺跡1』[山崎ほか2003]に詳しいので、「A 周辺遺跡の概要」については一部訂正・加筆し、「B 周辺の水利環境」についてはそのまま引用した。

A 周辺遺跡の概要 (第4図・第1表)

下割遺跡に関する古墳時代から中世までの遺跡を中心に以下で概観する。

縄文～弥生時代

縄文時代の遺跡は東頸城丘陵や西頸城山地上に立地するものと、潟町潟湖群周辺に立地するものとに分けられる。沖積地での縄文時代の遺跡はごくわずかであるが、本遺跡の平成14年度試掘調査で現地地表下3.5～4mで縄文後期の土器が確認された。沖積層に縄文時代の遺跡が埋没している可能性が考えられる。

弥生時代の遺跡は潟町潟湖群周辺、西頸城山地東縁に立地するが、関川流域の沖積地(高田平野中央部)での分布は薄い。飯田川下流域でも例外ではなく、本遺跡(平成12年上越市教育委員会発掘調査[大居2002]、以下、市教委調査)以外に弥生時代の遺跡は確認できていない。

古墳時代

沖積地に立地する遺跡では、前期で子安遺跡や中島廻り遺跡[小島1991]、中期では月岡遺跡などが見られる。一方、後期に入ると古墳数が飛躍的に増加し、丘陵上や段丘上に立地するものに加えて、山麓の沖積地に立地する群集墳が高田平野の南西部と南東部に多数見られるようになる。飯田川上流でも国史跡水科古墳群・同宮口古墳群・水吉古墳群・北方古墳群が周知されている。他方、集落遺跡の確認例は平野部・丘陵部ともに少ない。古墳の数に対して集落遺跡数が少ないことから、多くの遺跡が沖積層に埋没していると期待されてきたが、近年、ほ場整備事業などに伴う調査が本格化するにつれ、いくつかの遺跡が発見されている。

No.	遺跡名	時代区分	No.	遺跡名	時代区分
1	下割遺跡	古墳～中世	24	灰塚古墳群	古墳
2	中島廻り遺跡	弥生・古墳・平安・中世	25	津合田遺跡	古墳
3	子安遺跡	弥生・古墳～近世	26	前田遺跡	古墳
4	下新町遺跡	奈良・平安	27	八幡遺跡	古墳・奈良・平安・中世
5	今池遺跡	古墳・奈良・平安・中世	28	杉野倉遺跡	平安
6	本長者原慶寺	平安	29	竜石遺跡	平安
7	月岡遺跡	古墳	30	道珍野遺跡	平安
8	水吉古墳	古墳	31	下馬場古家跡	古代
9	水科古墳群	古墳	32	向橋遺跡	奈良・平安
10	宮口古墳群	古墳	33	大貫古家跡	平安
11	北方古墳群	古墳	34	滝寺古家跡	平安
12	高士古墳群	古墳	35	今熊2号古家跡	平安
13	菅原古墳31号	古墳	36	神田長峰2号家跡	平安
14	大塚古墳	古墳	37	神田長峰1号家跡	平安
15	塚之宮古墳	古墳	38	神田高山古家跡	平安
16	谷内林古墳群	古墳	39	末野古家跡	平安
17	梨ノ水古墳群	古墳	40	本郷古家跡	奈良～平安
18	天神堂古墳群	古墳	41	横曾根Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡	中世
19	観音平古墳群	古墳	42	越田遺跡	中世
20	吉田古墳群	古墳	43	中島古原敷遺跡	中世
21	稲荷山古墳群	古墳	44	水久保遺跡	中世
22	南山古墳群	古墳	45	堂太遺跡	弥生
23	黒田古墳群	古墳	46	吹上遺跡	弥生

第1表 周辺の主要な遺跡(第1表と第4図の番号は対応する)



第4図 位置と周辺の遺跡 (1 : 100,000)

(国土地理院 1 : 50,000 「神崎」平成10、「高田東部」平成11、「高田西部」平成13原図)

本遺跡に近い飯田川下流域でも、津倉田遺跡〔笹澤^{ほか}前掲〕・前田遺跡・北割遺跡など、前期の遺跡が調査されている。特に津倉田遺跡では、本遺跡でも確認できている畿内系のタタキ甕や布留甕が認められる。また本遺跡の南西約3.5kmの戸野目川流域に位置する中島廻り遺跡〔小島前掲〕でも、前期の良好な資料が得られている。

古 代

古代になると高田面上の、特に自然堤防上に遺跡が多く分布するようになる。関川沿いでは今池遺跡群〔坂井^{ほか}1984〕や本長者原廃寺〔小島^{ほか}1984〕など、国府や国分寺との関連が考えられる遺跡も調査されている。本遺跡（上層）もそれらの遺跡とほぼ同じ標高（15m弱～18m弱）にあるが、飯田川左岸では本遺跡より上流で古代の遺跡がほとんど見つからない。これは、この地域で遺跡を確認する機会が少ないことも関係しており、今後の調査が待たれるところである。

平安期の遺跡はいずれの流域においても中～下流にかけて多数分布するが、飯田川流域も本遺跡のすぐ下流で杉野袋遺跡・竜石遺跡・道珍野遺跡などの遺跡が発見されている。この時期に平坦な沖積面である高田面に遺跡が多数見つかるようになるのは、高田面の完全な離水が平安時代以降である〔高田平野団体研究グループ1980〕ことと関連付けられることが多い。しかし、汀線の推移などの詳細な研究はむしろ多くの遺跡の発掘調査を待たなければならないため、本遺跡付近の離水と水田の拡大、遺跡の成立年代の関係は現時点でははっきりしない。

この他、本遺跡と関連するところでは古窯跡が挙げられる。本遺跡の西8～10kmの南西部、丘陵上に上流から下馬場古窯跡・向橋窯跡・大貫古窯跡・滝寺古窯跡などが点在し、本遺跡の北東約5kmには末野古窯跡群が東頸城丘陵の山麓線に集中して見ついている。これらの窯跡出土の須恵器と集落遺跡出土の須恵器との関連は本遺跡の性格を検討する上でも注目される。

中 世

中世になると城館跡や塚、墳墓、廃寺跡などが特徴的に見られるようになる。越後府中として栄えたこの地方の変遷を検討する上で、史料研究と併せて、これらの遺跡の発掘調査が行われてきた。しかし、本遺跡に関わるような史料は多くはない。関川と飯田川の間に広がっていた公領が平安後期以降私領地化して郷や保とよばれる国衙領になっていく過程で、本遺跡近くの本道・真砂・津有といった地名が見られる〔高橋1999〕程度である。しかし、これら郷・保は、その位置・範囲は不明なものの、中世を通して存在しており、集落遺跡との関連は無視できない。遺跡の分布傾向に関しては、城館跡や廃寺跡などは直江津周辺に多く位置する傾向がある。集落遺跡など、これ以外の遺跡は自然堤防上に立地する傾向が強く、城館跡や廃寺跡の分布とは対照的である。

本遺跡の北東約11kmには樋田遺跡が位置する。掘立柱建物や井戸を伴う一辺60～70mの方形の区画がいくつか集まり集落を形成しており、本遺跡と類似する。遺物は13世紀から15世紀のものが出土している。このような集村化の傾向を示す集落は、近年、高田平野東部の頸城村（水久保遺跡など）や吉川町（樋田遺跡・樋田遺跡など）で調査例が増えつつあり、中世集落を考える上で貴重な成果をもたらしている。また、本遺跡の北西約3.5km重川の自然堤防上には横貫根Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡が位置する。検出された遺構（幅3～6mの溝が40～50mの規模で巡る）や遺物から、樋田遺跡などに代表される集落とは異なり、居館的な性格が考えられる。

B 周辺の水利環境

本遺跡は東縁を中江用水と接している。中江用水は延宝（1673～1681）年間に高田城主松平光長の藩営事業として、江戸より河村瑞軒を顧問に招き、家老小栗正矩が指揮を執って開発した用水と伝えられている。飯田川左岸末端の水利改善と新田開発を目的とした事業であるが、普請や水利の取り決めの度に米岡の肝煎の名も見える。しかし、この水路は昭和22（1947）年に米軍が撮影した空中写真では確認できない。大正8（1919）～昭和6（1931）年の県による飯田川改修工事の後、昭和19（1944）～28（1953）年にかけて県営中江用水改良工事が行われ、直線化した飯田川に平行する現在の水路が造られた。それを受けて昭和32（1957）年からは団体営による耕地整理事業が随時実施され、一帯は現在の景観になっている。明治29（1896）年の『中頸城郡諏訪村大字米岡更正図』によれば、遺跡周辺の道路・水路は現在よりも多く、現存するものも現在とは若干ずれた位置を通っている。また、字名も「下割」ではなく、遺跡付近が「権現堂」、西隣が「大坪田」である。米岡集落在住の川上環氏によれば、この付近の水利権も県営事業以前は中江用水ではなく重川用水であったという。

重川用水は、中江用水開削以前からある飯田川左岸地域を灌漑する用水であり、古墳群のある東頸城郡牧村宮口と北方の間から分岐する重川に水源を負っている。また、その重川そのものが用水路として開削され、時間の経過とともに侵食が進んで自然流路のようになったという〔池田1967〕。『慶長二年越後国絵図』では「わうま川」（現、飯田川）から分岐する人工的な重川が見られ、その先に重川用水及び真砂堰（現、上真砂）が掲載されている。

『慶長二年越後国絵図』には米岡を含む周辺集落が現在の大字名のまま掲載されている。また、同絵図の記載によると、米岡の検地高534余石は中江用水域52ヶ村の中で2番目、本納高283余石は3番目の高さを誇っており、隣接する鶴町も高い生産力（検地高874余石は1番目、本納高277余石は4番目）を示していることから、この付近の農業生産力が当時すでに相当高い水準にあったことが窺える。

海岸に向かってなだらかに傾斜していく飯田川左岸は、右岸に比べて水利のよい場所であり、扇状地扇端の水田開発とあまり時期を違えずに水田化が進んだ可能性もある。これら水田の成立時期の違いは水利権の優先順位と関連することが多いが、その関係を示す水争いの史料には未だ十分な考察が加えられていない。それら史料の整理が、遺跡調査の成果とともに飯田川水系の集落展開を検討する上で重要となろう。

第三章 調査の概要

1 グリッドと調査区の設定 (第5図)

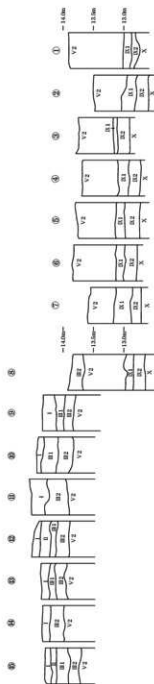
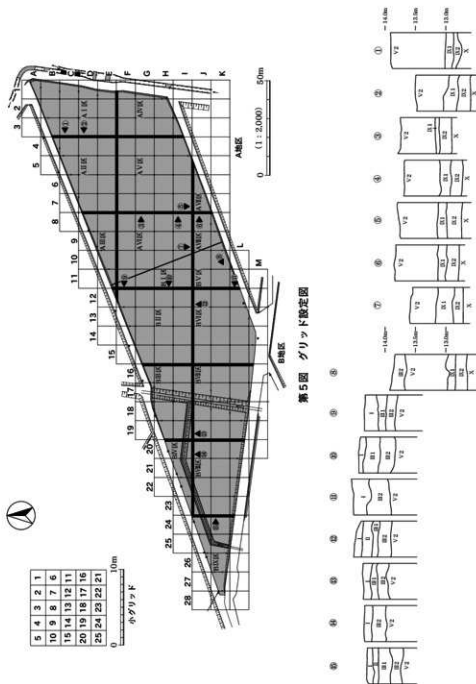
グリッドは国家座標を基準として10m方眼を組んで大グリッドとし、大グリッドを2m四方に25等分したものを小グリッドとした。グリッドの呼称は北から南をアルファベットの英文字、東から西を算用数字を用い両者の組み合わせで「5D」などと表した。なお、杭の呼称は、各大グリッドの北東杭にその大グリッドの呼称を付した。小グリッドは各大グリッドの北東隅を1、南西隅を25となるように番号を付し、「5D15」などと表した。今年度の調査区では、昨年度と同様に5D杭の座標値が「世界測地系 X=125800.658, Y=-16350.947」を示す。調査区については、昨年度調査区の下層で、古墳時代の調査を行う地区をA地区とし、A地区西隣の中世の調査を行う地区をB地区（一部、古墳時代の層も調査）とした。また、発掘調査区は南北方向に6本、東西方向に2本の土層観察用のセクションベルトを設定し、それにより区画された調査区を便宜上、A地区ではIからVIII区に、B地区ではIからIX区に分けて、「A III区」などと呼称した（第5図）。

2 基本層序 (第5・6図)

遺跡は飯田川左岸の自然堤防上に立地する。標高は、A地区古墳時代の面では地表下およそ1.5～2mの12.6～13.5m、B地区中世の面では地表下0.5～1mの13.5～13.8mである。調査前の現況は水田で平坦な地形を呈するが、旧来は現在の米岡集落付近を中心に標高が高く、南西側に向かいなだらかに傾斜する地形であったことが、市教委調査で確認された〔大居2002〕。今年度の調査では、古墳時代には河川が流れ、河川両岸が自然堤防となり標高が高く、その後背地となる北東側と南西側に向かいなだらかに傾斜する地形であったことが確認できた。

以下に基本土層を記すが、今年度はIV層、VI～VII層は確認できなかった。また調査の過程で、昨年度古墳時代の遺構確認面とした「X層」からも遺物が出土することが判明した。そこで昨年度の「IX層」をIX I層に、「X層」をIX 2層に改め、IX 2層の下の層をX層（確認面）とした。

- I 層……………黒褐色土。粘性あり。しまりあり。植物根を含む。耕作土に相当する。
- II 層……………灰オリーブ色粘質土。粘性あり。しまりあり。酸化鉄を全面に含む。
- III 1層……………オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。古代～近世の遺物包含層。
- III 2層……………黒褐色粘質土。粘性あり。しまりあり。径2mm程度の礫、炭化物を少量含む。古代～近世の遺物包含層。
- IV 層……………黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。基本的には無遺物層である。
- V 1層……………明青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。V 2層に褐鉄鉱を含む。
- V 2層……………明青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。古代・中世の遺構確認面。
- VI 層……………暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。古墳時代～古代の遺物包含層。



- Ⅶ 層………オリブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。酸化鉄をまばらに含む。古墳時代～古
代の遺物包含層。
- Ⅷ 層………灰オリブ色粘質土。粘性あり。しまりややあり。酸化鉄をまばらに含む。古墳時代～古
代の遺物包含層。
- Ⅸ Ⅰ層………黒褐色粘質土。粘性あり。しまりあり。古墳時代の遺物包含層。
- Ⅸ Ⅱ層………青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。古墳時代の遺物包含層。
- X 層………オリブ灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。古墳時代の遺構確認面。

3 遺構・遺物の検出状況

A 古墳時代（第7図・第3表）

古墳時代ではまず、1Gから8Dにかけて旧河川（03旧河川1）が検出された。確認面の微地形は、河川の両岸に自然堤防が形成され標高が高く、その背後はゆるやかに傾斜する。検出された遺構には掘立柱建物・井戸・溝・土坑・旧河川などがあり、多くは自然堤防上、特に標高13m以上の地点に立地する傾向がある。遺構の検出は、覆土の色調とX層の色調が区別しにくいことなどから、困難をともなった。そこで遺物や炭化物の分布、わずかな色調差を手がかりに検出を進めた。また遺構の掘削も、トレンチを入れて断面で掘り形を確認しながら行った。

掘立柱建物は旧河川の両岸に1棟ずつ検出されたが、いずれも自然堤防上の標高約13mの地点に構築されていた。そのうち03SB001は2D・2Eに位置し、周辺には03SK41などの遺構が確認できる。03SB001の北側1Aから3Cにかけての傾斜地からは多くの土器が出土している。自然堤防上で生活をし、不要なものを廃棄した結果と考えられる。一方7H・7Iに位置する03SB002の周辺には、溝以外の遺構はなく、土器の出土量も03SX117があるものの全体としてはあまり多くない。また03SB002南側の傾斜地からの出土も、03SB001北側のように多くはない。明確に竪穴建物と判断される遺構は検出されなかったが、03SX24はその可能性がある。03SX24は4E・5Eに位置し、北東側は昨年度調査した中世の溝に切られる。周辺に位置する03SK27などからは土器が定量出土している。03SX24に近い03旧河川1（特に4F）からは多くの遺物が出土しており、周辺で使用されたものが廃棄されたと理解できる。

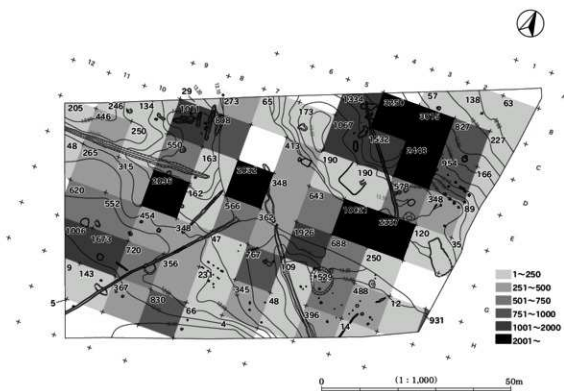
土器の出土状況については、03旧河川1の南側に比べ北側の方が出土量が多い傾向にある。この出土量の差異は、03SB001は圓柱構造で、03SB002は總柱構造であるという建物の構造の差異（性格の差異）に起因する可能性も考えられる。出土土器の時期的な傾向は、前期の土器は遺跡内のほぼ全域から出土するが、特に03旧河川1の北側に多く、中期の土器は南側に多い傾向にある。木製品に関しては、礎板・柱根以外はすべて03旧河川1から出土した。このほか石製品がA地区西側から出土した。

B 古代・中世（第4表）

古代・中世の遺構は基本的にV2層で検出できるため、ここでまとめて記述する。試掘調査の結果、V2層では、遺跡内を通る米岡新屋線以東では中世の遺構が、同以西では古代の遺構が検出される傾向が確認された。B地区確認面の微地形は、中央部分が高く、西側と北側がゆるやかに傾斜する。覆土の特徴は、古代は炭化物をやや多く含む黒色系粘質土で、中世はやや青みを帯びた黒色系粘質土であり、両者の区別は比較的容易である。遺構の検出も容易であるが、確認面での覆土が地山土の場合は検出が困難である。

古代の遺構は土坑などが確認された。03SX164の覆土上層には青灰色粘質土が堆積するため、V2層では検出できず、X層となった。03SX164からは須恵器・灰軸陶器が、03SK1315からは須恵器の横瓶が出土した。また20K・21Kに位置するピットの覆土には、上層に炭化物を含む黒色系粘質土、下層がしまりに欠ける灰色系粘質土が堆積する。両者は遺物を伴わないが、周辺に03SK1315が位置し中世の遺構は少ないこと、さらに試掘調査の結果では、16トレンチ以西で古代の遺物が確認できることから、古代の遺構である可能性が高いといえよう。以下では、これらの遺構についての個別説明は省略する。主な出土物は須恵器で、遺構や包含層から出土する。遺物の分布はB地区の東側に多く、18列以西にはあまり多くはない。遺構の分布とは対照的な傾向にある。

中世の遺構は18列以西にはほとんど分布せず、10・11列に密集する。主な遺構は掘立柱建物・井戸・溝で、溝によって区画された内側に掘立柱建物・井戸が配置される。ただし掘立柱建物・井戸は溝に区画された内側全体に分布するのではなく、掘立柱建物は11G・11I・10J・11Kに、井戸は10Iに集中する傾向にある。いずれも南側から北側にゆるやかに傾斜する地形に構築されている。掘立柱建物は比較的大型のものと小型のものが確認でき、主軸は区画溝と平行ないし直交する。遺構から出土した遺物量は多くないが、土師質土器は井戸やピットから、珠洲焼は井戸から、木製品は井戸から出土する傾向があり、銭貨は11Kからの出土が多い。なお18列以西は遺物の出土が極端に少なくなる。



第7図 古墳時代土師器片の出土数

第IV章 古墳時代の調査

1 遺構各説

B地区のうちA地区よりの600m²については9月から古墳時代の調査(中層)も行った。ここではA地区の遺構とB地区の古墳時代の遺構を合わせて記述する。土器の分類や時期に関しては第IV章2Aを参照していただきたい。なお、以下で記す遺構の規模は、確認面での規模である。

A 掘立柱建物(図版12・13・52・53)

今年度の調査で、A地区で2棟の掘立柱建物を検出した。03SB001は03旧河川1右岸、03SB002は03旧河川1左岸のそれぞれ自然堤防上に位置する。主軸は2棟ともおおむね東西方向を指す。

03SB001 1D・2D・2Eに位置する。桁行3間(5.25m)×梁行1間(3.5m)の側柱構造で、棟持柱(03SK43・03P56)をもつ掘立柱建物である。03SK43は柱筋から柱2本分外側に出る程度で、03P56は柱筋にわずかに接する程度である。方向はN-66°-Wを向き、面積は18.375m²である。柱間寸法は1.75mで、等間隔に配置される。柱穴は径44~80cmの円形や楕円形を呈し、深さは44~110cmとばらつきはあるが、03SK43のみが44cmと浅く、それ以外の柱穴の深さは80~110cmである。03SB001を構成する柱穴10基中、03SK43以外の柱穴の各底面に長さ約27~38cm、幅約17~23cm、厚さ約4~5cmの礎板(246・247)が遺存する。柱の沈下を防ぐために敷かれたものと思われる。柱穴の覆土はおおむね粘性のある黒色系覆土や灰色系覆土で、炭化物を含む。

03SB001の背後の傾斜部周辺には、廃棄されたと考えられる土器の破片がまとまって出土する土坑などが10数か所検出されている。また、掘立柱建物内に03SD44が位置するが、03SK45が03SD44に切られる。所属時期については、03SB001を構成している柱穴(03P48)から出土した土師器(1)の年代から判断して、下割II期と考える。03SB001と同様礎板をもつ掘立柱建物は上越市一之口遺跡西地区[坂井ほか1986]にもみられる。

03SB002 7H・7Iに位置する。桁行3間(4.5m)×梁行2間(4.0m)の総柱構造の掘立柱建物で、東側と西側に1本ずつ棟持柱(03P138・133)を有する。いずれの棟持柱も柱筋から柱2本分外側に出る。また、03P140・139・132・131・130は床束柱と考えられることから、高床構造と思われる。方向はN-77°-Wを向き、面積は18.0m²である。柱間寸法は、桁行が1.5m、梁行が2.0mである。柱穴の規模は03SB001より小さく、平面形は径24~60cmの円形や楕円形を呈し、深さは9~48cmとばらつきがあり、特に03P140は9cmと浅い。03P126には径約12cmの柱根が遺存する。柱穴の覆土はおおむね粘性のある灰色系覆土で、炭化物や腐植物を少量含む。03P134は03P146を切り、03P135は03P144に、03P136は03P143に切られる。03P137は03P141を切り、03P142に切られる。このように柱穴の新旧関係が確認できることから、03SB002については建て替えの可能性が考えられる。所属時期については、03旧河川1左岸にある03SD105から出土した土師器(11・12)の年代や周辺の出土遺物から判断して、古墳時代中期の可能性が考えられる。ただし前期の可能性も考えられるが、その場合でも03SB001に先行することはないと考える。

B 井 戸 (図版6・7・54)

03SE103 3G18・19・23・24に位置する楕円形の井戸である。断面形は漏斗状で、規模は長径208cm、短径160cmを測る。覆土は5層に分層でき、1・3・5層は灰色系粘質土、2層は緑黒色粘質土、4層はオリーブ黄色粘質土である。このうち2・3・5層は炭化物を含む。覆土にIX2層・炭化物を含むことなどから、人為的に埋め戻された可能性がある。出土遺物はハケ調整が施された土師器の甕A類で、古墳時代前期に比定される。所属時期は出土した土器から、前期と考える。

C 溝 (図版3・5～11・14・54～56)

A地区・B地区(古墳時代の層)では16本の溝が検出された。溝は規模と用途から次の2通りに分類することができる。1つは、03SD5や03SD44のように全長が6m以下と規模が小さく、溝と判断したが用途は不明のもので、もう1つは、03SD21や03SD71のように全長が10m以上で、排水や区画の機能を有していたと考えられるものである。

03SD5 9E8・9・13・14・15・19・20に位置する。全長568cm、幅166cm、深さ38cmの規模である。断面形は弧状でゆるやかに立ち上がる。方向はN-68°-Eを指す。覆土は3層に分層でき、1・2層は黒色系粘質土、3層は青灰色粘質土である。用途は不明である。出土遺物は土師器(2～7)で、覆土2・3層から出土している。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SD21 3F～5Cに位置する。全長39m、幅93cm、深さ42cmの規模である。断面形はU字状で立ち上がりは急斜度である。方向はN-35°-Wを指す。覆土は4層に分層でき、1・2・3層は褐色系砂質土、4層は灰褐色砂質土である。なお、覆土に砂質土が堆積することから、水路としての機能を有していたと考えたい。03SK14に切れ、03旧河川1・03SX29・31・03SK33を切る。したがって、03SD21は03旧河川1がある程度埋没して小さな流れとなった段階もしくは、完全に機能が停止した時期に構築されたと考える。出土遺物は土師器の甕・高坏であるが、細片のため図示していない。所属時期は遺構の切り合いから、下割Ⅲ期以降と考える。

03SD44 2D16・17に位置する。全長136cm、幅52cm、深さ16cmの規模である。断面形は台形状で立ち上がりは急斜度である。方向はN-88°-Wを指す。覆土は単層で、炭化物を含む黒褐色粘質土である。用途は不明である。出土遺物は土師器(8・9)である。03SB001内に位置し、03SK45を切る。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SD71 7G～10Kに位置する。全長52.8m、幅266cm、深さ90cmの規模である。断面形はV字状で立ち上がりは急斜度である。方向はN-42°-Eを指す。覆土は10層に分層でき、1～3層はオリーブ褐色粘質土、4～10層は灰色系覆土である。03SD71の03旧河川1との合流点の溝底標高と、10K10付近の溝底標高を比較すると、03旧河川1から遠ざかるほど低くなることから、03SD71が水路として機能していたのであれば、03旧河川1から水を引くための水路と考えられる。03SX77・1322・03SK1325を切り、03SK84に切れ、03SD21・105とは直交する。03SD71の幅が03旧河川1に向かって広がる形で合流することから、03旧河川1と03SD71は同時期に機能していた可能性が考えられる。出土遺物は土師器(10)である。所属時期は、遺構の切り合いや出土遺物から判断して下割Ⅱ期以降としておく。

03SD81 8F～12Fに位置する。全長41.2m、幅148cm、深さ32cmの規模である。断面形は弧状ないし台形状で、ゆるやかに立ち上がる。方向はN-88°-Eを指す。覆土は4層に分層でき、1・2層は

灰色系粘質土、3・4層は褐色系粘質土である。2～4層に炭化物を含む。03SD81の覆土には、流水によって堆積することの多い砂質土が含まれておらず、この点を重視するならば、03SD81が水路であった可能性は低いと考える。03SD81がほぼ東西方向に走っていることを考えれば、区画溝であった可能性も考えられる。出土遺物は土師器の壺などである。所属時期は出土遺物が細片のため明確にはできないが、下割Ⅱ期以降としておく。

03SD105 4I～6Gに位置する。全長31.2m、幅137cm、深さ85cmの規模である。断面形は台形状で、立ち上がりは急傾度である。方向はN-38°-Wを指す。覆土は12層に分層でき、いずれも灰色系覆土である。覆土中に砂質土の堆積が認められることから、03SD105は水路としての機能を有していたと考えるが、走向は03SD21・158とは一致し、03SD71とは直交する点に注意を要する。また、03SD158とはつながりは認められず、両者の関係は明確にし得ないが、何らかの関連は考慮する必要がある。03旧河川1との関係については、03SD105が03旧河川1を切ることから、03旧河川1が埋没した後に03SD105が構築された可能性が高いと考える。出土遺物は土師器(11・12)である。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅲ期と考える。

D 土 坑 (図版14・15・56～58)

A地区で土坑と判断した遺構は41基ある。その分布は、大半が03旧河川1兩岸の自然堤防上に認められる。規模は、長径が70～150cm、深さは40cm以下のものが主体であるが、長径が200cmを超えるものもわずかではあるが検出されている。平面形は、楕円形と円形で全体の8割を占め、その他不整形もみられる。断面形は、弧状が最も多く、台形状と合わせると全体の9割を占める。また、B地区で古墳時代の土坑と判断した遺構は1基のみである。

03SK8 11E16・17に位置し、北側を暗渠で切られる。平面形は楕円形と思われ、断面形は弧状を呈する。長さ144cm、深さ41cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は3層に分層でき、1層は暗灰色粘質土、2・3層は黒色系粘質土である。3層は多量の炭化物を含む。出土遺物は土師器(13～16)で、底面からつぶれた状態で出土した。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK17 3D14・15・19・20に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈する。長径208cm、短径126cm、深さ18cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は2層に分層でき、1層は炭化物を含む黒褐色粘質土、2層は青灰色粘質土である。出土遺物は土師器(17)である。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK22 5D11・12・16・17に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。長径284cm、短径124cm、深さ33cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は2層に分層でき、いずれも褐色系粘質土である。2層は多量の炭化物を含む。出土遺物は土師器(18～20)である。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK23 4C13・14・18・19に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。長径246cm、短径156cm、深さ22cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は4層に分層でき、いずれも褐色系粘質土である。1～3層は炭化物を含む。出土遺物は土師器(21～23)である。03SX29を切る。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK27 5D1・2・6・7に位置する。平面形は不整形で、断面形は弧状を呈する。長さ364cm、幅152cm、深さ28cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は3層に分層でき、1・3層は褐色系粘質土、

2層は灰褐色粘質土である。1・3層は炭化物をやや多く含む。出土遺物は土師器(24~33)で、覆土3層からまとまった状態で出土している。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK33 5C16・17・21・22に位置し、平面形は楕円形を呈すると思われる。断面は弧状である。長さ94cm、深さ24cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は4層に分層でき、1・2層は褐色系粘質土、3・4層は灰色系粘質土である。1層は多量の炭化物を含む。出土遺物は土師器(34)である。03SD21に切られる。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅲ期としておく。

03SK41 2D15、3D6・7・11・12に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈する。長さ360cm、短径228cm、深さ14cmの規模で立ち上がりはやや急である。覆土は3層に分層でき、1層は黒褐色粘質土、2・3層は灰色系粘質土である。2層は赤褐色土を含む。出土遺物は土師器(35~39)で、覆土2層からまとまって出土している。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅰ期と考える。

03SK67 6H2に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。長さ72cm、短径48cm、深さ18cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は4層に分層できいずれも灰色系粘質土である。4層は炭化物を多く含む。出土遺物は土師器(40)である。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK73 9H10・15に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。長さ84cm、短径68cm、深さ12cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は単層で炭化物を含む黒色粘質土である。出土遺物は土師器(41)である。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅰ~Ⅱ期と考える。

E 性格不明遺構 (図版3・5~7・11・16~19・58~61)

ここでは、調査現場で性格不明遺構と判断したもので、遺物を図示したものを中心に記述する。性格不明遺構には、確認面で掘り込みが確認できるものとできないものがある。掘り込みが確認できず、遺物が集中する箇所は、性格不明遺構として記録した後トレンチを入れて掘り込みの有無を確認した。そのため、掘り込みのあるものとないものに分かれる結果となった。

03SX24 4E・5Eに位置する。平面形は方形、断面形は弧状を呈する。規模は長さ625cm、深さ24cmを測る。北東側は昨年度調査したSD52に切られる。覆土は2層に分層でき、いずれも褐灰色粘質土である。調査中は桁や柱穴が検出されないこと、断面の立ち上がりがかゆるやかなことから性格不明遺構としたが、周辺の遺構や03旧河川1の出土遺物(特に03SX24に近い4Fの出土遺物)などを考えると、竪穴建物の可能性も否定できない。出土遺物は図示した土師器甕A類(42)ほかに、タタキ成形の甕(G類)の細片も確認できる。時期は出土遺物から下割Ⅱ期と考える。

03SX31 5C6・11・12・13に位置する。平面形は不整形、断面形は弧状を呈する。規模は長さ224cm、幅117cm、深さ18cmを測る。中央部分を03SD21に切られる。覆土は2層に分層でき、1層は褐灰色粘質土、2層は灰褐色粘質土である。出土遺物は土師器(43~48)で、比較のまとまって出土した。所属時期は出土遺物から下割Ⅱ期と考える。

03SX50 3C23・24、3D3・4・8・9に位置する。平面形は不整形、断面形は弧状を呈する。規模は長さ396cm、幅217cm、深さ18cmを測る。覆土は2層に分層できる。1層が黒褐色粘質土、2層が青灰色粘質土で、いずれも炭化物を含む。出土遺物は土師器(49・50)で、所属時期は出土遺物から下割Ⅰ期と考える。周辺には03SB001、03SD21、03SX24が位置する。

03SX52 3C13・14・18・19に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。規模は長さ339cm、幅276cm、深さ26cmを測る。覆土は3層に分層できる。1・2層が黒色系粘質土、3層が青

灰色粘質土で、いずれも炭化物を含む。出土遺物は土師器（51・52）で、所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅰ期と考える。周辺には03SB001、03SD21、03SX24が位置する。

03SX75 9I5、10H21、10I1に位置し、2.1m×1.7mの範囲に土器が分布する。掘り込みは確認できない。出土遺物は土師器（53）で、比較的細片が多い。所属時期は出土遺物から下割Ⅰ期に位置付けておく。周辺には03SX1317～1319、03SD71が位置する。

03SX77 9I6・7・11・12・21・22に位置する。平面形は楕円形と思われ、断面形は弧状を呈する。規模は長さ328cm、深さ26cmを測る。北西側を03SD71、03SK84に切られる。覆土は2層に分層できる。いずれも褐色粘質土で、炭化物を含む。出土遺物は土師器（54）で、いずれも破砕した状態で出土した。所属時期は出土遺物から下割Ⅰ期に位置付けておく。周辺には03SB002が位置する。

03SX80 9H5、10H1に位置し、2.4m×2mの範囲に土器が分布する。掘り込みは確認できない。出土遺物は土師器（55・56）で、つぶれた状態で出土したものが多く、所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。周辺には03SX75が位置する。

03SX87 9G4に位置し、1m×0.5mの範囲に土器が分布する。掘り込みは確認できない。出土遺物は土師器（57）である。個体ごとのまとまりはあるものの、摩耗した細片が目立つ。所属時期は出土遺物から下割Ⅱ期に位置付けておく。周辺には03SD81が位置する。

03SX107 4G、4H、5G、5Hに位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。規模は長径745cm、短径616cm、深さ40cmを測る。覆土は5層に分層でき、1層が褐色粘質土、2～5層が灰色粘質土である。出土遺物は土師器（58～61）で、覆土5層から一定量出土した。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅲ期と考える。周辺には03旧河川1や03SX117が位置する。

03SX117 5G12～20・22・23に位置する。03旧河川1の川岸に沿う形で、9m×4.5mの範囲に土器が分布する。掘り込みは確認できない。出土遺物は土師器（62～84）で、高坏が多い傾向にある。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅲ期と考える。周辺には03旧河川1や03SX107が位置する。

03SX165 3E16・17・21・22に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状に近い。規模は長径308cm、短径236cm、深さ35cmを測る。覆土は3層に分層でき、1・2層が明黄褐色粘質土、3層が褐色粘質土である。いずれも炭化物を含む。出土遺物は土師器（85～87）で、甕の比率が高い傾向にある。所属時期は出土遺物から下割Ⅱ期に位置付けておく。周辺には03旧河川1や03SD21が位置する。

03SX1317 11H21・22、11I1・2に位置する。平面形は不整形、断面形は台形状を呈する。規模は長さ235cm、幅210cm、深さ10cmを測る。覆土は灰白色粘質土である。出土遺物は土師器（88～111）で、一括廃棄されている。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅰ期と考える。周辺には03SX1318・1322が位置する。

03SX1318 10I10・15、11I6・11・16に位置し、5m×4mの範囲に土器が分布する。掘り込みは確認できない。出土遺物は土師器（112～121）で、細片が多い傾向にある。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅰ期と考える。周辺には03SX1317・1322が位置する。

03SX1322 10J6・7・8・11・12・13に位置する。平面形は楕円形を呈すると思われる、断面形は弧状を呈する。中央部は03SD71に切れ、北西側と南東側は暗渠に切られる。規模は短径164cm、深さ25cmを測る。覆土は2層に分層できる。いずれも灰色系粘質土で、炭化物を含む。出土遺物は土師器（122）で、底面からつぶれた状態で出土した。このほか古墳時代前期の土器が出土している。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。周辺には03SX1317・1318が位置する。

F 旧河川 (図版2～4・61)

03旧河川1 1F～8Dに位置する。断面形は弧状で、立ち上がりはおおむね急斜度となる。規模は全長80m、幅12～25m、深さ4.8mで、東側から北側に向かって大きく蛇行する。蛇行部分では川幅が広がる。覆土は11層に分層できる。おおむね灰色系覆土を主体とするが、土質によりおおまかに上層・中層・下層の3層に分けられる。上層はオリブ灰色粘質土で、シルト・炭化物を含む。1～5層が相当するが、遺物は含まれていない。中層は、上層よりやや黒味を帯びる粘質土で、火山灰・流木・酸化鉄・木炭(トチ・クルミなど)・貝類を含む。6～10層が相当し、多くの遺物を包含する。このうち遺物が出土するのは6・8・10層で、特に10層からの出土量が多い。下層は11層が該当し、少量の遺物を包含する砂層である。平面的な土器分布は、破片数比で4Fが60%弱、3Fが13%強、7Fが11%強となり、4Fの多さが目立つ。5Fでは4%弱となることから、3Fから4Fにかけての10層に川岸から遺物が廃棄されたことが想定できる。出土遺物は土師器(123～245)と木製品(249～271)で、4F中層からまとまって出土した。土師器の完形率は高い。所属時期は出土遺物から判断すると、おおむね下割Ⅱ期が下限となる。

2 遺物

A 時期の設定・器種分類

出土遺物の年代観については、川村浩司氏による上越市における土器編年[川村2000]や品田高志氏による柏崎平野における土器編年[品田1992]に加え、新潟の各地域とも大枠での対比が可能である南加賀の漆町遺跡編年[田嶋ほか1986]などとの対比を通して、下割遺跡として3時期を設定した。すなわち、古墳時代前期前半(漆町5～7群併行)、古墳時代前期後半(漆町8～10(11)群併行)、古墳時代中期(漆町12～14群併行)の3時期に分け、下割Ⅰ～Ⅲ期の名称を付した。

古墳時代の土器分類については、川村浩司氏による分類案[川村1993]に準拠し行っている。以下に、器種分類の基準(川村分類)を転載する[川村1993]。本遺跡で出土しなかった類型については説明を除外した。また、出土遺物のうち、古墳時代前期以外のものや小型品などについては類別不可能なものが存在し、それらについては器種名のみを記している。出土遺物の出土量については、口縁部残存率計測法を用い遺構単位で器種組成を求め、破片数は遺構も含め大グリッド単位でカウントし、その結果を第7図・第3表に示しているので参照されたい。なお、甕・壺の破片数については、両者の完全な識別は現実的に困難であり、多少の前後はあるものと思われる。

甕A類：口頸部断面形態が、「く」字状もしくは、逆「コ」字状を呈するもの。

B類：口頸部断面形態が、有段で、口縁部外面が無文なもの。

E類：東海系の「S」字状口縁で台付のもの。

F類：山陰系の有段口縁甕。

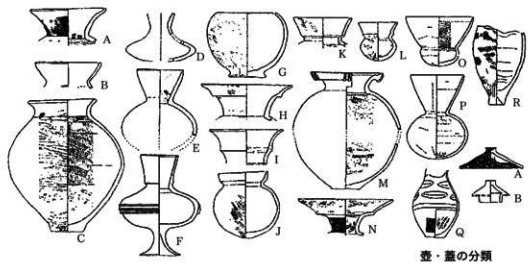
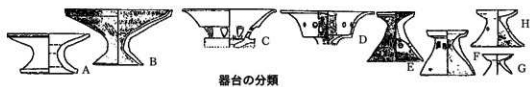
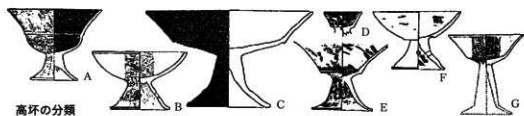
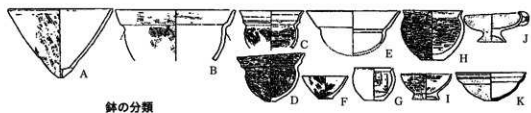
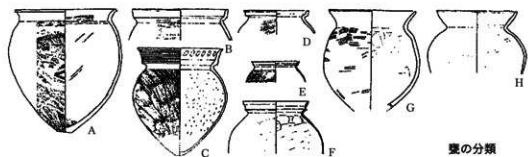
G類：近畿系のタタキ甕。

H類：畿内布留の丸底のもの。

鉢A類：底部有孔の鉢。

C類：有段口縁、球胴で、ハケ調整を残すなど、D類に比べ、「粗製」であるもの。中・小型品。

E類：有段口縁で浅い体部を有するもの。



第8図 古墳時代土師器の器種分類図（[川村1993]より一部改変の上掲載）

- G類：小型短頸鉢で非精製のもの。
 H類：小型短頸鉢で精製のもの。
 I類：碗状にゆるやかに立ち上がる体部で、低台を有するもの。
 高坏B類：坏部が浅い碗状を呈するもの。
 C類：大型で、浅い坏部を有し、坏部外面に稜をもつもの。
 F類：東海系高坏。坏部上半が内彎する。坏部外面には稜を有する。脚部は内彎しながら開くが、在地との折衷品では外反しつつ開くものもある。
 G類：畿内系高坏。
 器台C類：装飾性の高い有透器台。
 D類：深い受け部をもつもので、円形の透かし孔を有するものもある。
 F類：受け部が有段の小型器台で、上段がほぼ直線的にのびるもの。
 G類：受け部が有段で、上段が外反し、端部がすぼまり気味の小型器台。
 H類：受け部が内彎する小型器台。
 壺A類：広口で、口縁が外反するもの。
 B類：口縁が内彎し、球胴に近いもの。
 H類：広口で有段口縁のもの。
 I類：細口で有段口縁を呈し、口縁部下段が長いもの。
 K類：細口で有段口縁を呈し、口縁部下段が短いもの。
 L類：K類の小型品。
 M類：東海系二重口縁壺。
 N類：畿内系有段口縁壺。
 O類：畿内系小型罎。
 P類：畿内系長頸壺。
 蓋A類：つまみを有し、下端内側にかえりを持たないもの。

B 遺構出土の遺物 (図版34～45・72～80)

1) 土 師 器 (図版34～41・72～77)

掘立柱建物 (1)

掘立柱建物の各柱穴中より土器片が少量出土したが、図示得たのは03SB001を構成する03P48覆土1層から出土した高坏F類1点(1)のみである。坏部が欠損するため類別不能であるが、広く開く脚部形態を呈する。所属時期は不詳だが、下割Ⅱ期に位置付けるのが適当であろうか。

溝 (2～12)

03SD2・4・5・6・21・44・71・79・81・105からは覆土中より土器片が出土した。器種別に見た出土比率は壺が全体の73%を占め、以下、高坏12%、壺8%、鉢・碗6%、器台1%となる。また、壺G類の小片が03SD79から1点出土している。遺物は小片が多く、図示し得たのは03SD5・44・71・105の4条と少ない。なお、03SD5・81ではややまとまった量の土器片が出土しており、03SD5では供献土器の出土比率がやや高い点が特徴として挙げられよう。

03SD5 (2～7) 図示し得たのは覆土2・3層から出土した壺A類2点(2・3)・F類1点(4)、高坏

G類1点(5)、小壺1点(6)、鉢1点(7)である。2・3はいずれも単純口縁である。器壁は肥厚気味で口頸部の屈曲は比較的ゆるやかである。4は有段口縁の甕である。体部は球体状を呈し、底径は6cmと大径である。6は器面のミガキが認められない粗製品である。口縁部が欠損しており形態が不明であるが、壺O類に近似する平底の小型壺であろうか。7は精製品で外面は赤彩、口縁部には3個一組の穿孔が認められる。出土遺物の時期は各遺物の形態からみて、下割Ⅱ期の所産と思われる。

03SD44(8・9) 図示し得たのは覆土1層から出土した小型甕(8)、壺A類(9)各1点である。これらのほかには甕の口縁部片なども出土しているが、図示し得るものではない。8は口頸部が急角度で立ち上がる形状を呈し、体部下位には部分的にタール状のススが付着している。9は口縁部がラッパ状に開く器形となる。直接比較できる資料が少なく時期的な詳細は窺い知れないが、恐らく下割Ⅱ期の所産と思われる。

03SD71(10) 遺物量は僅少で、そのほとんどが甕の破片で占められる。図示し得たのは覆土上層から出土した甕A類1点(10)のみである。壺や高環の破片もわずかに見られるが、図示し得るものではない。10は「く」字状に口頸部が屈曲し、ほぼ垂直に立ち上がり口縁部は外反する。時期は口頸部形態からみて、下割Ⅱ期以降の所産である可能性が高い。

03SD105(11・12) 遺物量は僅少で、そのほとんどを甕の破片が占めるが、完形の碗が1点(12)、覆土3層中から出土している。器面調整は体部はナデ、底部はヘラケズリが施される。口縁部には2個一組の穿孔が両側対に設けられる。このほかには、甕A類を1点(11)図示し得た。口頸部の屈曲は比較的ゆるやかで、単純口縁である。12はその形態からみて、下割Ⅲ期の所産と思われる。

土坑(13~41)

遺物の出土を見たのは、03SK8・17・18・22・23・27・30・33・41・42・59・62・64・65・67・73・75・76・78・83・92・102・124・152・153で、出土遺物はいずれも土器である。出土比率を器種別にみると、甕が全体の84%と圧倒的で、以下、高環8%、壺6%、器台1%、鉢1%となる。甕G類が一定量含まれているのが特徴的で、出土量は土坑から出土した甕の1.5%を占めている。図化し得るものは少なく、実測図を掲載し得たのは、03SK8・17・22・23・27・33・41・67・73の9基にとどまる。甕G類は03SK27・41・76・78などで破片が出土しており、特に03SK76では同一個体と思われる破片約30点が出土している。

03SK8(13~16) 甕破片を主体に、高環、壺、鉢などの小片が少量出土している。これらのうち、図示し得たのは甕A類3点(13~15)、高環G類1点(16)である。甕はいずれも単純口縁で、口頸部は「く」字状に屈曲し、やや直線的に立ち上がる。16は脚部形態が柱状を呈する畿内系高環で、時期は下割Ⅱ期の所産であろう。環・脚はそれぞれを接合した後、粘土塊で底部を充填する方法が採られる。

03SK17(17) 覆土中から甕片が多数出土したが、図示し得たのは甕A類1点(17)のみである。口頸部はゆるく外反し、口縁端部にはわずかに面取りの形跡が窺われる。下割Ⅱ期の所産であろうか。甕のほかには器台の小片が1点出土しているのみである。

03SK22(18~20) 甕破片を主体に、壺、高環、鉢などの破片が少量出土しているが、図示し得たのは壺H類(18)1点、高環1点(19)、鉢E類1点(20)であり、遺存状態はいずれも悪い。18は仕上げの悪い有段口縁壺で、器壁は肥厚しややぼつりする。19は残存部分が少なく分類不可能であるが、少なくとも柱状脚ではない。20は体部の浅い鉢で、底部は平底である。各々の形態から、これらの遺物は下割Ⅱ期の所産と思われる。

03SK23 (21~23) 出土遺物の大半は甕の破片で、他には高環や器台といった供献土器や壺、鉢の小片がわずかにみられるのみである。甕は検出された破片のほとんどが同一個体と思われるが、復元し得るものではない。21は甕A類である。口頸部の屈曲は比較的ゆるやかで、単純口縁である。鉢A類(22)は尖り気味の底部に直径約1cmの円孔が穿たれる。器台脚部(23)は外面が赤彩され、透孔は4個均等に穿たれる。各々の形態から、これらの時期は下割II期に位置付けられよう。

03SK27 (24~33) 出土した破片点数は多量で、甕、壺、高環などの遺物が出土している。各器種とも大半は同一個体が破砕したものである。これらのうち、図示し得たのは甕A類2点(24・25)、壺H類1点(26)、器台H類2点(27・28)、高環G類1点(29)、鉢A類2点(30・31)・E類1点(32)・G類1点(33)であり、完形品はない。甕は口頸部の屈曲が比較的ゆるやかで、やや強い外反傾向を示すもの(24)と、口頸部が直線的で、やや上方に引き出されるもの(25)が出土している。口縁はいずれも単純口縁である。器面は内外面とも摩耗が著しく、調整痕は観察し得ない。26は口縁部内面にやや強い稜を有する。鉢A類は30が尖底、31はややゆるく丸底に近い形態を呈する。孔径は、30が直径1cm、31が直径5mm前後である。E類(32)は有段口縁で浅い体部を有し、丸底である。器面には丁寧なヘラミガキが施される。G類(33)は粗製のなつくりである。出土遺物は、各遺物の形態からみて、下割II期の所産と思われる。

03SK33 (34) 出土遺物は図示した柱状の高環G類脚部1点(34)のみである。脚部の製作技法は古墳時代中期のものにみられるヘラシボリ成形である。胎土は供献土器としては砂質で粗いものが用いられる。下割III期の所産であろう。

03SK41 (35~39) 非常に多くの土器片が出土したが、その多くは破砕した同一個体とみられる。土器片の主体をなすのはやはり甕であり、ほかに少量の壺や高環の破片が続く。これらのうち、図示し得たのは甕A類(35)と壺L類(36)が各1点、高環C類1点(37)と脚部1点(38)、鉢A類1点(39)である。35は口頸部が直線的に立ち上がり、口縁部は単純口縁である。36は口縁の段が形態化しつつある。各々の遺物の形態からみて、これらの遺物は下割I期の所産と思われる。

03SK67 (40) 覆土中から甕、高環の破片を主体とする土器片が出土したが、図示し得たのは高環G類1点(40)のみである。下割II期の所産であろうか。

03SK73 (41) 出土遺物は少量で、図示し得たのは高環F類の破片1点(41)のみである。口縁部、底部ともに欠損しているため、形態的には不明な点が多い。時期は、下割I期頃の所産であろうか。

性格不明遺構 (42~122)

遺物の出土を見たのは03SX12・24・25・28・29・31・34・50・52・57・66・75・77・80・87・88・107・117・160・165・1317・1318・1319・1320・1321・1322で、遺物は全て土器である。このうち実測図を掲載し得たのは03SX24・31・50・52・75・77・80・87・107・117・165・1317・1318・1322の14基である。全体的に遺物の出土量は多めで、特に03SX117・1317では顕著である。器種ごとの出土比率ではやはり甕が圧倒的で、全体の84%を占める。また03SX1317をはじめ03SX25・57・75・77・80・88・1318・1319・1320・1321と多くの遺構から甕G類が出土し、出土量的にもSX出土甕の6%近くを占める。他器種の出土量は壺6.5%、高環7.4%、器台1%、鉢もしくは椀1.4%、蓋0.2%となっている。いずれの器種もその大半は図化し得ない小片であり、遺物実測図を掲載し得た遺構は限られる。

03SX24 (42) 出土遺物の大半は甕で、ほかに壺や高環、鉢の破片が数点含まれる。図示し得たのは

甕A類1点(42)のみである。口頸部の屈曲は比較的ゆるやかで、口縁端部の面取りのみみられないが、器形は上方に向かって引き出される傾向を維持している。時期は下割I期であろう。

03SX31(43~48) 出土遺物の大半は甕であるが、壺や高坏の破片も少量存在する。遺物は全て覆土中から出土し、そのほとんどが1層に含まれる。図示し得たのは甕A類2点(43・44)、蓋A類1点(45)、器台1点(46)、高坏2点(47・48)である。甕は口頸部が「コ」字状に外反するもの(43)とやや上方に向かって立ち上がるもの(44)があるが、口縁端部の面取りはみられない。高坏、器台に関しては全体形を窺うことができるものが皆無であり類別不能であるが、脚部形態は全て外反するもので占められ、畿内系柱状脚のものはみられない。いずれも器面の摩耗により、調整痕や赤彩の有無などは確認し得なかった。時期判別に有効な遺物が少なく詳述し得ないが、これらの遺物はおおむね下割II期の所産と思われる。

03SX50(49・50) 覆土1・2層中から甕を主体に、少量の壺、器台が出土している。いずれも細片であり、図示し得たのは甕B類1点(49)、器台1点(50)と少ない。49は弥生時代後期以来の有段口縁甕である。口縁部の屈曲は比較的ゆるやかで形態化しつつある。50は口縁、底部とも欠損しており全体形は把握し得ない。49の編年の位置付けから、遺物の時期は下割I期の所産と思われる。

03SX52(51・52) 出土遺物は壺と器台脚部の破片が少量2層中から出土しており、各々1点を図示した。壺A類(51)は口頸部が「く」字状に屈曲し、口頸部はゆるく外反する。口縁端部はわずかに面取りされる。胎土は砂粒を多く含むものの、きめ細かい比較的精良なものが用いられるが、器面のミガキは施されていない。器台(52)は付け根部分が直線的で、やや段をもつように広がる脚部形態を呈する小型器台で、透孔は3個均等に穿たれる。時期判断に足る遺物が僅少であるが、52の脚部形態は古墳時代前期中葉を降ることはないと思われ、下割I期に位置付けるのが適当かと思われる。

03SX75(53) 掘り込みは確認できず、遺物は全てIX2層からの出土である。そのうちの90%は甕、ほかに壺、高坏、器台、鉢などの破片が少量みられる。また、甕G類の出土量が多いのも特徴的で、甕出土量の20%を占める。図示し得たのはその甕G類1点(53)のみである。口頸部は「く」字状に屈曲し、直線的に立ち上がる。タタキ目はあまり明瞭ではないが、口頸部との境から体部にかけてみられる。内面の調整はヘラナデで当て具の痕跡はない。また、胎土は在地の製品に用いられるものと同じで、砂粒を多く含むが比較的精製されたものである。53の時期は、甕G類がおおむね漆町5~7群に位置付けられるので、下割I期の所産とする。

03SX77(54) 遺物は全て覆土中から出土した。出土量の80%は甕であり、ほかに壺、高坏、器台、鉢、蓋などの破片が少量みられる。甕G類の出土は少量であるが、遺存状態の良好な破片があり、図示し得たのはその1点(54)のみである。口頸部は直線的に上方を意識したような立ち上がりみせ、体部から口頸部にかけての屈曲は、特に内面では顕著で、稜をもつ。タタキ目は口頸部との境から体部にかけてみられ、境目から頸部にかけては部分的にハケ調整が加えられる。内面の調整はヘラナデで当て具の痕跡はない。胎土は53と同様で、在地の製品と同様のものが用いられる。54の時期は、53と同じく甕G類の位置付けから、下割I期の所産と思われる。

03SX80(55・56) 出土遺物の70%強は甕であり、ほかに壺、高坏、器台、鉢などの破片が少量みられる。図示し得たのは甕H類(55)、壺H類(56)各1点である。甕はG類も出土しているが図示し得るものではない。55はH類、つまり布留甕である。器壁は薄いのが全体の仕上げはやや粗く、胎土も在地の製品にはみられない石英や砂粒が目立つ非精製のものが用いられる。器面の調整は内外面ともに摩耗に

より明瞭ではないが、外面は口頸部ナデ、体部ハケ（ヨコハケ）、内面は口頸部、体部ともにヘラケズリと思われる。56はH類に分類される広口の有段口縁壺である。口縁部下端の段は、内面では形態化しつつある。出土遺物の時期は、糞H類の口頸部形態からみて、下割Ⅱ期に位置付けられよう。

03SX87 (57) 掘り込みは確認できず、遺物は全てIX2層から出土した。遺物の80%弱は糞であるが、図示し得る破片がなく、図版に掲載し得たのは壺1点(57)のみである。57はN類に分類される畿内系有段口縁壺である。胎土はきめ細かいものを用いられ、外面はヘラミガキの後、赤彩される。下割Ⅱ期の所産と思われる。

03SX107 (58～61) 遺物は全て覆土中から出土し、特に5層に集中する。糞が全体の約80%を占め、高坏、壺、器台、鉢が続く。供献土器は高坏・器台あわせて全体の10%強を占め、比率の上ではやや多い傾向を示す。図示し得たのは糞A類2点(58・59)、高坏F類(60)・G類(61)各1点で、全て5層から出土した。58は口頸部が上方に向かって立ち上がる傾向にはあるものの、単純口縁で器壁は肥厚気味である。59は全体形を復元し得た数少ないものの一つである。口頸部の屈曲は比較的明瞭で、口縁端部は面取りされる。体部は倒卵形を呈し、底部は直径約2cmと尖底に近い。器面調整は内外面とも口頸部はナデ、体部はハケ・ヘラナデである。61は畿内系高坏で、脚部柱状部は下方に向かってやや膨らむ。器面の摩耗により調整の様子は観察し得なかった。出土遺物は61の形態からみて下割Ⅲ期の所産としておく。

03SX117 (62～84) 掘り込みは確認できず、遺物は全てIX1層から出土した。遺物量は多い。糞がやはり他を凌駕し、全体の約70%を占める。また、供献土器、特に高坏の出土量が多く、全体の20%弱を占める。残存状態についても良好なものが多く出土し、高坏は完形に近いものが4点出土した(70～73)。以下、器種ごとに掲載したものを中心に説明を記す。糞(62～65)は体部以下を復元し得るものがないため全体形は不詳であるが、基本的には全てA類である。口頸部の形態については、単純口縁で、外反、又は直線的に立ち上がるものが大半で、ほかに63のような口頸部の断面形が「コ」字状を呈するものが少量ある。壺(66～69)は体部最大径が10cm前後と小型品が目立つ。67・68は器面のミガキが認められない粗製品である。口縁部が欠損しており形態が不明である。68はP類であろうか。69はP類に分類されるやや長めの頸部を持つ小型壺で、体部中央が張り出すソロバン玉のような形態を呈する。ほぼ完全に復元された。高坏(70～84)はほとんどがG類で占められ、F類は1点(82)を図示するとどまる。G類は中央部がやや膨らむ脚部形態のものが目につく。この形態のものは、完形品に近いものが4点(70～73)出土したほかにも、脚部破片で3点あり、それらがほぼ同一形態をもつという非常に一括性の高い遺物群である。高坏についてはこのほかに、坏・脚部ともに有段形状を呈する大型高坏(83・84)が出土している。これらの遺物は、高坏の形態からみて下割Ⅲ期の所産と思われる。

03SX165 (85～87) 出土遺物は全て覆土中からの出土である。全体の90%を糞が占め、ほかに高坏、鉢、器台などが少量みられる。このうち、糞A類2点(85・86)、高坏1点(87)を図示した。85は口頸部が若干「コ」字状に外反し、口縁部はわずかに面取りされる。87の高坏は形態不明で分類し得ない。脚部形態は底部に向かって外反し、透孔が3個均等に穿たれる。出土遺物の時期は、下割Ⅱ期に位置付けられよう。

03SX1317 (88～111) 覆土中から2000点前後と多量の遺物破片が得られ、そのほとんど(98%)が糞破片で占められる。G類が非常に多い(糞出土量の20%)のが特徴で、破片中に少なくとも底部破片7個体、口縁部破片11個体を確認し、口縁部については全て掲載した。糞のほかに壺、高坏、器台、

鉢などが少量出土し、装飾器台といった特徴的なものもみられる。以下、器種ごとに、掲載したものを中心に説明を記す。

甕は前述のG類のほか、A類に属するものが出土している(88~94)。単純口縁のものが主体をなす一方で、88のような前代の影響を色濃く残す、口縁部が面取りされ口縁端部がわずかに上方に積み上げられるものも存在する。G類(95~107)は口頸部が「く」字状に屈曲する器形であるが、口頸部が外反しながら立ち上がるもの(97・98など)と、直線的、あるいは口縁部がわずかに内彎するかたちで立ち上がるもの(96・99・104など)の2種類が認められる。胎土にもやや砂っぽく硬質に焼き上がるものと、粉質できめ細かく砂粒を多く含むものの2種類がみられるが、一見した限り両者とも在地の胎土である。タタキ目は体部に限定され、頸部にかかるものは皆無である。中には体部をタタキ締めた後に口頸部を製作したとみられる個体も認められ(96・97・99など)、製作技法に興味を覚える。107では底部付近にタタキ目が認められる。

器台は、いわゆる装飾器台の範疇に含まれるD類1点(110)、H類1点(111)が出土している。110は器受部に直径5mm程度の円孔が等間隔で穿たれ、その数は復元すれば8個と推定される。器面の調整は器受部外面のみヘラミガキが施される。脚部はヘラケズリのままであるが、表面の化粧土が剥落している可能性もある。その脚部には透孔が3個均等に穿たれる。

甕G類や器台D類といった特徴的な出土遺物の編年の位置付けや、弥生時代後期に系譜を辿れる甕(88)などの存在から、出土遺物の時期は下割I期とする。

03SX1318 (112~121) 覆土中から甕を主体とする土器が出土している。甕の出土量は全体の80%強、次に高坏が10%と続き、残る10%を壺、鉢、蓋などが占める。以下、器種ごとに図版に掲載したものを中心に説明を記す。

甕はA類(112・113)と少量のG類(114~116)で占められるが、図示し得たのはG類の方が多い。A類は口頸部の屈曲が比較的ゆるやかで、口縁端部の面取りされたものは皆無である。G類には口縁端部が内側にわずかに肥厚する、布留甕を意識したかのような形態のものがあり(116)、本遺跡ではほかに例をみないものである。体部と口頸部の接合はやや粗雑で、体部のタタキ目が口頸部に潜り込むという03SX1317出土品と同様の製作技法が採られるものである。なお、胎土はやはり在地品と同質のものが用いられている。壺はH類を1点図示し得た(117)。口縁部の段は形骸化しておらず、古墳時代前期でも古相を呈するものである。蓋は残存率の良いA類2個体(118・119)が得られた。118は直径約10cm、119は直径約14cmで外面はヘラミガキされる。高坏(120・121)は2点ともF類で、脚部には透孔が3個均等に穿たれる。胎土には精製されたきめ細かいものが用いられる。遺物はその形態からみて、下割I期の所産と思われる。

03SX1322 (122) 出土遺物は少量で、大半は覆土2層中から出土した。全体の90%強は甕(A類)で、基本的には破砕した同一個体である。図示したのはその甕(122)で、口径30cm、器高33cmを測る大型品である。口頸部は「く」字状に屈曲し、口縁端部は面取りされる。体部は中位に最大径を持ち、球体状を呈する。このほかには壺と鉢の小片が若干量出土したが、いずれも図示し得るものではない。122の時期は、下割II期に位置付ける。

03旧河川1 (123~245)

覆土中から大量の遺物が出土している。覆土は上・中・下層に大別されるが、当該期の遺物は中層以下で出土し、更にその90%以上が中層に集中する。出土地点としては、河道が東西方向に流れている部分

に遺物の出土がみられ、グリッドとしては、4Fを中心に遺物の集中が認められる。器種別では、遺構と同じく甕の出土量が全体の82%と他を凌駕しており、壺(12%)、高坏(4%)がそれに続く。このほかにも、器台、鉢、蓋などが少量出土している。以下、出土層位、器種ごとに説明を記す。

中層出土土器(123~229) 甕はA・B・E・F・G・H類という、形態的にも時期的にも幅広い遺物が出土している。A類が大半を占め、少ないながらもG類が一定量含まれる。このほかE類、F類、H類といった外来系の器種は遺跡全体としても出土が稀少なものである。A類には123・124・146といった前代の影響を色濃く残すものをはじめ、口縁部が面取りされるものが一定量存在する。体部形態が不明なものも多く断定し得ないが、これらのものは体部もあまり球体化の進まないものとみられ、下割Ⅰ期の所産と思われる。同時期のものとしては、ほかにB類(131・132)、E類(129)、G類(139~142)が挙げられる。129は胎土に金雲母が含まれ、器壁は非常に薄い。図示したもののほかにも体部や脚部の破片が中層より出土している。G類は他の遺構で出土したものと同じく、胎土は在地品と同様のものが用いられ、口頸部形態にはいくつかのバリエーションが認められる。タタキ具に関しても、条痕の間隔が広いもの(141)と狭いもの(140)の最低2種類が認められる。タタキ具の痕跡は体部上半に限定され、下半はハケ調整のみとされるようである。一方、A類の大型品(143~147)を中心とするもの、F類(130)、H類(133~138)は下割Ⅱ期に比定されるものである。A類とした146は体部にヘラケズリが施されるという、ほかのA類にはみられない特徴を有する。F類は7Fから1点出土したのみで(130)、口縁部形態から下割Ⅱ期と思われる。H類も03旧河川1のほかに03SX80に1点(55)みられるのみである。135は器壁も薄く、胎土には金雲母が含まれる。体部の調整はタテハケの後、肩部にヨコハケが加えられる。内面はヘラケズリがなされる。こういった特徴から搬入品の可能性が極めて高いと言えよう。このほかのH類に関しては、口縁端部の肥厚がほとんどみられないものの存在(137)、体部のハケ調整に同一性が認められないなどの点からその出自は不明である。時期的にはH類総体としては下割Ⅱ期段階に併行するものと思われる。

壺は在地の系譜であるA・B・H類に加え、外来系のM・N・P類、類別不可能なものとして山陰系のもの(158)などがみられる。出土量的に主体を占めるのはA類(153~156)である。いずれも口頸部の屈曲は明瞭で、頸部はやや長めのものが目立つ。体部形態はほとんど不明であるが、B類(157)とともにやや下膨れのが確認されている。H類(148~152)では口縁段部の明確なもの(148・151)とそうでないもの(150・152)、頸部の長いもの(148・152)と短いもの(149~151)など、細部形態のバリエーションが豊富である。149はK類とするのが適当かもしれない。N類(159~163)の出土は少ないが、器面の調整はいずれも丁寧なヘラミガキが施され、160・163は外面及び口頸部内面が赤彩される。体部は球体状を呈する。159は口縁部下端に円形刺突が巡り、赤彩は認められない。M類は遺構からの出土をみなかったものであるが、ここでは複数個体が確認されている(164~167)。164・165・167は緑帯状の口縁部に2個一組の棒状浮文が貼り付けられ、器面調整は丁寧なヘラミガキが施される。また東海系の壺としては、パレス系統(赤彩なし)の壺が1点出土している(166)。肩部には突帯が貼り付けられ、意匠として刺突や刻みが施される。P類は、良好な残存状況を呈するものが多く出土した結果、図版上ではやや目立つ存在となっている(168~173)。胎土は供献土器に通じる精製されたきめ細かいものが用いられ、焼成は硬質である。171を除き赤彩される。このほか168もP類の可能性がある。時期的には幅広いものが出土している。壺総体として概観すれば、下割Ⅱ期段階のものを中心に、上限は下割Ⅰ期あたりとなろうか。

高坏はF類(175～183)を主体に、G類(185～187)が一定量出土し、B類が1点(184)みられる。在地の系譜である北陸系の高坏は基本的に存在しないが、弥生時代後期法仏式期のものが1点みられる(174)。174は口縁部が水平に近く外反する器形の高坏で、内面にはS字と刺突を組み合わせたスタンプ文が巡らされる。また192は台付甕の脚部である可能性が考えられるが、台付甕自体、本遺跡ではS字甕以外には存在しないため高坏として扱った。高坏全般として、胎土は精製されたきめ細かいものが用いられ、器面調整は丁寧なヘラミガキが施される。赤彩されるものは少なく、3点のみ図示した(184・188・193)。高坏の時期は壺と同じく下割Ⅱ期段階のものを中心に、上限は下割Ⅰ期となる。

器台はH類(194～201)を主体として、東海系小型器台G類(202・203)、在地の系譜であるF類(205・206)、装飾器台C類(207～209)・D類(204)が一定量含まれる。H類には、口縁端部が面取りされるものが2点みられるが(195・196)、そのほかは単純口縁である。基本的には装飾器台を除き、小型器台で占められる。胎土は精製されたきめ細かいものが用いられ、器面調整は丁寧なヘラミガキが施される。器台の時期は、他器種と同じく下割Ⅱ期段階のものを中心に、上限は下割Ⅰ期に収まる。

小型品については図示し得る個体が多数出土している(210～229)。鉢E・G・H・I類、小型丸底甕である壺O類などがみられるが、分類したものも含め、既存の分類に当てはまらないものが数多く存在する。また、細片としては鉢A類も存在する。鉢の器形として最も多くみられるのは球体あるいは小径の底部をもった短頸のもので、大半がミガキ調整が施される。有段のものは1点とわずかである(218)。212・213は器面のミガキが認められない粗製品で、口縁部が欠損しているため形態が不明であるが、残存部の形態から壺L類の可能性が。227・229は平底状の鉢であるが、碗というべきものかも知れない。口縁端部は面取りされ、体部外面はヘラミガキが施される。これらの時期は、他器種と同じく下割Ⅱ期が主体をなしていると考えられる。

下層出土土器(230～238) 図示し得たものは壺5点(230～234)、蓋1点(235)、高坏1点(236)、鉢2点(237・238)と少ない。甕はA類とG類を中心に破片が多数出土しているが、図示し得るものはない。以下、器種ごとに説明を記す。壺は弥生時代後期に比定されるものが3点(230・232・233)存在する。また、中層のものとは別に東海系パレス壺が1点(231)出土している。肩部には櫛状工具による波状文が巡る。このほかには、P類1点(234)が出土している。蓋A類(235)はほぼ完形に近いものであるが、器面は摩耗しており調整は不明である。高坏B類(236)は浅い碗状を呈する坏部に在地の流れを汲むやや幅の広い脚部がつくもので、基本的には東海系高坏の影響を受けたものと考えられる。鉢はA類(237)とH類(238)各1点を図示したが、下層にはほかに鉢の破片はほとんどみられない。237は器壁がやや厚く外面底部のヘラケズリは雑である。下層の遺物は下割Ⅰ期を下限とする時期のもの realistically 存在するものの、総体的に見て、中層出土のものより明確な時間差があるとは断定し得ない。

層位不明土器(239～245) 旧河川で出土したもののうち、層位不明ではあるが図示し得るものを提示した。ここで目を引くのは壺O類3点(241～243)で、いずれも胎土、仕上げともに精製されたものである。時期は下割Ⅱ期に併行するものであろう。

2) 木製品(図版42～45・78～80)

木製品は全て遺構から出土し、そのうちのほとんどが03旧河川1からである。03旧河川1出土以外の木製品は、03SB001の礎板(246・247)と03P1323出土の柱根(248)である。

03SB001 (246・247)

完形の礎板2点を図示した(246・247)。出土した礎板は全て柱根が当たる部分が加工されて、方形の凹みが生じられる。その当たり部分の大きさから、柱は約15cm四方と類推される。礎板は柱穴10基中9基で確認できたが、分析の結果、樹種は全てオニグルミであった(第VI章)。246には中央縦方向に溝が確認でき、他の部材から転用された可能性がある。時期は03SB001と同じ下割II期である。

上越市一之口遺跡西地区でも古墳時代の掘立柱建物から礎板が出土している〔坂井^{ほか}前掲〕。その礎板は柱根が置かれる面が平坦に成形されており、246・247とは形態が異なる。

03P1323 (248)

248は柱根と思われ、下端が尖る。

03旧河川1 (249～271)

中層・下層から多くの木製品が出土している。遺跡出土木製品のほとんどが03旧河川1から出土したもので、その大部分が破損して器種・用途を明確にできない。これらの木製品は03旧河川1出土土器の年代から、おおむね下割I～II期の所産と思われる。以下では、層位ごとに記述する。

中層出土木製品 (249～265) 249は中央が円形に凹み、線条痕が認められる。底板の可能性はある。250は横方向に4条の溝が作出される板状の部材である。251は面取りされ、棒状を呈する。断面は円形に近い。252は正裏面に2か所ずつ孔が穿たれる棒状の部材である。253は円周に沿って1条の溝が設けられる。円周の端部は削られ、丸く仕上げられる。254は柄を削り出し、先端が板状に加工されている。先端部には穿孔の痕跡が残る。255には、図示したもののほか破片がいくつか確認できたが、接合はしなかった。復元すると幅約12cm、長さ34cm以上になる。上端には両側から把手状にやや大きめの孔が設けられ、裏面は若干反る。256は杭で、10面の面取りが確認できる。257の上端はV字状に加工され、下端は尖る。258は弓か魚取網の柄と思われる。枝状の自然木の先端に加工が施される。259は棒状を呈し、両端に挟りがある。260の上端はほぞ状に加工される。261は槽と呼ばれる容器で、底面に削り出しの脚がある。262・263は箱状木製品の側板である。側板の小口を斜めに削り、穿孔し、紐を通し箱状に接合すると思われる。264は板状を呈し、下端に孔が設けられる。265は下端部が両側面から斜めに切り取られ、線条痕が認められる。

下層出土木製品 (266～268) 266は自然木の先端のみが球状に加工される。267には径約1cmの孔が等間隔に穿たれる。268は板材の先端を尖らせ、裏面はゆるく凹む。

層位不明木製品 (269～271) 269は254と形態が共通し、先端に穿孔の痕跡が残る。270は262・263と同様の箱状木製品の側板で、下端を欠損する。271は40cm×35cmの板材の四辺に4か所ずつ穿孔が確認できる。田下駄であろうか。

C 包含層出土の遺物 (図版46・81)

包含層出土の遺物には土師器と石製品がある。土師器は出土層位に分けたうえで、器種ごとに掲載した。器種は甕・壺・高坏・器台・鉢がある。

1) 土師器 (図版46・81)

IX1層出土 (272～291) 甕はA類にほぼ限定できる(272～279)。器面の風化が著しく調整を窺い知るものは少ないが、272の外表面には縦方向のハケ調整が施される。そのほかはナデが施されるものが多

い、時期については、下割Ⅱ期のものがほとんどである。壺は282がK類に、283がM類に分類できるほかはH類である。283の口縁にはボタン状貼付文が付され、内外面はナデが施される。H類の口縁有段部は、稜が不鮮明な傾向にあり、内面の段もほとんど確認できない(280)。282は口縁端部に向かい大きく開く器形になる。高坏はG類を1点図示した(284)。坏部外面下位には不鮮明な稜をもち、脚部はほぼ直線的に伸びると思われる。器台はG類(286)とH類(285・287～289)が確認できる。290は不明である。286は受け部が有段で、脚部には波状文と横位沈線が施される。291は鉢A類で時期は明確にし得ない。IX1層出土土器は、各器種とも、下割Ⅱ期の所産が多くⅠ期の所産は少ない。

IX2層出土(292～315) 壺は298がB類である以外はA類にほぼ限定できる。292の口縁端部は上方につまみ上げられ、面をもつ。298の口縁は有段で、端部は丸くおさまられる。292・298とも下割Ⅰ期の所産である。壺はM類(306)とH類(299～305)が確認できる。306の口縁には2個一対で、やや幅広の棒状浮文が付される。下割Ⅰ期の所産である。303～305は口縁内面の段が不明瞭で、口縁端部に向かい大きく開く器形になる。おおむね下割Ⅱ期に併行しよう。307は山陰系の有段口縁壺である。外面の稜は比較的明瞭で、口縁部は直立する。蓋は1点図示した(308)。A類と思われる。高坏はG類を2点図示した(309・310)。309は坏部外面下位に不鮮明な稜をもち、310の内面には輪積み痕が残る。309・310とも下割Ⅱ期の所産である。器台はH類(311・312)が確認でき、313～315は不明である。311・315は内外面とも赤彩される。IX2層出土土器は、各器種とも、下割Ⅱ期の所産が主体的ではあるが、Ⅰ期の所産も一定量確認できる。

2) 石 製 品 (図版46・81)

石製品は2点出土した。316は碧玉で、8H15から出土した。周辺には03SB002や03SD71が位置する。法量は長さ2.52cm、幅0.92cm、孔径0.37～0.40cm、重さ2.76gで、石材は凝灰岩である。両端から穿孔される。317は勾玉の未成品と思われるもので、10G6から出土した。周辺には03SD81が位置する。法量は長さ4.46cm、幅1.81cm、厚さ1.18cm、重さ16.95gで、石材は滑石である。裏面に比較的平坦な面を持つことなどから、本来は紡錘車として使用されたものと思われる。使用の結果破損した紡錘車を、勾玉に転用しようとしたものと思われる。表面に稜が残る。下割Ⅲ期所産の可能性はある。

第V章 中世の調査

1 遺構各説

ここでは、今年度検出したA地区の中世の遺構も合わせて記述する。それらは、03SE72・82・94・104・108・109・110・111・113、03SK84・150、03P85・86・89・95・96・97・98・99・101・112・114・115・116・117・162・163であるが、昨年度調査した遺構と同一遺構と判断されるものがある。すなわち、03SE104はP41、03SE108はSK209、03SE109はSK227、03SE111はP500とそれぞれ同一遺構で、性格は井戸である。以下の説明では昨年度の遺構番号を用いることにする。なおA区検出の03SX164は古代の遺構で、20K・21Kに位置する土坑やピットも古代の遺構である可能性がある。

A地区の中世の遺構数は今年度調査分も含め、掘立柱建物14棟、土坑53基、井戸33基、溝26条、ピット423基となる。

A 掘立柱建物 (図版23～31・65・66)

掘立柱建物は9棟確認できた。昨年度の調査では、比較的大型の掘立柱建物と小型の掘立柱建物を確認できたが、今年度の調査でもこの傾向が確認できた。03SB003～010が大型の建物で、03SB011が小型の建物である。これらの掘立柱建物はSD51・282・03SD1278・1285に囲まれた11G・11I・10J・11Kに集中しており、建物の主軸はこれらの溝と平行ないし直交する関係にある。また柱根の遺存する柱穴も確認できる。周辺に位置する遺構や昨年度調査した掘立柱建物と形態・規模がほぼ共通することから、中世の掘立柱建物と判断する。

03SB003 10K、11J、11Kに位置する。桁行3間(6.3m)×梁行1間(3.5m)の掘立柱建物である。方向はN-18°-Eを向きSD52と平行する。面積は22.1m²である。柱間寸法は約1.8～2.3mで、柱穴は径約27～72cmの円形や楕円形を呈し、深さは約20～60cmを測る。03P1139・1167の覆土にはV2層が含まれる。03SB004と重複する。

03SB004 10K、11Kに位置する。桁行3間(6.5m)×梁行1間(3.6m)の掘立柱建物である。方向はN-20°-Eを向きSD52と平行する。面積は23.4m²である。柱間寸法は約2～2.6mで、柱穴は径約28～42cmの円形や楕円形を呈し、深さは約15～53cmを測る。03P1152・1159の覆土にはV2層が含まれる。03SB003と重複する。

03SB005 11G、11Hに位置する。桁行3間(6.1m)×梁行1間(2.4m)の掘立柱建物である。方向はN-68°-Wを向きSD52と直交する。面積は14.6m²である。柱間寸法は約2～2.2mで、柱穴は径約31～47cmの円形や楕円形を呈し、深さは約24～53cmを測る。03P1054・1077には柱根が遺存し、03P1054の覆土にはV2層が含まれる。03SB006と重複する。

03SB006 11G、11Hに位置する。桁行3間(5.9m)×梁行1間(3.0m)の掘立柱建物である。方向はN-19°-Eを向きSD52と平行する。面積は17.7m²である。柱間寸法は約1.8～2.3mで、柱穴は径約30～48cmの円形や楕円形を呈し、深さは約20～79cmを測る。03P1017・1040・1058・1070

には柱根が遺存し、03P1017・1040の覆土にはV2層が含まれる。03SB005・007と重複する。

03SB007 11Gに位置する。桁行3間(5.3m)×梁行1間(2.4m)の掘立柱建物である。方向はN-69°-Wを向きSD52と直交する。面積は12.7m²である。柱間寸法は約1.6~2.1mで、柱穴は径約25~53cmの円形や楕円形を呈し、深さは約20~69cmを測る。03P1056・1111には柱根が遺存し、03P1001・1004・1009の覆土にはV2層が含まれる。03SB006と重複する。

03SB008 10I, 10J, 11Jに位置する。桁行3間(8.0m)×梁行1間(3.3m)の掘立柱建物である。方向はN-24°-Eを向きSD52と平行する。面積は26.4m²である。柱間寸法は約2.1~3.5mで、柱穴は径約29~61cmの円形や楕円形を呈し、深さは約26~85cmを測る。03P1163の覆土にはV2層が含まれる。03SB009と重複する。

03SB009 10I, 10J, 11I, 11Jに位置する。北東側の柱穴は暗渠によって壊されていると思われることから、桁行3間(6.0m)×梁行1間(3.3m)の掘立柱建物と判断した。方向はN-25°-Eを向きSD52と平行する。面積は19.8m²である。柱間寸法は約1.7~2.3mで、柱穴は径約33~36cmの円形や楕円形を呈し、深さは約21~37cmを測る。03SB008と重複する。

03SB010 11H, 11Iに位置する。北東側の柱穴は暗渠によって壊されていると思われる。また桁行2間×梁行1間の掘立柱建物とするには、本遺跡検出の桁行2間×梁行1間の掘立柱建物よりも規模が大きいため、桁行3間(復元で7.7m)×梁行1間(3.8m)の掘立柱建物と判断した。方向はN-17°-Eを向きSD52と平行する。面積は復元で29.3m²である。柱間寸法は約2.4~2.8mで、柱穴は径約27~65cmの円形や楕円形を呈し、深さは約23~67cmを測る。03P1086・1185・1240の覆土にはV2層が含まれる。

03SB011 10I, 11Iに位置する。桁行2間(2.0m)×梁行1間(1.7m)の掘立柱建物である。方向はN-74°-Wを向きSD52と直交する。面積は3.4m²である。柱間寸法は約0.9~1.2mで、柱穴は径約24~37cmの円形や楕円形を呈し、深さは約25~52cmを測る。03P1181・1222・1223の覆土にはV2層が含まれる。

B 井 戸 (図版31~33・66~70)

井戸は全部で16基あり、全て素掘りである。比較的小型のものが多く、昨年度調査したSE210のように径が150cmを超える井戸は確認できなかった。また井戸の分布は、A地区では4H周辺に、B地区では10I周辺に偏在する傾向にある。昨年度の調査でも、4Hや5Hの周辺に掘立柱建物や井戸が多く分布する傾向が確認された。B地区でも10I・11I周辺には掘立柱建物が多く位置する傾向にある。周辺の遺構や出土遺物から中世の井戸と判断する。

P41 3H14に位置する円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は径76cm、深さ57cmを測る。覆土は灰色系粘質土である。

SK209 4H14・15に位置する井戸で、平面形は方形に近い。断面形は台形状で、規模は長さ65cm、幅60cm、深さ27cmを測る。覆土は3層に分層でき、いずれも灰色系粘質土である。出土遺物は木製品(327・328・箸)である。327・328は覆土上位から出土した。

SK227 5H1・6に位置する楕円形の井戸である。断面形はU字状にちかく、規模は長径61cm、短径48cm、深さ62cmを測る。覆土は暗オリブ灰色粘質土である。出土遺物は木製品(曲物の底板)で、底面近くから出土した。

P500 5G21、5H1に位置する円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は径70cm、深さ74cmを測る。覆土は5層に分層でき、いずれも灰色系粘質土である。昨年度の調査では瀬戸美濃が出土した。

03SE72 9H7・12に位置する円形の井戸である。断面形は袋状に近く、規模は径83cm、深さ71cmを測る。覆土は6層に分層でき、1層は暗褐色粘質土、2～6層は灰色系粘質土である。2～5層は褐色粘質土を多く含む。出土遺物は木製品(329)で、底面から出土した。

03SE82 8F25に位置する楕円形の井戸である。断面形はU字状で、規模は長径72cm、短径62cm、深さ63cmを測る。覆土は5層に分層でき、2・3層は黒褐色粘質土、1・4・5層は褐色系粘質土である。

03SE94 4H19・24に位置する楕円形の井戸である。断面形はU字状で、規模は長径73cm、短径61cm、深さ69cmを測る。覆土は3層に分層でき、いずれも灰色系粘質土である。特に3層は円礫を多く含む。水の濾過を意図したものであろうか。出土遺物は木製品(330)で、覆土下層から出土した。

03SE110 4G24に位置する楕円形の井戸である。断面形は袋状に近く、規模は長径74cm、短径68cm、深さ84cmを測る。覆土は4層に分層でき、1～3層は灰色系粘質土、4層は灰オリーブ粘質土である。出土遺物は木製品(331・332・著)である。いずれも覆土3層と4層の間くらいから出土した。

03SE113 4H4・5・9・10に位置する楕円形の井戸である。断面形は半円状で、規模は長径176cm、短径173cm、深さ55cmを測る。覆土は5層に分層でき、1～3・5層は灰色系粘質土、4層は褐灰色粘質土である。出土遺物は木製品(333・著)で、覆土下層から出土した。

03SE1117 10K9に位置する楕円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径70cm、短径66cm、深さ139cmを測る。覆土は6層に分層でき、1・5層は灰色系粘質土、2～4・6層は黒色系粘質土である。2・4層は炭化物を、6層は腐植物(松葉)を多量に含む。出土遺物は土師質土器(318)や珠洲焼(319～321・喪)で、覆土1・2層からの出土が多い。

03SE1176 11I21に位置する楕円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は長径88cm、短径62cm、深さ76cmを測る。覆土は3層に分層でき、いずれも黒色系粘質土である。出土遺物は木製品(曲物)で、底面より出土した。

03SE1193 11J2に位置する楕円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は長径94cm、短径84cm、深さ134cmを測る。覆土は6層に分層でき、4層が灰色粘質土で、それ以外は黒色粘質土である。2層は炭化物をやや多く含む。出土遺物は珠洲焼(322・323・喪)で、覆土1・2層から出土した。

03SE1227 10I23に位置する円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は径96cm、深さ95cmを測る。覆土は3層に分層できる。いずれも黒色粘質土で、V2層を含む。

03SE1245 10I20に位置する楕円形の井戸である。断面形はフラスコ状で、規模は長径110cm、短径84cm、深さ130cmを測る。覆土は5層に分層できる。いずれも黒色粘質土で、炭化物を含む。特に5層は炭化物を多量に含む。出土遺物は木製品(334～336)である。

03SE1263 10I25に位置する楕円形の井戸である。断面形はU字状で、規模は長径90cm、短径82cm、深さ170cmを測る。覆土は9層に分層でき、いずれも黒色粘質土である。2層は炭化物をやや多く含む。4・5層はV2層をブロック状に含む。出土遺物は木製品(337・338)で、覆土下位から出土した。このほか、研磨具に転用された須恵器喪の破片も出土した。

03SE1272 11I19に位置する楕円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径86cm、短径74cm、深さ156cmを測る。覆土は8層に分層できる。4層が灰色粘質土で、それ以外は黒色粘質土である。6層は炭化物をやや多く含む。

C 溝 (図版22・70)

ここでは掘立柱建物や井戸を囲む区画溝について記述する。なお10Kに位置するSD51と11Fに位置するSD282は、昨年度調査した溝の延長であるため、同一の遺構名を付した。

03SD1278 13L～16Kに位置する。断面形は弧状で、立ち上がりは急斜度である。規模は全長40m、幅126cm、深さ32cmを測る。方向はN-75°-Wを指す。覆土は4層に分層でき、3層が灰色粘質土で、それ以外は黒色粘質土である。16Kで幅が広くなり03SD1285に合流する。昨年度調査した溝との位置関係は、SD282とは平行する。SD51とは直交し、南側調査区外で合流すると思われる。出土遺物は須恵器の坏・瓶類・甕(今池Ⅳ期頃)、灰軸陶器の皿(324)であるが、SD51・282や他遺構との関連から、03SD1278は中世の遺構と判断する。

03SD1285 16M～18Hに位置する。断面形は台形状で、立ち上がりは急斜度である。規模は全長56m、幅52cm、深さ23cmを測る。方向はN-24°-Wを指す。覆土は4層に分層でき、4層が灰色粘質土で、それ以外は黒色粘質土である。17K以北では直線的ではなくなり、幅も一定しない。18Hで03SD1308に切られる。出土遺物は須恵器の坏・甕・壺(今池Ⅳ期頃)などがある。いずれも古代の遺物ではあるが、03SD1278と合流することなどから、中世の遺構と判断する。

D 土坑・ピット (図版33・71)

ここでは遺物を掲載した遺構を扱う。出土遺物から中世の所産と判断するが、用途は明確にしない。

03SK150 7J20に位置する円形の土坑である。断面形は台形状で、規模は径74cm、深さ32cmを測る。覆土は3層に分層でき、1層は黒色粘質土で、2・3層は灰色系粘質土である。出土遺物は木製品(339・340)で、ともに覆土1層と2層の間から出土した。

03SK1204 10I18・23に位置する土坑で、平面形は方形ないし楕円形であろう。断面形は台形状で、規模は長さ73cm、深さ14cmを測る。覆土は3層に分層できる。いずれも黒色粘質土で、2・3層は炭化物を含む。出土遺物は土器(325・須恵器坏)である。

03P1018 11G15・20に位置する楕円形のピットである。断面形は台形状で、規模は長径45cm、短径41cm、深さ10cmを測る。覆土は黒色粘質土である。出土遺物は土師質土器(326)で、底面から正位で出土した。

2 遺 物

ここでは中世の遺物を中心に扱い、記載は種別ごとに行う。編年などに関してはそれぞれ以下の各氏の論考に準拠する。土師質土器…品田高志氏〔品田1997〕、珠洲焼…吉岡康暢氏〔吉岡1994〕、瀬戸美濃…藤澤良祐氏〔藤澤2002〕、青磁…上田秀夫氏〔上田1982〕、中国染付…小野正敏氏〔小野1982〕、である。

A 遺構出土の遺物 (図版47・48・82・83)

1) 土器・陶磁器 (図版47・82)

03SE1117 (318～321)

318は手握ね成形の土師質土器で、口縁端部が面取りされる。325・326に比べ口径が大きい。13世

紀後半頃の所産である。319～321は珠洲焼である。319は壺R種に分類でき、内外面に炭化物（スス）が付着する。320・321はIII期の片口鉢である。

03SE1193 (322・323)

322・323はともに珠洲焼の片口鉢で、322はIV期の所産である。323にはやや太めの脚目が確認できる。

03SD1278 (324)

324は灰釉陶器で、器種は皿であろうか。内底面には施釉されない。高台は貼り付けで、内端で接地し、断面は長方形を呈する。10世紀中葉頃の所産である。

03SK1204 (325)

325は土師質土器の皿で、手捏ねで成形される。口縁端部は面取りされ、体部下半には不鮮明な稜が確認できる。14世紀の所産である。

03P1018 (326)

326は手捏ね成形の土師質土器で、器種は皿である。体部下半には不鮮明な稜が確認できる。318・325に比べ身が浅い。14世紀の所産である。

2) 木製品 (図版47・48・82・83)

SK209 (327・328)

匙を2点図示した。327は柄の部分が欠損し、身の部分を4分の3程度残している。328は、大きく曲がった柄が比較的浅く削られた細長い身に着く。柄の部分は折れているが、ほぼ完形である。

03SE72 (329)

329は井戸の底から出土した曲物で、底板を欠損する。大きさから判断して、柄杓としての用途が考えられる。

03SE94 (330)

330は覆土下層から出土した漆器皿である。外底面に削痕を残す。内外面には黒漆が塗布される。13世紀後半から14世紀前半に位置付ける〔春日2001〕。

03SE110 (331・332)

331・332は覆土3・4層から出土した漆器皿で、外底面に削痕を残す。331は内面には赤漆、外面には黒漆が塗布される。14世紀前半に位置付ける〔春日前掲〕。332は内外面には黒漆が塗布され、外底面に「×」形の線痕と刻痕がみられる。13世紀後半から14世紀前半に位置付ける〔春日前掲〕。

03SE113 (333)

333は井戸底に近い覆土下層から出土した曲物で、底板も残る。側板に柄を通す孔があることから、柄杓としての用途が考えられる。

03SE1245 (334～336)

334の板材は上面からみると反っており、容器の類であろう。335・336の箸は比較的よく面取りされ、特に335の断面は円形に近い。

03SE1263 (337・338)

箸を2点図示した。338は上端の一部を欠損するものの、ほぼ完形である。

03SK150 (339・340)

339は箱物の部材であろうか。線条痕が確認できる。340は杭で、下端はやや尖る。

03P1040 (341)

341は03SB006の柱根で、下端は削られている。径を一定にするための加工であろう。

03P1077 (342)

342は03SB005の柱根で、加工痕はあまり確認できない。

B 包含層出土の遺物 (図版48・83)

1) 土器・陶磁器 (図版48・83)

343・344は珠洲焼の片口鉢で、344にはやや太めの卸目が確認できる。343はⅢ期、344はⅣ期の所産である。345は越前焼の播鉢で、全体に風化が著しい。16世紀前半に位置付ける。346は被熱しており明確ではないが、瀬戸美濃の種皿と思われる。16世紀代に位置付けておく。347は瀬戸美濃の卸皿で、口縁部の内外面に施釉される。断面には黒色付着物が認められ、漆継ぎの可能性がある。大窯第1～2段階の所産である。348は青磁の端反碗で、D類に分類できる。14世紀から15世紀前半の所産である。349は中国染付の皿で、体部に唐草文が施文される。B群Ⅶ類に分類できる。15世紀後半から16世紀前半の所産である。

2) 石 製 品 (図版48・83)

硯を1点図示する。350の外面形態は長方形を呈し、裏面は平坦である。側面は裏面から正面に向かって開くが、上端は残存状況が悪く不明である。内面に墨痕、側面には製作痕が残る。14世紀後半から15世紀後半頃の所産〔水野1985〕であろうか。

3) 木 製 品 (図版48・83)

上屋の部材を1点図示した(351)。351は中ほどにほぞ穴が確認できる。下端がV2層(確認面)にわずかに刺さる形で出土した。掘り込みが確認できなかったため、包含層出土としたが、打ち込み式の柱根の可能性がないわけではない。昨年度の調査でも上屋の部材が柱に転用された例があり、その場合は掘り込みが確認できた。

4) 金属製品 (図版48・83)

銭貨が全部で18枚出土した。このうち17枚の拓本を図示する。内訳は開元通宝1枚(352)、宋通元宝1枚(353)、淳化元宝1枚(354)、咸平元宝1枚(355)、天禧通宝2枚(356・357)、天聖元宝2枚(358・365)、皇宋通宝1枚(359)、嘉祐元宝1枚(360)、元豊通宝2枚(361・368)、元祐通宝2枚(362・366)、紹聖元宝1枚(363)、聖宋元宝1枚(364)、景德元宝1枚(367)、である。11Kからの出土が多く、352～364が出土した。352の裏面上位には「一」状の記号が鋳出され、「背上月」〔永井2002〕に相当する。357の孔はずれて鋳込まれる。初鋳年は開元通宝の621年が最も古く、聖宋元宝の1101年が最新となる。352が唐銭のほかは北宋銭である。このほか無文銭が1枚出土した。写真のみ掲載しておくが、判読不能銭や摩滅銭の類ではない。

第VI章 木製品の樹種同定

1 はじめに

新潟県上越市に所在する下割遺跡は、飯田川左岸の自然堤防上から沖積低地付近に位置する。今回の発掘調査では、古墳時代の掘立柱建物跡や土坑、溝跡、飯田川の旧河川跡などが検出されており、出土した土器などから古墳時代前期と想定されている。これらの遺構のうち、古墳時代前期の掘立柱建物跡の柱穴内からは礎板、旧河川跡等からは当該期の杭や用途不明な木製品等も多数出土している。

本報告では、上記の掘立柱建物跡や旧河川跡より出土した木製品や、中世と考えられる木製品の樹種同定を行い、木材利用について検証する。また、本遺跡では、これまでにも主に中世の木製品等の分析調査を行い、柱材にはクリ、木製品にはスギが多く用いられる傾向を確認している。したがって、本報告ではこれらの調査成果とも比較・検討を行う。

2 試料

試料は、古墳時代前期の掘立柱建物跡の礎板や柱材、古墳時代前期の旧河川跡から出土した木製品、さらに、中世の遺構より出土した木製品の計42点である。

これらの樹種同定用試料の採取は、調査担当者と協議・検討を行い、採取部位を設定した。採取方法は以下の通りである。遺物に接合部や破損部がある場合には、年輪や遺存状況を考慮し、最大約5mm角程度の木片を採取した。また、接合部のない試料については、腐植等による破損部や試料表面に面取りなど加工痕が認められない箇所を選択し、数mm角の木片を採取した。259・335は、遺存状況が良好であり完形試料であったため、試料採取は各加工面に認められた木材の3断面（木口・柾目・板目）のうち、試料採取不可能な木口を除く柾目と板目より現地で剃刀を用いて切片の採取を行った。

3 分析方法

木片については、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を製作する。各切片をガム・クロラール（泡水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレバートを作成する。製作したプレバートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

4 結果

試料は、針葉樹3種類（スギ・ヒノキ・イヌガヤ）と広葉樹8種類（オニグルミ・ブナ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・モクレン属・カエデ属・ニシキギ属・トネリコ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。

ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型~トウヒ型で、1分野に1~3個。放射組織は単列、1~15細胞高。

イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部及び晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個。放射組織は単列、1~10細胞高。

オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径。単独または2~4個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1~4細胞幅、1~40細胞高。

ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2~3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔及び階段穿孔を有し、壁孔は対列状~階段状に配列する。放射組織は同性~異性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものど複合放射組織とがある。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1~4列、孔圏外で急激~やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸~薄く、横断面では角張った楕円形~多角形、単独及び2~4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状~対列状に配列する。放射組織は異性、1~2細胞幅、1~40細胞高。

カエデ属 (*Acer*) カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独及び2~3個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列~交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1~5細胞幅、1~40細胞高。細胞壁の厚さが異なる2種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

ニシキギ属 (*Euonymus*) ニシキギ科

散孔材で、道管は小径。単独または2~3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道

管の分布密度は高い。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。

トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔部は1～2列、孔部外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～30細胞高。

5 考 察

試料は、古墳時代前期と中世の2時期の木製品である。古墳時代前期の掘立柱建物跡の柱穴内より検出された礎板は、全てオニグルミであった。オニグルミの木材は、重硬で強度が高い材質を有する種類であり、河川沿い等によくみられる種類である。試料の遺存状況が不良で、表面観察を十分に行えなかったことから、同一木材の利用についての可能性は判断できないが、礎板の大きさを考慮すると、1本のオニグルミから全ての礎板を製作することも可能である。試料の用途や遺跡近隣で容易に入手できるといった点から選択・利用されたと考えられる。

その他の古墳時代前期の木製品は、主として旧河川跡から出土している。これらは、杭や箱状木製品など多様であるが、木製品の大部分はスギであり、248 (オニグルミ)、258・260 (イヌガヤ)、255 (カエデ属) で異なる樹種が確認されるのみである。したがって、当該期はスギ材を主として利用していた可能性があり、過去に本遺跡で実施した木製品の分析調査例と調和的な傾向と言える。また、木理が通直で割裂性が高く、板材や角材などへの加工が容易であるスギやヒノキ等の針葉樹材の利用は、国内各地で出土した木製品の調査事例にも認められている。木製品で多く認められたスギは、適湿地を好み沖積地や谷筋などによく生育する。また、現在でも北陸地方には天然スギが広く分布しており、一部では低地林を形成している。このことから、当該期には本遺跡周辺の谷筋や沖積地などにスギが生育していた可能性があり、これらを手入・利用していたと考えられる。

一方、柱根 (248) にはオニグルミが利用されている。柱根も礎板と同様に頑強な材質を必要とすると考えられ、比較的強度のある木材としてオニグルミが利用された可能性がある。弓か魚取網の柄 (258) に確認されたイヌガヤは、丸木弓の素材として最もよく利用される樹種の一つである [島地・伊東 1988]。新潟県内では、千種遺跡で弥生時代タモ枠の素材としてハイイヌガヤの利用例が確認されている [巨理・山内 1963]。杭 (256) に認められたトネリコ属は、重硬で強度があり、建築や器具などの各種の用途に有用とされる種類である。なお、トネリコ属には、低地に生育するヤチタモ等が含まれるが、反貫目遺跡 (中条町) では古墳時代前期と考えられるハンノキ重属やトネリコ属の自然木の根材が確認されている (未公表資料)。これらの結果を考慮すると、本遺跡周辺の沖積低地に生育したトネリコ属等を利用した可能性がある。

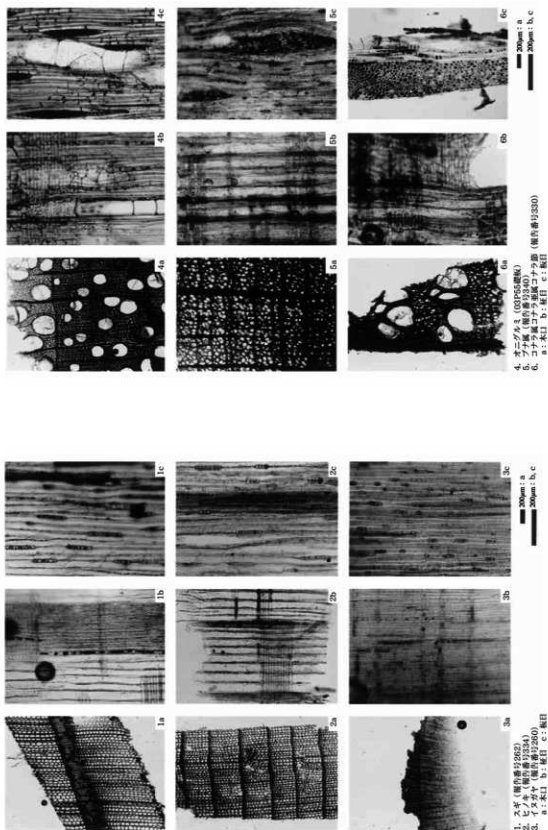
中世と考えられる試料は、古墳時代前期の試料と比較してスギの利用は少ない。ただし、古墳時代前期の木製品と用途の異なる製品が多く、一概に比較はできない。加工時の割裂性を利用する板材や箸等にはスギが用いられており、古墳時代前期の木材利用と同様である。一方、スギ以外の樹種をみると、柱根に認められたクリは、強度や耐久性に優れた材質を有する種類である。新潟県内では同時期の調査事例が少ないが、古墳時代～古代の柱材にはクリの利用が多く、本遺跡で実施した中世の柱材にもクリの利用が認

められている [越路町教育委員会・バリノ・サーヴェイ株式会社1992；バリノ・サーヴェイ株式会社1997・2000・2001・2002]。匙(327・328)に認められたモクレン属やニシキギ属は、硬さなど材質が異なるが、緻密で割物などには適する種類である。漆器皿(330)に認められたコナラ節は、重硬で強度が高い材質を有する種類であり、ケヤキやクリなどの環孔材で漆器に認められる種類と同様の利用例と考えられる。杭(340)に認められたブナ属は、本遺跡周辺の山地にみられる落葉広葉樹林の主構成種であり、ろくろなどの素材としても利用される種類である。前回の分析調査ではブナ属は確認されておらず、本遺跡における利用状況については不明である。

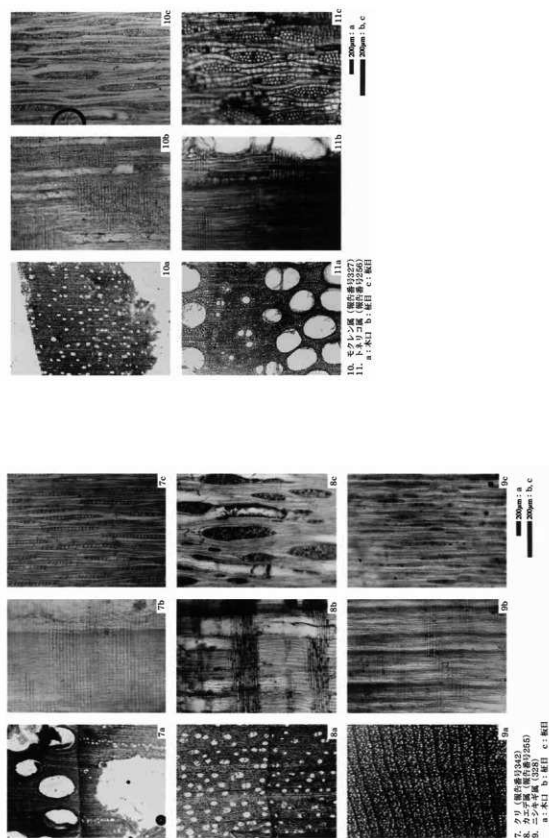
本遺跡では、古墳時代～中世の木製品の分析調査から、当該期における木材利用の検証を行った。その結果、スギやオニグルミを主として利用する傾向が確認された。これらの木材の由来については、樹種や遺跡周辺の地形等から遺跡周辺に生育し、容易に入手可能である種類と推測される。ただし、当時の本遺跡周辺の古植生については、花粉分析等による調査を行っていない。今後は、これらの分析調査による検証や、本遺跡周辺における分析調査事例を蓄積し、当時の古植生と木材利用を総合的に捉えたいと考えている。

引用文献

- 越路町教育委員会・バリノ・サーヴェイ株式会社 1992 『越路町文化財報告書 第19輯 岩田遺跡出土遺物自然科学分析報告書』p33
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1997 「岩田遺跡第2次調査における自然科学分析調査報告」『越路町文化財報告書 第21輯 岩田遺跡 第2次発掘調査報告書』p18-25 越路町教育委員会
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2000 「自然科学分析」『吉田町文化財調査報告書 第5集 新潟県西蒲原郡吉田町 江添C遺跡 -吉田町米納津地内国営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』p206-213 吉田町教育委員会・山武考古学研究所
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2001 「三角田遺跡から出土した木材の樹種」『燕市埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 三角田遺跡 国営新荒井川排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』p45-49 燕市教育委員会・吉田町教育委員会
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2002 「蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 一般国道7号 中乗バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』p45-59 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 島地 謙・伊東 陸夫(編) 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』296p 雄山閣
- 亙理 俊次・山内 文 1963 「千種出土の樹種」『新潟県文化財報告書 第1集 千種』p77-81 新潟県教育委員会



第9図 抽出樹種の顕微鏡写真 (1)



第10図 林出樹種の顕微鏡写真(2)

第七章 ま と め

1 古墳時代の土師器

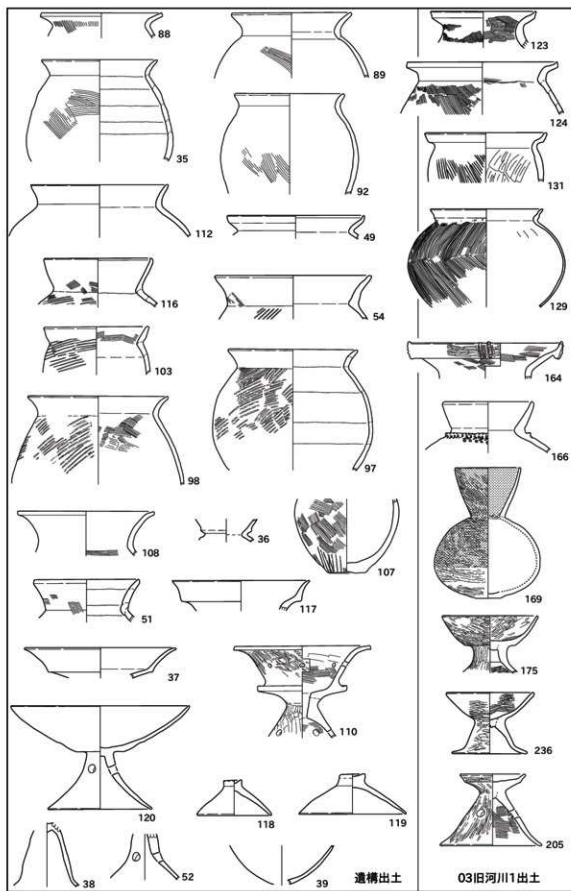
今回の調査では、当該期の土器が遺物収納用コンテナで約170箱分出土した。出土量としては多量の資料が得られたわけであるが、これらのうち03旧河川1出土のものが約83箱、遺構出土のものが約30箱、包含層から出土したものが約57箱と、03旧河川1出土も含め大半が遺構外のもので占められ、時期的に一括性の高い遺物が見込める遺構出土のものは少量であった。しかしながら、各遺構ともできるだけ図示し得る土器の抽出に努めた結果、ある程度、下割遺跡における古墳時代土器群の時間推移に対する器種形態の変遷を提示できたのではないかと考える。

第IV章で触れたように、出土した古墳時代の土器群は漆町遺跡土器編年との対比から、漆町5～7群併行期、同8～10(11)群併行期、同12～14群併行期と、3時期(Ⅰ～Ⅲ期)に大別されることが判明した。長期にわたって継続するような遺構が存在しないことや、遺構出土の遺物自体が少ないことなどから、本遺跡ではこれ以上の画期設定が必要、あるいは可能な状況にはないと考え、これ以上の細分化は行わなかった。また03旧河川1をはじめとして弥生時代後期の土器がわずかに出土したが、これらについてもかかる時代の遺構が検出されていないため、画期の設定は行っていない。ここでは、器種構成・器形の変化などについて各期ごとに所見を述べ、まとめたい。

下割Ⅰ期(漆町5～7群併行期)

03SK41、03SX50・52・75・77・1317・1318出土土器が挙げられる。器種構成は甕がA・B・G類(+E類)、壺がA・H・L類(+M・P類)、高坏がC・F類(+B類)、器台がD・H類(+C・F類)で、このほか蓋A類、鉢などの小型品が伴う(括弧付きの器種は03旧河川1、包含層から出土したもので、それぞれの時期に伴う可能性が高いということで提示する)。

甕A類は単純口縁のものが主体で、器壁は総じて薄手である。端部を面取りするものは03SX75・77・1318で図示し得ない小片が各1点ずつとわずかである。体部から口頸部の屈曲は明瞭で、内面の粘土接合面に沿って稜を形成するものが多い。口頸部の形態は、やや長めの頸部を有し直線的に立ち上がるもの(35・112など)と、頸部が短めで外反しながら立ち上がるもの(89・92など)に大別され、出土比率は前者の方がやや多い。小片も含めた観察では、前者の方が直立気味に立ち上がる印象を受けるが、後者と明確に区別し得るほどの差ではない。体部形態は残存するものが03SK41出土の1点(35)のみでこの時期の全体の様相は不明である。35は体部中位に最大幅をもつものであるが、球体化はそれほど進んではいない。03SX1317出土の88は口縁部が水平に近く開き、面取りされた口縁端部は上方にわずかに積み上げられるといった、前代の形態的特徴を色濃く残すものである。また、図示し得るものではないが、03SX77の破片資料には口縁外面が縁帯状を呈する、川村氏のいう「付加状」口縁の甕【川村1993】が1点みられる。甕B類については03SX50出土の1点(49)のみである。弥生時代のものに比べ口縁部の段は形態化しつつあるものの、形態的特徴は維持している。G類は新潟での出土例が稀であり、新潟における土器編年【笹澤2003】には長岡市横山遺跡【駒形ほか1987】1号環壕、上越市津倉田遺跡【笹澤ほか前掲】SK24、妙高村大洞原C遺跡【三ツ井ほか1997】などで各1点が提示されるに過ぎないが、これ



第11図 下割I期の土師器

らについても漆町5～7群に併行する時期に位置付けられている。G類の口縁部形態は単純口縁が主体であるが、03SX1318には布留甕のように口縁端部が内面に肥厚するものが1点(116)、03SX75には面取りされる破片が1点みられる。面取りされるものは03旧河川1でも出土している(139)が、口縁端部の肥厚するものは03SX1318出土の1点のみ(116)で、特異である。また107のような小型品も他には見られない。口頸部の形態はA類と同様であるが、外反するものは少ない。体部形態については、球体状のものややや細身のものがあるが、G類は総じて個々の形態差が大きく、そのこと自体が特徴とも言える。なお、図示し得る遺物が出土しなかった03SK76、SX80・1320・1321でもG類の破片が複数出土している。E類は03旧河川1中層に1個体分が出土しているのみである。

壺はA・H・L類のほか、03旧河川1から出土したM・P類がみられるが、壺の出土量は非常に少ない。特にL類は03SK41出土の1点(36)のみである。また、図示し得なかった破片にはC類の可能性のあるものが数点確認されている。H類は117や148といった、口縁部が直立気味で内外面とも段部が明瞭な前代の形態的特徴を色濃く残すものがみられる。

高坏は遺構からの出土が少ないため、遺構外出土のもので説明する。当該期の高坏は東海系またはその影響を受けたものが主体をなす。前代からの在地系譜としては、高坏C類が03SK41(37)で1点みられるほか、03SX52出土の器台脚部(52)にもその可能性がある。また、図示し得るものではないが、03SX77では弥生時代後期の北陸系高坏の破片が1点みられる。脚部形態で主体をなすのは、付け根部分がやや太く、途中で外反度を強めるものであるが、120のような末広がりに外反するものも少数みられる。

器台に関しては遺構からの出土がほとんどみられず、C・D・F・H類が確実に存在するという以外にはよくわからない。H類で口縁端部が面取りされるものは高坏と同じくための脚部をもつもので占められ、脚部形態から古相を呈する可能性があるが、03旧河川1出土と、一括性に欠ける資料であり想像の域を出るものではない。

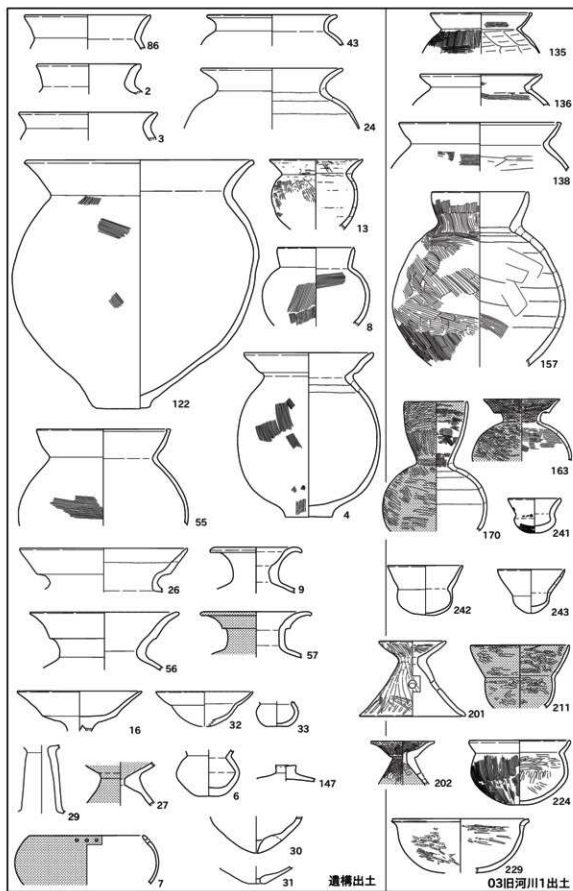
鉢については資料に乏しく様相は不明であるが、少なくともA類は伴っているようである。このほか、図示し得るものではないが、SX50では有段口縁鉢の破片がみられる。

以上の所見結果から、03SK41、03SX50・1317・1318についてはI期でも古相を呈する可能性が高い。

下割Ⅱ期(漆町8～10(11)群併行期)

03SB001、03SD5、03SK8・17・22・23・27・67・73、03SX24・31・80・87・165・1322出土土器が挙げられる。遺構数はこの時期が最も多い。器種構成は甕がA・F・H類、壺がA・H・N類(+O・P類)、高坏がF・G類、器台がH類(+G類)、鉢がA・E・G類となるほか、分類不能の小型品として、小型壺・甕などがある。

甕A類はI期のものから大きな変化はみられない。単純口縁で器壁が薄手のものがやはり主体をなすが、体部から口頸部の屈曲が比較的ゆるやかで、内面に稜を形成しないものがI期より増加する。また、図示し得るものは少ないが、03SD5・105、03SK27、03SX31・80・87・165などでは、口頸部自体が肥厚気味でぼつりとした断面形を呈するものがみられるようになる(2・3など)。口頸部の形態はI期同様、やや長めの頸部を有し直線的に立ち上がるもの(86・122)と、頸部が短めで外反しながら立ち上がるもの(24・43など)に大別されるが、Ⅱ期では出土比率に偏りはみられなくなる。後者の中には頸部が垂直気味に短く立ち上がってから外反する、いわゆる「コ」字状の断面形を呈するもの(43)が見られるようになるが、単に外反するものと識別のつかないものが多数を占める。F類は03SD5で1点



第12図 下割Ⅱ期の土師器

みられるのみである(4)。形態的特徴から、Ⅱ期でも早い段階のものと思われる。H類は遺構からのものとしては03SX80の1点のみであるが(55)、03旧河川1中層からは数個体が出土している。形態的特徴から漆町遺跡変形土器I₂~I₄類(以下、漆町分類)に該当するものと思われる。

壺は新たにN・O類といった畿内系の器種がみられるようになるが、全体の出土量はやはり少ない。N類は03SX87(57)以外、全て03旧河川1からの出土である。精製されたもので占められ、159以外は赤彩される。その159は口縁下端に凹形刺突という装飾されたものである。O類は03旧河川1で出土したのみである(211・241~243)。遺構にもその可能性がある小片がみられるが、O類と断定し得るものは出土していない。241~243は漆町分類E₁類と同形態で、漆町8~9群に伴う。次にⅠ期から続くA・H・P類について記述する。A類は特に変化がみられない。H類は従来から指摘されているように、口縁部の立ち上がりが斜め方向に寝るというものと、口縁部と頸部の段差が内面では不明瞭になるという二つの傾向が看取される。P類については時期的な一括性が乏しく、Ⅱ期に確実に伴うということ以外はよくわからない。L類についてはこの時期にはみられなくなる可能性がある。

高環はB・C類が姿を消し、G類が新たに加わるが、図示し得たものが少なく、実体はよくわからない。29をみる限り、脚部は柱状部が直線的で高さも長めである。16・40はその環部であろうか。一方、従来の器形では、03SD5にみられる付け根部分がやや太く、途中で外反度を強める形態の脚部(5)もⅡ期の早い段階には存在する。

器台はC・D・F類が姿を消す。G類は03旧河川1中層に数点みられるのみで、ほぼH類のみとなるものと考えている。それは受部形態のわかるものが遺構から出土していないためであり、脚部形態からH類であろうと類推した。

鉢はA・E・G類がみられる。A類はこの時期、実底気味のもので占められる。形態をみる限り、03旧河川1下層で出土した237(Ⅰ期か)のような無骨な形態のものは存在しないのだろう。これらのほかには小型の甕や壺がわずかに存在する。

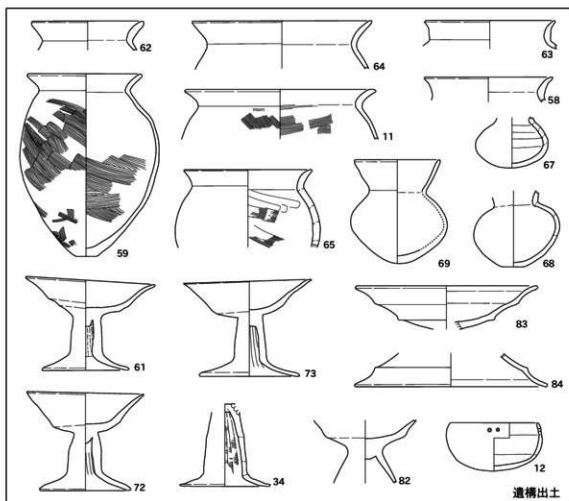
下割Ⅲ期(漆町12~14群併行期)

03SD105、03SK33、03SX107・117出土土器が挙げられる。器種構成は甕がA類、壺がA・P類、高環がF・G類などのほかに、分類不能の小型品として、椀、小型壺などがある。器台や鉢はみられなくなる。高環G類の脚部形態と、新出の小型椀(12)が時期決定の目安となる。

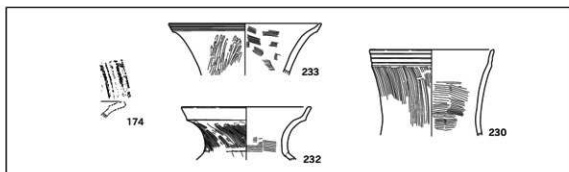
甕A類はⅡ期のものと比べ、口縁や口頸部の形態、器壁の厚さなどに変化はみられない。ただし、「コ」字状の断面形を呈するものに関しては、識別がやや容易になるという印象を受ける(63)。体部形態については球体に近いもの(65)と、体部の張り出しが弱く長細い感じのもの(59)があるが、図示し得るものが各1点のみであり、A類総体としてどのような体部形態をとるのかは不明である。

壺は小型品以外、ほとんどみられなくなる。図示し得たのはSX117出土のP類(69)及び形態不明のもの(66)1点ずつで、A類は小片のみである。69は別の器形として捉える必要があるのかも知れない。

高環はG類が主体をなし、F類は少ない。03SX107・117出土のG類は脚部中央がやや膨らむ形態を呈するもので占められる。この形態の高環は、新潟における古墳時代中期の基準資料である柏崎市礼坊遺跡[品田はか1990、漆町12群併行]SK2aでも出土している(川村氏は漆町11群に併行させる[川村2000])。資料が少なく一概にはいえないが、Ⅱ期のものと比較すれば、脚部の中膨らみのほかに低脚化の傾向も窺えよう。34はちょうど両者の中間的な脚部形態を呈するもので、03SX107・117出土のものと比較して脚部やや長く、膨らみ加減もわずかである。



第13図 下割Ⅲ期の土師器



第14図 下割遺跡出土弥生時代の土器

時期	該当する遺構	漆町遺跡土器編年
下割Ⅰ期	03SK41 03SX50・52・75・77・1317・1318	漆5～7群
下割Ⅱ期	03SB001 (03P48) 03SD5 03SK8・17・22・23・27・67・73 03SX24・31・80・87・165・1322	漆8～10 (11) 群
下割Ⅲ期	03SD105 03SK33 03SX107・117	漆12～14群

第2表 下割遺跡の時期区分

遺跡	黄		赤		高坪		赤白		緑		紫	
	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数
03P11	18	30										
03P27	0	34			3	81			9	12		
03P48	4	11			0	2						
03P49	2	26										
03P51					0	1						
03P54	0	11			0	1						
03P69	17	67										
03P61			0	1								
03P125	0	10										
03P128	0	4										
03P146	0	1										
03P149	0	2										
03P100	0	10										
03S02	3	5										
03S04	8	34	9	1	0	4						
03S05	60	244	8	26	4	50	9	5	69	56		
03S06	6	26	0	3	0	3						
03S021	0	1			0	1						
03S044	4	26	36	2	0	7			21	6		
03S071	17	34	0	1	4	4			3	2		
03S079	0	6			0	1						
03S081	21	143	0	10	4	6	0	1	3	1		
03S0105	17	29	5	1	3	7			3	4	36	4
03S08	86	200	0	8	14	17			2	1		
03S017	7	29					0	1				
03S018	3	26			0	1						
03S022	25	76	8	13	0	3			0	2		
03S023	18	122	0	2	0	18	13	6	0	3		
03S027	155	575	30	65	0	13	0	15	44	16		
03S030	0	21										
03S033					0	4						
03S041	41	415	0	22	7	27	0	1				
03S042	0	5										
03S059	0	53	0	1								
03S062	9	15	0	1	0	2	0	1				
03S064	0	62					3	1				
03S065	0	1										
03S067	0	7	0	1	12	35						
03S073	2	14	0	16	0	2			0	8		
03S075	0	8	1	1	0	1						
03S076	14	123	3	5	0	4	0	1	20	2		
03S078	0	1										
03S083	0	29			0	1						
03S092	0	12										
03S0102	0	8	2	1	14	45						
03S0124	0	2										
03S0152	0	2			0	1			8	1		
03S0153	0	1										
03S012	0	36	0	13	0	1						
03S024	16	117	0	1	2	7			0	1		
03S025	0	55										
03S026	87	358	25	24	0	10	0	1	4	11		
03S029	22	23	0	5	0	2			0	1		
03S031	113	304	25	31	0	19	0	1	6	9	0	1
03S034	9	16										
03S050	25	95	0	7			12	11				
03S052			10	79			0	2				
03S057	27	44	4	24								
03S066	2	132	0	21								
03S075	51	192	0	14	5	3	0	4	3	1		
03S077	48	155	10	10	8	9	0	4	6	9		
03S080	101	389	42	81	8	34	0	2	0	8		
03S087	29	162	38	12	0	20						
03S088	0	6					9	1	0	1		
03S0107	65	392	5	17	16	54	0	11	0	9		
03S0117	159	1180	38	116	255	284	27	31	50	37		
03S0160	0	33										
03S0165	71	281			0	27	0	4	78	10		
03S01217	659	1622	35	16	0	4	13	8	34	10		
03S01318	150	673	53	29	16	84			5	1		
03S01319	19	130	4	1	0	1						
03S01320	27	171	0	5	2	7	0	1				
03S01321	26	189	0	3	5	16			4	1		
03S01322	39	121	0	2					2	4		

第3表 古墳時代土師器の遺構別組成（口縁部残存率は /36）

種類	器種	口縁部残存率		破片数	種類	器種	口縁部残存率		破片数
		黄	赤				黄	赤	
土師質土器	甕		50	13	瀬戸失透	甕	5	6	
	甕	4		28		甕	9	3	
	甕			2		甕	6	1	
珠洲焼	片口鉢	9		6	青磁	甕	3	5	
	福鉢	1		2	中国染付	甕	4	1	

第4表 中世の土器・陶磁器の組成（口縁部残存率は /36）

櫛は03SD105の1点のみである(12)。この時期に出現すると思われるもので、口縁部から体部はナデ調整、底部はヘラケズリ調整が施される非精製品である。単純に比較はできないが、漆町遺跡では13群以降にこの類の櫛が出現するようであり[田嶋^{ほか}前掲]、03SD105が03SX107・117より若干遅れる可能性が考えられよう。

以上、各期における土器の様相を述べてきた。はじめに記したように、検出された遺構の性格や出土した土器の残存状態、更には執筆者の土器に対する見識不足も手伝って、これ以上の細分化はなし得なかった。しかしながら、各時期における器種構成と各器形の変遷や消長はある程度整理し提示できたものと考えられる。結果として、先学諸氏が成し遂げた越後における当該期の土器編年に準じるものであり、大きな齟齬を生じるものではない。

2 中世の集落

ここでは昨年度の調査成果も加味し、中世の集落についてまとめておく。下割遺跡では、2年の調査で溝に区画された中に掘立柱建物・井戸が位置する中世の屋敷地が確認された。そこで建物跡などが確認できる屋敷地について、東側から順に屋敷地Ⅰ～Ⅴに分けて記述する。

屋敷地Ⅰ SD151・SR18に区画される屋敷地で、遺跡の北東端に位置する。主な遺構はSX22で、掘立柱建物・井戸は確認できない。なお1A～1Cに位置するビット列は、比較的新しい時代の所産である。竪穴建物の可能性があるSX22は、SD151とSR18側溝が対向し通路状となる場所に位置する。方向はおおむねSD151に平行する。出土遺物には珠洲焼・瀬戸美濃・越前焼・銭貨(淨祐元宝)がある。珠洲焼で時期が判明するのはⅡ・Ⅲ・Ⅴ期である。屋敷地内での遺構の配置は、北半分が不明のため明確ではないが、ほかの屋敷地と比べ遺構数は少ないと思われる。道路に関しては、溝などの既存の遺構に区分された空間も通行に利用されたことを想定した[山崎^{ほか}2003]。よって屋敷地Ⅰが道路に面するのは2辺となる(SR18とSD52・151間)。SR18とSD52・20間の道路は、現在の元屋敷米岡線の旧道に相当し近世松之山街道にも通じる。それにぶつかるSD52・151間の道路を北西に行けば、上真砂周辺に至るものと思われる。遺跡内では比較的通行に便利な地点である。

屋敷地Ⅱ SD51・52・251に区画される屋敷地で、遺跡の中央東側に位置する。一辺50～60mほどの菱形を呈する区画の中に、掘立柱建物12棟・井戸20基が確認できる。掘立柱建物は1間×3間のものが多く、SBO03は本遺跡内で最大である。また掘立柱建物の数も多く、23棟中12棟が屋敷地Ⅱに位置する。他の屋敷地より重複が著しいのも特徴である。井戸はSE210のような大型のものも確認でき、掘立柱建物の周辺に分布する。区画となるSD51・52は遺跡内では規模が大きな溝で、SD51が幅1.2～4.5m、SD52が幅2.0～3.8mである。出土遺物は土師質土器・珠洲焼・瀬戸美濃・輸入陶磁器(青磁・白磁・染付)・越前焼・石製品(鉢・硯)・銭貨などがあり、13世紀から16世紀に位置付けられる。遺構(特に井戸)から出土する遺物は土師質土器・珠洲焼・木製品で、珠洲焼はⅢ・Ⅳ期が主体となる。木製品では今年度漆器皿が井戸から出土した。いずれも底面に削痕を残し、やや粗雑な感じを受ける。13世紀後半から14世紀前半の所産である。屋敷地内での遺構の配置は、東半分が多く、北側から西側にかけては空白地が広がる。道路に面するのは北側と東側の2辺であるが、『中頸城郡諏訪村大字米岡更正地図』を参考にすると、SD251・252間も道路ないし通路状の空間の可能性がある。屋敷地Ⅰ同様通行には便利な地点である。

屋敷地Ⅲ SD51・252に区画される屋敷地で、遺跡の中央南端に位置する。SD51と03SD1278が



第15図 中世の遺構配置図

合流すると仮定した場合の一辺の長さは約50mになる。主な遺構は掘立柱建物1棟・井戸1基・柱穴である。掘立柱建物は1間×3間のもので、周辺に柱穴が位置することから、検出できなかった建物の存在が想定できる。井戸は径80cm前後、深さ106cmで、土師質土器が出土した。区画となるSD252は幅広い割には、深さは浅い。SD51もSD252との合流以南は幅が狭く、深さも浅くなる。出土遺物には土師質土器・珠洲焼・輸入陶磁器（青磁）で、13世紀後半から15世紀中葉頃の所産である。土師質土器は13世紀後半から14世紀頃の所産で、珠洲焼はⅢからⅣ期頃のものが多く、遺構の配置は南半分が不明のため明確ではないが、9J付近に空白地がある可能性が考えられる。北側と東側で道路に面すると思われる。

屋敷地Ⅳ SD51・254・282に区画される屋敷地で、遺跡の北東端に位置する。SD51・254間は28m、SD52・282間は44mで、区画は長方形を呈すると思われる。主な遺構は井戸5基・柱穴である。掘立柱建物は確認できなかったが、井戸が5基検出されたことから、井戸の周辺に掘立柱建物が所在すると想定される。出土遺物は珠洲焼・輸入陶磁器（白磁・青白磁）・越前焼・銭貨などである。白磁の器種は水注、青白磁は梅瓶で、いずれも12世紀の所産である。珠洲焼はⅢ期の所産である。北半分が不明のため明確ではないが、8D付近に空白地がある可能性が考えられる。北側で道路に面すると思われる。

屋敷地Ⅴ SD51・282・03SD1278・1285に区画される屋敷地で、遺跡の中央西側に位置する。03SD1285のみ方向が異なり、区画が方形とはならない可能性がある。区画の規模はSD282・03SD1278間が70m、SD51から03SD1278・1285の合流部までが60mである。主な遺構は掘立柱建物10棟・井戸14基・SX274で、SX274は竪穴建物の可能性がある。遺構は区画東側に集中し、12列以西にはほとんど分布しない。建物は9H・11G・11I・10J・11Kにまとまり、井戸は建物の周辺に位置する。また区画内は幅50cm、深さ10cm程度の溝で区切られる。出土遺物は土師質土器・珠洲焼・越前焼・瀬戸美濃・輸入陶磁器（青磁・染付）・石製品（硯）・木製品で、13世紀から16世紀の所産である。井戸から出土する遺物は土師質土器・珠洲焼・木製品で、珠洲焼はⅢ・Ⅳ期が主体となる。屋敷地Ⅴの周囲には、明確に道路と判断されるものはないが、SD251・252間、SD253・254間も通行に利用された可能性も考えたい。

屋敷地の全体を把握できるのは屋敷地ⅡとⅤである。そこからは、50～60mの区画の中に掘立柱建物が約10棟、井戸が10～20基、空白地が存在することが判明する。屋敷地Ⅲも、推定できる溝の長さから、同規模の屋敷地であると思われる。屋敷地Ⅳは28m×44mの区画で、屋敷地Ⅱなどの半分の規模である。屋敷地Ⅱの建物は、比較的狭い範囲に集中し重複していることから、頻繁な建て替えが想定される。一方屋敷地Ⅴは、建物数は屋敷地Ⅱと同数であるが、5か所にややまとまり、それぞれの箇所ですべて1～2回の建て替えが想定できる。屋敷地Ⅴ内は03SD1188によって9H・11Gの建物群と10J・11Kの建物群が区切られる。さらに03SD1188と重複して11Iの建物が位置することから、03SD1188が機能した時期と機能しない時期の大きく2時期には分けることが可能であろう。屋敷内の空白地については、畑地や作業場など生産に関連した土地利用を想定したいが、畑跡は確認できなかった。水田についてもその痕跡は確認できなかった。遺跡が飯田川の自然堤防上に立地することから、その後背低地にあたる遺跡西方に位置したと思われる。出土遺物の種別は屋敷地ⅡとⅤでほぼ共通し、中世集落における一組成を示していると考えられる。遺構出土物の年代も13世紀後半から14世紀で両者共通する。

下割遺跡の中世集落は、掘立柱建物約10棟・井戸10～20基・空白地が一辺50～60mの溝で囲まれる屋敷地が数個程度隣接して集落を形成しており、13世紀後半から14世紀の集村化傾向にある集落の一形態を示している。

要 約

- 1 下割遺跡は新潟県上越市大字米岡字下割1,205番地ほかに所在する。調査区は飯田川左岸の自然堤防上に立地し、現況は水田であった。標高は上層が13.5～13.8m、中層が12.6～13.5mを測る。
- 2 発掘調査は上越三和道路の建設に伴い、平成15（2003）年4月7日から11月21日にかけて実施した。調査面積は14,600m²である。
- 3 古墳時代の遺構は掘立柱建物2棟、井戸1基、溝16条、土坑41基、ピット51基、性格不明遺構26基がある。このほか古墳時代以前の河川が検出された。遺構の時期は古墳時代前期～中期である。
- 4 古代の遺構と考えられるものは土坑1基、ピット5基、性格不明遺構1基がある。遺構の時期は9世紀頃と思われる。
- 5 中世の遺構は、掘立柱建物9棟、井戸16基（今年度A地区検出分9基含む）、溝15条（このうち2条は昨年度の溝と同一）、土坑8基（今年度A地区検出分2基含む）、ピット298基（今年度A地区検出分16基含む）、性格不明遺構4基がある。遺構の時期は13世紀後半～14世紀である。なおA地区とB地区を合わせた中世の遺構数は、掘立柱建物23棟、井戸40基、溝39条、土坑59基、ピット705基、性格不明遺構10基となる。
- 6 遺物は弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世の遺物が確認できる。種別は土器・陶磁器、石製品、木製品、銭貨がある。
- 7 弥生時代の遺物は後期の土器で、壺・高坏などがわずかに確認できる。
- 8 古墳時代の遺物は土師器、石製品、木製品である。土師器は古墳時代前期～中期のものが多量に出土している。在地のものに加え、畿内・東海地方の系譜を引く土器が確認できる。特に畿内系外来土器であるタタキ甕が多数確認され、注目される。石製品は滑石製の勾玉や凝灰岩製の管玉が出土している。勾玉は紡錘車を転用したものとみられ、未成品である。木製品は注目すべきものとして古墳時代前期の礎板がある。
- 9 古代の遺物は須恵器や灰軸陶器である。須恵器は8世紀～9世紀の坏・坏蓋・甕・横瓶などの破片が出土している。灰軸陶器は10世紀の皿である。
- 10 中世の遺物は土師質土器、珠洲焼、越前焼、瀬戸美濃、輸入陶磁器、石製品、木製品、銭貨などが少量出土している。土器・陶磁器では珠洲焼の出土量が多い。木製品は漆器皿や曲物などが確認できるが、多くがその種別を明確にできない。石製品としては硯が出土している。
- 11 近世の遺物は肥前系陶磁器、越中瀬戸などがわずかに出土している。

引用文献

- 池田嘉一 1967 『中江用水史』 中江土地改良区
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』NO.2 日本貿易陶磁研究会
- 大居敦子 2002 『新潟県上越市中江北部第1地区ほ場整備事業地区遺跡発掘調査報告書(下沼遺跡)』上越市教育委員会
- 小野正敏 1982 「15～16世紀の染付碗。皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』NO.2 日本貿易陶磁研究会
- 春日真実 2001 「柏崎市鶴巻田遺跡出土漆器の編年の位置」『新潟考古学談話会会報』第23号 新潟考古学談話会
- 川村浩司 1993 「北陸北東部における古墳出現前後の土器組成」『環日本海地域比較史研究』第2号 新潟大学環日本海地域比較史研究会
- 川村浩司 2000 「上越市の古墳時代の土器様相—関川右岸下流域を中心に—」『上越市史研究』第5号 新潟県上越市
- 小島幸雄¹⁾ 1984 『新潟県上越市本長者原塚寺確認調査概要』上越市教育委員会
- 小島幸雄 1991 『新潟県上越市中島廻り遺跡発掘調査報告書』上越市教育委員会
- 駒形敏朗²⁾ 1987 『横山遺跡』長岡市教育委員会
- 坂井秀弥³⁾ 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集 今池遺跡 下新町遺跡 子安遺跡』新潟県教育委員会
- 坂井秀弥³⁾ 1986 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第40集 一之口遺跡西地区』新潟県教育委員会
- 笹澤正史⁴⁾ 1999 『新潟県上越市上千原地区ほ場整備関連発掘調査報告書 津倉田遺跡』上越市教育委員会
- 笹澤正史 2003 「越後における庄内～布留式併行期の土器の動き—頸城郡を中心として—」『庄内式土器研究』XXVI 庄内式土器研究会
- 品田高志⁵⁾ 1990 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第13 吉井遺跡群II』柏崎市教育委員会
- 品田高志 1992 「越後における古墳時代土器の変遷II—前期土器編年の現状と編年試案—」『柏崎市立博物館館報』NO.6 柏崎市立博物館
- 品田高志 1997 「越後国における土師器の変遷と諸相」『中近世の北陸—考古学が語る社会史—』桂書房
- 高田平野団体研究グループ 1980 「高田平野の第四系とその形成史・そのXXIV」『研究紀要』第25号 新潟大学教育学部高田分校
- 高橋一樹 1999 「越後高田保ノート」『上越市史研究』第4号 新潟県上越市
- 田嶋明人⁶⁾ 1986 『漆町遺跡I』石川県立埋蔵文化財センター
- 永井久美子 2002 『新版中世出土銭の分類図版』高志書院
- 藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大室編年の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 水野和雄 1985 「日本石硯考—出土品を中心として—」『考古学雑誌』第70巻第4号 日本考古学会
- 三ツ井朋子⁷⁾ 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第85集 大洞原C遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良⁸⁾ 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第120集 下沼遺跡I』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館

土器・陶磁器観察表(1) (砂:砂粒・黒:黒色粒子・針:海綿骨針・角:角閃石・石:石英・チ:チャート・雲:雲母)

番号	種別	時期	出土場所		位置 (m)		色調		磁化	用途	備考			
			穴名	層位	口徑	高さ	内径	外径				内面	外面	
1	土師器	高坪F	2D17	03M001	層上1		黄褐色	灰白色	砂・黒	なし	なし	断面透孔3個		
2	土師器	貴A	9E14	03SD5	層上3	13.3	灰白色	灰白色	砂・黒・針	なし	なし	チ		
3	土師器	貴A	9E13	03SD5	層上2	18.3	灰白色	灰白色	黒・角	なし	あり	チ		
4	土師器	貴F	9E14	03SD5	層上3	16.8	21.6	6.0	黄褐色	黄褐色	砂・黒・角	あり	チ	
5	土師器	高坪G	9E14	03SD5	層上3			黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
6	土師器	香心F	9E14	03SD5	層上3		2.6	灰白色	灰白色	黒・針	なし	あり	チ	
7	土師器	鉢	9E14	03SD5	層上3	15.0		黄褐色	黄褐色	黒・針	なし	なし	チ	
8	土師器	小埴輪	9E14	03SD4	層上1	9.9		灰白色	灰白色	石・黒・角	あり	なし	チ	
9	土師器	貴A	2D17	03M044	層上1	10.4		黄褐色	黄褐色	針・黒・石	なし	なし	チ	
10	土師器	貴A	8H7	03D717	層上1	15.2		灰白色	灰白色	砂・黒・針	あり	あり	チ	
11	土師器	貴A	6G12	03M0105	層上3	25.0		黄褐色	黄褐色	砂・黒・石	あり	あり	チ	
12	土師器	瓶	9C8	03M0105	層上3	11.4	6.4	黄褐色	黄褐色	砂・黒・針	なし	なし	チ	
13	土師器	貴A	11E16	03K88	層上3	12.2		黄褐色	黄褐色	砂・黒・針	あり	あり	チ	
14	土師器	貴A	11E16	03K88	層上3	16.6		褐色	褐色	針	あり	あり	チ	
15	土師器	貴A	11E16	03K88	層上3	15.4		黄褐色	黄褐色	砂・黒・針	なし	あり	チ	
16	土師器	高坪G	11E16	03K88	層上2	16.2		黄褐色	黄褐色	砂・黒・針	なし	なし	チ	
17	土師器	貴A	3D14	03K17	層上2	16.7		灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	チ	
18	土師器	香心H	5D17	03K22	層上1	16.7		灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	チ	
19	土師器	高坪	5D12	03K22	層上2			黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
20	土師器	鉢	5D19	03K22	層上2		3.5	灰白色	灰白色	砂・針	なし	あり	チ	
21	土師器	貴A	5D19	03K23	層上4	12.6		黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
22	土師器	鉢	5D19	03K23	層上3			灰白色	灰白色	砂	なし	あり	チ	
23	土師器	胎合	5D19	03K23	層上4			黄褐色	黄褐色	砂	なし	なし	チ	
24	土師器	貴A	5D1	03K27	層上1	18.4		灰白色	灰白色	砂・黒・石	なし	なし	チ	
25	土師器	貴A	5D6	03K27	層上3	17.8		黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
26	土師器	香心H	5D6	03K27	層上3	21.9		灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	チ	
27	土師器	胎合付	5D1	03K27	層上3			黄褐色	黄褐色	砂・黒・針	あり	なし	チ	
28	土師器	胎合付	5D6	03K27	層上3			黄褐色	黄褐色	砂・針	なし	なし	チ	
29	土師器	胎合付	5D6	03K27	層上3			黄褐色	黄褐色	砂・黒・針	なし	なし	チ	
30	土師器	鉢	5D1	03K27	層上1			黄褐色	黄褐色	砂・針	なし	あり	チ	
31	土師器	鉢	5D7	03K27	層上1			黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
32	土師器	鉢	5D1	03K27	層上1	12.7		灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	チ	
33	土師器	鉢	5D1	03K27	層上1	4.4	2.9	2.8	灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	チ
34	土師器	高坪G	9C17	03K33	層上		12.6	に染み 黄褐色	灰白色	砂・黒・石	なし	なし	チ	
35	土師器	貴A	3D11 6	03K41	層上2	15.2		に染み 褐色	に染み 褐色	砂・黒・石	なし	あり	チ	
36	土師器	香心L	3D12	03K41	層上2			黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
37	土師器	高坪C	3D12	03K41	層上2	19.6		黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
38	土師器	高坪	3D11	03K41	層上1			黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
39	土師器	鉢	3D16	03K43	層上1			灰白色	灰白色	黒・針	あり	なし	チ	
40	土師器	高坪G	6H26	03K67	層上1	21.2		黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
41	土師器	高坪F	1~5層	03K73	層上			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	チ	
42	土師器	貴A	5D1	03K84	層上	17.8		黄褐色	黄褐色	砂・黒・針	なし	なし	チ	
43	土師器	貴A	5C12	03K31	層上1	17.0		灰白色	灰白色	砂・黒・石	なし	なし	チ	
44	土師器	貴A	5C12	03K31	層上1	20.9		黄褐色	黄褐色	砂・針	なし	あり	チ	
45	土師器	貴A	5C12	03K31	層上1	2.7		灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	チ	
46	土師器	胎合	9C11	03K31	層上			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	チ	
47	土師器	高坪	9C11	03K31	層上2		13.3	黄褐色	黄褐色	砂・黒・針	なし	なし	チ	
48	土師器	高坪	9C11	03K31	層上1			灰白色	灰白色	砂・黒・石	なし	なし	チ	
49	土師器	胎合	3D3	03K30	層上1	17.8		灰白色	灰白色	砂・角	なし	なし	チ	
50	土師器	胎合	1	03K30	層上2			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	チ	
51	土師器	貴A	3C18	03K26	層上2	13.7		黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
52	土師器	胎合	3C19	03K26	層上2			黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
53	土師器	貴G	1	03N76	3段	19.8		灰白色	灰白色	砂・針	なし	なし	チ	
54	土師器	貴G	9E7	03N77	層上1	20.2		黄褐色	黄褐色	砂	なし	あり	チ	
55	土師器	香心H	9G24	03K80	3段	17.4		黄褐色	黄褐色	砂・黒・石	あり	あり	チ	
56	土師器	香心H	9G24	03K80	3段	19.3		黄褐色	黄褐色	針・黒・石	なし	あり	チ	
57	土師器	香心N	9C4	03K87	3段	14.6		黄褐色	黄褐色	針・黒・石	なし	なし	チ	
58	土師器	貴A	5G24	03K31	3段	16.6		灰白色	灰白色	砂・黒・石	なし	なし	チ	
59	土師器	貴A	5D19	03K107	層上5	14.7	24.0	2.6	灰白色	灰白色	砂・黒・針	あり	あり	チ
60	土師器	高坪F	4G24	03K107	層上5			黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	チ	
61	土師器	高坪G	4H5	03K107	層上	16.8	11.8	11.2	灰白色	灰白色	黒・針	あり	あり	チ
62	土師器	貴A	5G18	03K117	3段	14.3		黄褐色	黄褐色	砂・黒・石	あり	あり	チ	
63	土師器	貴A	5G18	03K117	3段	16.8		黄褐色	黄褐色	砂・黒・石	なし	なし	チ	
64	土師器	貴A	5G18	03K117	3段	23.4		黄褐色	黄褐色	砂・黒・石	なし	あり	チ	
65	土師器	貴A	5G18	03K117	3段	16.7		灰白色	灰白色	砂・黒・石	あり	あり	チ	
66	土師器	香心	5G14	03K117	3段			褐色	褐色	砂・針	なし	なし	チ	
67	土師器	小埴輪	5G14	03K117	3段			黄褐色	黄褐色	砂・針	なし	あり	チ	
68	土師器	香心F	5G14	03K117	3段		2.8	褐色	褐色	砂・針	なし	なし	チ	
69	土師器	香心F	5G15	03K117	3段	11.0	13.6		褐色	褐色	砂・針	なし	なし	チ
70	土師器	高坪F	5G13	03K117	3段	15.5	12.3	11.2	黄褐色	黄褐色	砂・針	あり	あり	チ
71	土師器	高坪F	5G18	03K117	3段	15.3	12.0	10.7	褐色	褐色	砂・針	あり	あり	チ
72	土師器	高坪F	5G13	03K117	3段	15.6	12.7	11.9	黄褐色	黄褐色	針・黒・石	なし	なし	チ
73	土師器	高坪F	5G18	03K117	3段	16.8	12.4	12.9	黄褐色	黄褐色	砂・針	なし	なし	チ
74	土師器	高坪G	5G18	03K117	3段			褐色	褐色	砂・針	なし	なし	チ	
75	土師器	高坪G	5G18	03K117	3段		12.6	黄褐色	黄褐色	砂・針	なし	なし	チ	
76	土師器	高坪G	5G18	03K117	3段	15.8		黄褐色	黄褐色	砂・針	なし	なし	チ	
77	土師器	高坪G	5G18	03K117	3段	17.0		黄褐色	黄褐色	黒	なし	なし	チ	
78	土師器	高坪G	5G18	03K117	3段	20.0		黄褐色	黄褐色	砂・針	なし	なし	チ	

造物観察表

土器・陶磁器観察表 (2)

番号	種別	時期	出土地		色		用途		備考				
種別	時期	年代	形状	部位	口縁	底	内面	外面	内面	外面			
79	土器 高坪G	日曜山跡	5G18	05XN17	底	20.4	浅褐色	浅褐色	緑・黒	なし	なし		
80	土器 高坪G	日曜山跡	5G14	05XN17	底		11.2	黄褐色	浅褐色	黒・赤・青	なし	ナブ	
81	土器 高坪G	日曜山跡	5G18	05XN17	底			灰白色	灰白色	緑・黒	なし	ナブ・ミザキ	
82	土器 高坪G	日曜山跡	5G18	05XN17	底			黄褐色	浅褐色	緑・赤・青	なし	ナブ	
83	土器 高坪	日曜山跡	5G14	05XN17	底	23.7		浅褐色	浅褐色	緑・赤・青	なし	赤い	
84	土器 高坪	日曜山跡	5G14	05XN17	底		25.4	浅褐色	浅褐色	緑・赤・青	なし	赤い	
85	土器 赤A	1期	2C	02XN166	腹	21.2		浅褐色	浅褐色	緑・赤	なし	ナブ・ハナ	
86	土器 赤A	1期	2E	02XN166	腹	16.3		浅褐色	浅褐色	緑・赤	なし	ナブ	
87	土器 赤A	1期	3C3	02XN166	腹			浅褐色	浅褐色	緑・赤	なし	赤い	
88	土器 赤A	1期	11R22	05XN127	腹	15.8		灰白色	灰白色	緑・黒	なし	ナブ	
89	土器 赤A	1期	11R22	05XN127	腹	15.5		灰白色	灰白色	緑・黒	なし	ナブ・ハナ	
90	土器 赤A	1期	11R2	05XN127	腹	20.3		灰白色	灰白色	緑	なし	ナブ	
91	土器 赤A	1期	11R22	05XN127	腹	17.0		黄褐色	黄褐色	緑・赤	なし	ナブ	
92	土器 赤A	1期	11R22	05XN127	腹	14.4		浅褐色	浅褐色	緑・赤	なし	ナブ	
93	土器 赤A	1期	11R22	05XN127	腹	15.7		灰白色	灰白色	緑・赤・青	なし	ナブ・ハナ	
94	土器 赤A	1期	11R22	05XN127	腹	12.2		黄褐色	黄褐色	緑・赤	なし	ナブ	
95	土器 赤G	1期	11R22	05XN127	腹	22.8		黄褐色	黄褐色	緑・赤	なし	ナブ	
96	土器 赤G	1期	11R22	05XN127	腹	16.6		灰白色	灰白色	緑・赤・青	なし	ナブ	
97	土器 赤G	1期	11R2	05XN127	腹	16.8		灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ	
98	土器 赤G	1期	11R22	05XN127	腹	18.2		灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ・ハナ	
99	土器 赤G	1期	11R22	05XN127	腹	17.8		灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ	
100	土器 赤G?*	1期	11R2	05XN127	腹	18.0		灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ	
101	土器 赤G	1期	11R22	05XN127	腹	11.4		黄褐色	黄褐色	緑・赤	なし	ナブ	
102	土器 赤G	1期	11R22	05XN127	腹	23.8		黄褐色	黄褐色	緑・赤	なし	ナブ	
103	土器 赤G	1期	11R22	05XN127	腹	13.4		灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ	
104	土器 赤G	1期	11R22	05XN127	腹	18.2		灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ	
105	土器 赤G	1期	11R2	05XN127	腹	20.4		灰白色	灰白色	緑	なし	ナブ	
106	土器 赤G	1期	11R22	05XN127	腹	18.0		灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ	
107	土器 赤G	1期	11R22	05XN127	腹		4.0	灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ	
108	土器 赤A	1期	11R22	05XN127	腹	17.8		黄褐色	黄褐色	緑・赤・青	なし	ナブ	
109	土器 赤A	1期	11R2	05XN127	腹	16.8		灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ	
110	土器 赤白D	1期	11R22	05XN127	腹	17.6		黄褐色	黄褐色	緑・赤	なし	ナブ	
111	土器 赤白D	1期	11R22	05XN127	腹			黄褐色	黄褐色	緑	なし	ナブ	
112	土器 赤A	1期	10K10	05XN218	底	18.0		黄褐色	黄褐色	緑・赤	なし	ナブ	
113	土器 赤A	1期	1111	05XN218	底	19.9		浅褐色	浅褐色	緑・赤	なし	ナブ	
114	土器 赤G?	1期	11R2	05XN127	底	18.2		黄褐色	黄褐色	緑・赤	なし	ナブ	
115	土器 赤G?	1期	11R2	05XN127	底	16.7		黄褐色	黄褐色	緑・赤	なし	ナブ	
116	土器 赤G	1期	11R2	05XN127	底	14.0		灰白色	灰白色	緑・赤・青	なし	ナブ	
117	土器 赤H	1期	10K5	05XN128	底	18.0		浅褐色	浅褐色	緑・赤・青	なし	ナブ	
118	土器 赤A	1期	1111	05XN218	底	2.4	4.6	9.6	黄褐色	黄褐色	緑・赤・青	なし	ナブ
119	土器 赤A	1期	1111	05XN218	底	3.2	3.3	14.2	黄褐色	黄褐色	緑・赤・青	なし	ナブ
120	土器 高坪F	1期	11R6	05XN218	底	23.4	15.5	13.6	黄褐色	黄褐色	緑・赤	なし	赤い
121	土器 高坪F	1期	1111	05XN218	底				灰白色	灰白色	緑・赤・青	なし	赤い
122	土器 赤A	1期	10K11	05XN128	底	20.5	6.9	32.5	灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ
123	土器 赤A	1期	5F	033R061	中腹	13.8		灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ	
124	土器 赤A	1期	4F	033R061	中腹	19.6		浅褐色	浅褐色	緑・赤	なし	ナブ	
125	土器 赤A	1期	4F	033R061	中腹	20.0		灰白色	灰白色	緑・赤	なし	ナブ	
126	土器 赤A	1期?	3F	033R061	中腹	15.8		灰白色	灰白色	緑・赤・黒	なし	ナブ	
127	土器 赤A	1期	3F	033R061	中腹	15.4		黄褐色	黄褐色	緑	なし	ナブ	
128	土器 赤A	1期	4F	033R061	中腹	18.0		浅褐色	浅褐色	緑・赤	なし	ナブ	
129	土器 赤E	1期	4F	033R061	中腹	14.8		黄褐色	黄褐色	赤・黒	なし	ナブ	
130	土器 赤F	1期	7F	033R061	中腹	18.9		浅褐色	浅褐色	緑	なし	ナブ	
131	土器 赤B	1期	6G	033R061	中腹	15.8		灰白色	灰白色	赤	なし	ナブ	
132	土器 赤B	1期	5G	033R061	中腹	13.4		灰白色	黄褐色	黒・赤	なし	ナブ	
133	土器 赤H	1期	7F	033R061	中腹	13.4		灰白色	灰白色	赤	なし	ナブ	
134	土器 赤H	1期	7F	033R061	中腹	17.0		灰白色	灰白色	赤・黒	なし	ナブ	
135	土器 赤H	1期	3F	033R061	中腹	13.2		灰白色	灰白色	赤	なし	ナブ	
136	土器 赤H	1期	5F	033R061	中腹	15.8		灰白色	灰白色	赤・黒	なし	ナブ	
137	土器 赤H	1期	4F	033R061	中腹	16.4		灰白色	灰白色	赤・黒	なし	ナブ	
138	土器 赤H	1期	7F	033R061	中腹	21.3		灰白色	灰白色	赤・黒	なし	ナブ	
139	土器 赤G	1期	5F	033R061	中腹	15.7		灰白色	灰白色	赤・黒	なし	ナブ	
140	土器 赤G	1期	4F	033R061	中腹	14.4		灰白色	灰白色	赤・黒	なし	ナブ	
141	土器 赤G	1期	4F	033R061	中腹	18.0		黄褐色	黄褐色	赤・黒・赤	なし	ナブ	
142	土器 赤G	1期	4F	033R061	中腹	16.6		黄褐色	黄褐色	赤・黒	なし	ナブ	
143	土器 赤A	1期	4F	033R061	中腹	15.7		黄褐色	黄褐色	赤・黒	なし	ナブ	
144	土器 赤A	1期	3F	033R061	中腹	15.2	20.5	22.5	黄褐色	黄褐色	赤・黒・赤	なし	ナブ
145	土器 赤A	1期?	3F	033R061	中腹	19.4	24.1	36.0	浅褐色	浅褐色	赤・黒	なし	ナブ
146	土器 赤A	1期	4F	033R061	中腹	15.6		灰白色	灰白色	赤・黒	なし	ナブ	
147	土器 赤A	1期	7F	033R061	中腹	16.4		浅褐色	浅褐色	赤・黒	なし	ナブ	
148	土器 赤H	1期	4F	033R061	中腹	14.0		灰白色	灰白色	赤・黒・赤	なし	ナブ	
149	土器 赤H	1期	4F	033R061	中腹	17.5		浅褐色	浅褐色	赤・黒・赤	なし	ナブ	
150	土器 赤H	1期?	4F	033R061	中腹	14.0		黄褐色	黄褐色	赤・黒・赤	なし	ナブ	
151	土器 赤H	1期	4F	033R061	中腹	15.7		黄褐色	黄褐色	赤・黒・赤	なし	ナブ	
152	土器 赤H	1期	4E1	033R061	中腹	16.7		灰白色	灰白色	赤・黒	なし	ナブ	
153	土器 赤A	1期	4F	033R061	中腹	18.0		黄褐色	黄褐色	赤・黒	なし	ナブ	
154	土器 赤A	1期	4F	033R061	中腹	14.6		黄褐色	黄褐色	赤・黒・赤	なし	ナブ	
155	土器 赤A	1期	4F	033R061	中腹	15.8		黄褐色	黄褐色	赤・黒・赤	なし	ナブ	
156	土器 赤A	1期	4F	033R061	中腹	14.0		灰白色	灰白色	赤・黒	なし	ナブ	
157	土器 赤B	1期	4F	033R061	中腹	12.5		灰白色	灰白色	赤・黒	なし	ナブ	

土器・陶磁器観察表 (3)

番号	種別	時期	出土地	位置	用途	色	文様	形状	特徴	備考	
番号	種別	時期	出土地	位置	用途	色	文様	形状	特徴	備考	
158	土器 香	香	77	0301001	中層	11.6	黄褐色 黄褐色	砂・黒・角	なし	ナブ	
159	土器 香N	香	79	0301001	中層	22.0	灰白色 灰白色	砂・黒・角	なし	ナブ	二口直縁・片取脚
160	土器 香N	香	49	0301001	中層	18.6	浅褐色 浅褐色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
161	土器 香N?	香	49	0301001	中層	22.6	浅褐色 浅褐色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	
162	土器 香N	香	49	0301001	中層	19.2	黄褐色 黄褐色	砂・黒・角	なし	ナブ・ミダテ	
163	土器 香N	香	39	0301001	中層	9.9	黄褐色 灰白色	砂・黒・角	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
164	土器 香M	香	49	0301001	中層	29.0	黄褐色 黄褐色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	横状文・5段
165	土器 香M	香	39	0301001	中層	23.5	灰白色 灰白色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	横状文・5段
166	土器 香M	香	49	0301001	中層	11.5	灰白色 灰白色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	横状文・5段
167	土器 香M	香	49	0301001	中層	27.2	黄褐色 黄褐色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	横状文
168	土器 香P?	香	49	0301001	中層		4.2 灰白色 灰白色	砂・黒・石・角	なし	ナブ	内外面赤
169	土器 香P?	香	49	0301001	中層	8.2 17.1	3.2 灰白色 灰白色	砂・黒・石	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
170	土器 香P	香	49	0301001	中層	8.2	灰白色 灰白色	黒・赤	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
171	土器 香P	香	49	0301001	中層		5.8 灰白色 灰白色	黒・赤・角	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
172	土器 香P?	香	49	0301001	中層	11.0	灰白色 灰白色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
173	土器 香P?	香	39	0301001	中層	8.0	13.0 3.3 黄褐色 黄褐色	砂・黒・赤・石	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
174	土器 高坪 香	香	39	0301001	中層		浅褐色 浅褐色	黒	なし	ナブ	内外面赤
175	土器 高坪F	香	49	0301001	中層	12.5	灰白色 灰白色	砂・黒・角	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
176	土器 高坪F	香	49	0301001	中層	11.4	灰白色 灰白色	砂	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
177	土器 高坪F	香	39	0301001	中層		灰白色 灰白色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
178	土器 高坪F	香	40	0301001	中層		11.8 黄褐色 黄褐色	砂・黒・赤・角	なし	ナブ	内外面赤
179	土器 高坪F	香	70	0301001	中層		19.0 灰白色 灰白色	砂・黒・赤・角	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
180	土器 高坪F	香	60	0301001	中層		12.0 灰白色 灰白色	砂・黒・赤	なし	ナブ	内外面赤
181	土器 高坪F	香	49	0301001	中層		17.2 灰白色 灰白色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
182	土器 高坪F	香	70	0301001	中層	19.3 15.8	15.2 浅褐色 浅褐色	黒・赤・角	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
183	土器 高坪F	香	49	0301001	中層	18.8	黄褐色 黄褐色	砂・黒・赤	なし	ナブ	内外面赤
184	土器 高坪F	香	49	0301001	中層	19.7	黄褐色 黄褐色	砂・黒・赤・角	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
185	土器 高坪G	香	49	0301001	中層	16.3 9.8	11.4 黄褐色 黄褐色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
186	土器 高坪G	香	70	0301001	中層	17.0	黄褐色 黄褐色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
187	土器 高坪G	香	79	0301001	中層	20.1	黄褐色 黄褐色	砂・黒・赤	あり	ナブ	内外面赤
188	土器 高坪	香	49	0301001	中層		灰白色 灰白色	黒	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
189	土器 高坪?	香	39	0301001	中層	6.4	黄褐色 黄褐色	砂・黒・角	なし	ナブ	内外面赤
190	土器 高坪	香	79	0301001	中層		11.4 黄褐色 黄褐色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
191	土器 高坪?	香	49	0301001	中層		18.4 灰白色 灰白色	砂・黒・赤・角	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
192	土器 高坪?	香	49	0301001	中層		8.3 浅褐色 浅褐色	砂・黒・角	なし	ナブ	内外面赤
193	土器 高坪?	香	60	0301001	中層		8.8 黄褐色 黄褐色	砂・黒・赤	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
194	土器 高坪H	香	39	0301001	中層	9.0	黄褐色 黄褐色	砂・黒・赤	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
195	土器 高坪H	香	49	0301001	中層	8.0 7.6	12.0 黄褐色 黄褐色	砂・黒・赤	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
196	土器 高坪H	香	49	0301001	中層	9.8 7.8	13.0 浅褐色 浅褐色	砂・黒・赤	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
197	土器 高坪H	香	49	0301001	中層	8.8	浅褐色 浅褐色		なし	ナブ	内外面赤
198	土器 高坪H	香	49	0301001	中層	9.8 8.8	14.2 黄褐色 黄褐色	砂・黒・赤	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
199	土器 高坪H	香	49	0301001	中層	8.8 8.6	11.6 灰白色 灰白色	黒・赤	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
200	土器 高坪H	香	49	0301001	中層	8.4 8.2	13.4 黄褐色 黄褐色	砂・黒・赤	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
201	土器 高坪H	香	49	0301001	中層	8.6 9.9	13.6 灰白色 灰白色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
202	土器 高坪G	香	39	0301001	中層	8.2	浅褐色 浅褐色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
203	土器 高坪G	香	49	0301001	中層		11.5 黄褐色 黄褐色	砂・黒	なし	ナブ	内外面赤
204	土器 高坪D	香	79	0301001	中層		灰白色 灰白色	砂・黒・角	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
205	土器 高坪F	香	49	0301001	中層	8.6 9.4	13.4 灰白色 灰白色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
206	土器 高坪F	香	49	0301001	中層	9.4 9.1	13.8 灰白色 灰白色	砂・黒・赤	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
207	土器 高坪C	香	49	0301001	中層		黄褐色 黄褐色	砂・黒・角	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
208	土器 高坪C	香	49	0301001	中層	10.4	12.0 黄褐色 黄褐色	砂・黒・角	なし	ナブ・ミダテ	内外面赤
209	土器 高坪C	香	39	0301001	中層		灰白色 灰白色	砂・黒・角	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
210	土器 高坪	香	49	0301001	中層	9.8 11.2	4.6 浅褐色 浅褐色	砂・黒・赤	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
211	土器 香O	香	49	0301001	中層	12.8	灰白色 灰白色	黒	あり	ナブ・ミダテ	内外面赤
212	土器 香L?	香	79	0301001	中層		黄褐色 黄褐色	黒・赤・角	なし	ナブ	
213	土器 香L?	香	49	0301001	中層	3.7 7.6	灰白色 灰白色	砂・黒・赤	あり	ナブ	
214	土器 香L?	香	60	0301001	中層	8.3 8.4	2.5 黄褐色 黄褐色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	
215	土器 香L	香	49	0301001	中層	9.8	黄褐色 黄褐色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	
216	土器 香L	香	49	0301001	中層	10.2	黄褐色 黄褐色	砂・黒	あり	ナブ	
217	土器 香L	香	49	0301001	中層	12.4 14.5	2.4 灰白色 灰白色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	
218	土器 香L	香	39	0301001	中層	17.8	灰白色 灰白色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	
219	土器 香L	香	49	0301001	中層	13.8	浅褐色 浅褐色	砂・黒	なし	ナブ	
220	土器 香L	香	4.6-5G	0301001	中層	11.2	灰白色 灰白色	黒・赤	あり	ナブ	
221	土器 香L	香	49	0301001	中層	8.7 6.6	3.5 灰白色 灰白色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	
222	土器 香L	香	49	0301001	中層	11.7 11.8	4.19 黄褐色 黄褐色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	
223	土器 香L	香	59	0301001	中層	12.3	浅褐色 浅褐色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	
224	土器 香L	香	49	0301001	中層	13.0 8.5	3.0 灰白色 灰白色	砂・黒	あり	ナブ・ミダテ	
225	土器 香L	香	49	0301001	中層	8.0 6.5	2.0 黄褐色 黄褐色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	
226	土器 香L	香	39	0301001	中層	8.6	にがみ 褐色	黒	なし	ナブ	
227	土器 香L	香	79	0301001	中層	18.7	灰白色 灰白色	砂・黒・赤	なし	ナブ・ミダテ	
228	土器 香L	香	49	0301001	中層	15.5	灰白色 灰白色	砂・黒・赤	あり	ナブ・ミダテ	
229	土器 香L	香	49	0301001	中層	17.8	灰白色 灰白色	砂・黒・赤	あり	ナブ・ミダテ	
230	土器 比類器 香	香	4.6G	0301001	中層	16.2	灰白色 灰白色	砂・黒	なし	ナブ・ミダテ	
231	土器 香	香	70	0301001	下層		灰白色 灰白色	砂	なし	ナブ	
232	土器 香	香	46G	0301001	下層	16.7	灰白色 灰白色	砂	あり	ナブ	
233	土器 香	香	79	0301001	下層	20.0	灰白色 灰白色	砂	なし	ナブ	
234	土器 香P	香	39	0301001	下層	10.8 18.0	黄褐色 黄褐色	砂	なし	ナブ	
235	土器 香P	香	4.6G	0301001	下層	2.4 4.7	12.2 黄褐色 黄褐色	砂	なし	ナブ	
236	土器 高坪	香	79	0301001	下層	11.8 8.0	9.8 浅褐色 浅褐色	砂・黒	なし	ナブ	
237	土器 高坪	香	39	0301001	下層		3.0 浅褐色 浅褐色	砂・黒	なし	ナブ	

遺物観察表

土器・陶磁器観察表(4)

編年番号	種類	器種	時期	出土地		器位	口径	高さ	底径	重量 (g)	色澤		胎土		底面	磨面		備考	
				場所	層位						内面	外面	内面	外面		内面	外面		
238	土師器	鉢H	早期	461	03040101	下層	10.6	7.5	1.8	灰白色	灰白色	黄・青・黒	なし	あり	なし	ナデ・ミダヤ	ナデ・ミダヤ	内面赤黒	
239	土師器	蓋A	1期?		03040101		3.2	5.2	12.6	濃褐色	濃褐色	砂・赤・石	あり	あり	なし	ナデ・ミダヤ	ナデ・ミダヤ		
240	土師器	高坪F	1期	3F	03040101				10.0	灰白色	灰白色	砂・黒	あり	なし	なし	ナデ・ミダヤ	ナデ・ミダヤ	断面透孔4個	
241	土師器	蓋O	1期	4F	03040101		6.8	4.5	1.6	濃褐色	濃褐色	砂・黒	なし	あり	なし	ナデ	ナデ		
242	土師器	蓋O	1期		03040101		9.8	6.5		濃褐色	濃褐色	黒・角・計	なし	あり	なし	ナデ	ナデ	底面穿孔の可能性あり	
243	土師器	蓋O	1期		03040101		8.8	5.7		濃褐色	濃褐色	砂・計	あり	あり	なし	ナデ	ナデ・クダヤ		
244	土師器	鉢C	1期?		03040101		7.3	6.6	3.0	灰白色	灰白色	砂・赤・角	あり	あり	なし	ナデ・クダヤ	ナデ・クダヤ		
245	土師器	鉢?	1期?	3F	03040101		11.8	11.2	2.0	灰白色	灰白色	砂・石・計	なし	なし	なし	ナデ・ミダヤ	ナデ・ミダヤ	底面断面穿孔? 観察	
272	土師器	甕A	1期	4617		Ⅱ-1	14.1			浅褐色	浅褐色	砂・黒・計	なし	あり	なし	ナデ	ナデ・ハク		
273	土師器	甕A	1期	5833		Ⅱ-1	19.0			浅褐色	浅褐色	砂・赤・石	なし	あり	なし	ナデ	ナデ		
274	土師器	甕A	1期	3C15		Ⅱ-1	22.0			濃褐色	濃褐色	砂・赤・石	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
275	土師器	甕A	1期	58420		Ⅱ-1	24.1			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
276	土師器	甕A	1期	4C18		Ⅱ-1	15.6			灰白色	浅褐色	砂・黒	なし	あり	なし	ナデ	ナデ		
277	土師器	甕A	1期	3C24		Ⅱ-1	14.1			濃褐色	濃褐色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
278	土師器	甕A	1期	2D10		Ⅱ-1	13.0			黄褐色	黄褐色	砂・黒	あり	あり	なし	ナデ	ナデ		
279	土師器	甕A	1期	3C11		Ⅱ-1	15.0			黄褐色	黄褐色	砂・赤・角	なし	あり	なし	ナデ	ナデ・ハク		
280	土師器	壺H	1期	193		Ⅱ-1	15.6			濃褐色	濃褐色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ・ハク		
281	土師器	壺H	1期	1D10		Ⅱ-1	17.2			黄褐色	黄褐色	砂・黒・計	なし	なし	なし	ナデ	ナデ・ハク		
282	土師器	壺?	1期	301		Ⅱ-1				濃褐色	濃褐色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ・ミダヤ		
283	土師器	壺M	1期	8G23		Ⅱ-1	22.8			濃褐色	濃褐色	砂・黒	あり	なし	なし	ナデ	ナデ	底面断面穿孔	
284	土師器	高坪G	1期	6G19		Ⅱ-1				浅褐色	浅褐色	砂・赤・計	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
285	土師器	甕台H	1期	1D10		Ⅱ-1	9.6	8.4	15.0	浅褐色	浅褐色	砂・赤・角	なし	なし	なし	ナデ	ナデ	断面透孔3個	
286	土師器	甕台G	1期	7G14		Ⅱ-1				濃褐色	濃褐色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ・ミダヤ	ナデ・ミダヤ	断面透孔3個・底縁文(底面7条一帯)	
287	土師器	甕台H	1期	3C30		Ⅱ-1	10.9			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	なし	ナデ	ナデ	断面透孔1個以上	
288	土師器	甕台H	1期	3C19		Ⅱ-1				浅褐色	浅褐色	砂・黒	なし	あり	なし	ナデ	ナデ	断面透孔1個以上	
289	土師器	甕台H	1期?	3C24		Ⅱ-1	12.9			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ・ハク	ナデ・ミダヤ	断面透孔4個	
290	土師器	甕台	1期?	2C9		Ⅱ-1				濃褐色	濃褐色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ・ハク	ナデ・ミダヤ	断面透孔3個	
291	土師器	鉢A	古墳前期	4C21		Ⅱ-1	3.8			灰白色	灰白色	砂・赤・計	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
292	土師器	甕A	1期	3C11		Ⅱ-2	19.4			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	なし	ナデ	ナデ・ハク		
293	土師器	甕A	1期	4C12		Ⅱ-2	19.6			灰白色	浅褐色	砂・赤・石	なし	あり	なし	ナデ	ナデ・ハク		
294	土師器	甕A	1期	9D18		Ⅱ-2	17.0			濃褐色	濃褐色	砂・黒	なし	あり	なし	ナデ・クダヤ?	ナデ		
295	土師器	甕A	1期	3C14		Ⅱ-2	18.9			浅褐色	浅褐色	砂・赤・計	なし	あり	なし	ナデ	ナデ		
296	土師器	甕A	1期	3C11		Ⅱ-2	17.2			灰白+褐色	灰白+褐色	砂・黒	あり	あり	なし	ナデ	ナデ・ハク		
297	土師器	甕A	1期	9D18		Ⅱ-2	15.6			浅褐色	浅褐色	砂・黒	なし	あり	なし	ナデ	ナデ・ハク		
298	土師器	甕B	1期	3C12		Ⅱ-2	15.9			黄褐色	黄褐色	砂・赤・計	なし	あり	なし	ナデ・ナデ	ナデ・ハク		
299	土師器	壺H	1期	3C15		Ⅱ-2	16.7			濃褐色	濃褐色	砂・赤・角	あり	あり	なし	ナデ	ナデ		
300	土師器	壺H	1期	9F1		Ⅱ-2	19.0			灰白+褐色	褐色	砂・黒	なし	あり	なし	ナデ	ナデ		
301	土師器	壺H	1期	3C12		Ⅱ-2	19.8			濃褐色	濃褐色	砂・赤・石	なし	なし	なし	ナデ・ハク	ナデ・ハク		
302	土師器	甕H	1期	4D8		Ⅱ-2	19.9			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
303	土師器	壺H	1期	3C30		Ⅱ-2	18.4			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
304	土師器	壺H	1期	5D12		Ⅱ-2	24.8			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
305	土師器	壺H	1期	3C19		Ⅱ-2	20.8			浅褐色	浅褐色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
306	土師器	甕M	1期	3C22		Ⅱ-2	15.7			黄褐色	黄褐色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ	縁文浮文一致縦一	
307	土師器	色	1期	4G18		Ⅱ-2	14.7			浅褐色	浅褐色	砂・赤・計	なし	なし	なし	ナデ	ナデ	出縁文・底面隆起?	
308	土師器	甕A	1期	3C11		Ⅱ-2	2.3			灰白色	灰白色	黄・赤・角	あり	なし	なし	ミダヤ?	ミダヤ?		
309	土師器	高坪C	1期	3D12		Ⅱ-2	13.6			浅褐色	浅褐色	砂・赤	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
310	土師器	高坪G	1期	10G17		Ⅱ-2				13.6	灰白色	灰白色	砂・赤・赤	なし	なし	なし	ナデ	ナデ	
311	土師器	甕台H	1期	3C11		Ⅱ-2	10.8			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ・ミダヤ	ナデ・ミダヤ	断面透孔3個 内面赤黒	
312	土師器	甕台H	1期	4C10		Ⅱ-2	9.0			濃褐色	濃褐色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ	断面透孔3個	
313	土師器	甕台	1期	9D11		Ⅱ-2	11.0			浅褐色	浅褐色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ	断面透孔4個?	
314	土師器	甕台	1期	4C8		Ⅱ-2				灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
315	土師器	甕台	1期?	3C11		Ⅱ-2				灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	なし	ナデ	ナデ	断面透孔3個 内面赤黒	
318	土師器	皿	13C後半	10K9	035F1117	層土	1.0	2.5	0.9	灰白+褐色	灰白+褐色	黄・石	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
319	埴輪器	委垂模		10K9	035F1117	層土	6			青灰色	青灰色	石・計	あり	あり	なし	ナデ	ナデ		
320	埴輪器	片口鉢	埴輪中期	10K9	035F1117	層土	2			青灰色	青灰色	石・角	あり	なし	なし	ナデ	ナデ		
321	埴輪器	片口鉢	埴輪中期	10K9	035F1117	層土	2			青灰色	青灰色	石・角	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
322	埴輪器	片口鉢	埴輪中期	11J2	035F1105	層土	1			青灰色	青灰色	石・角・計	あり	あり	なし	ナデ	ナデ		
323	埴輪器	片口鉢	埴輪中期	11J2	035F1100	層土	1			黄褐色	青灰色	石・角・計	あり	なし	なし	ナデ	ナデ		
324	灰胎	皿	10C中葉	13A19	030A1278	層土	2			灰白色	灰白色	石	なし	なし	なし	ナデ	ナデ	縁付高台	
325	土師器	皿	14C	10K8	035K1204	層土	1	10.2	2.6	4.0	灰白+褐色	灰白+褐色	黄・石	なし	なし	なし	ナデ	ナデ	
326	土師器	皿	14C	11G15	035P1028	層土	1	8.6	1.9	3.3	灰白+褐色	灰白+褐色	黄・石	なし	なし	なし	ナデ	ナデ	
343	埴輪器	片口鉢	埴輪中期	13K7		Ⅱ-2				灰白	灰白	石・角	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
344	埴輪器	片口鉢	埴輪中期	13J1		Ⅱ-2				青灰色	青灰色	石・角	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
345	越前産	埴輪	16C前半	13H23		Ⅱ-2				灰白色	灰白色	石	なし	なし	なし	ナデ	ナデ		
346	陶器	模範	16C	13J13		Ⅱ-2	9.8	2.2	5.4	灰白色	灰白色		なし	なし	なし	ナデ	ナデ	断面凹處・底縁	
347	陶器	瓦皿	大正1~2	15H23		Ⅱ-2	13.4	3.0	0.6	灰白色	灰白色		なし	なし	なし	ナデ	ナデ	断面凹處・底縁	
348	青磁	兩口壺	14C~15C後半	13J13		Ⅱ-2				灰白	灰白		なし	なし	なし	ナデ	ナデ	模範?	
349	中国製	兩口壺	14C後半~15C後半	11J5		Ⅱ-2	11.8	2.8	0.9	灰白色	灰白色		なし	なし	なし	ナデ	ナデ		

石製品観察表

発出番号	器種	出土地点		法量 (cm・g)			石材	遺存状況	使用期	備考
		グリッド	層位	長さ	幅	厚さ				
316	管玉	8H15	Ⅱ-1	2.52	0.92		2.76	緑閃石	完整	
317	写玉・和成品	10G6	Ⅱ-1	4.46	1.81	1.18	16.95	燧石	完整、未成玉	孔径0.37〜0.43cm
350	鏝	12F	Ⅱ-2	12.20	5.35	1.40	150.62	燧石産	上部破断	内面に墨痕 前面に製作痕




木製品観察表

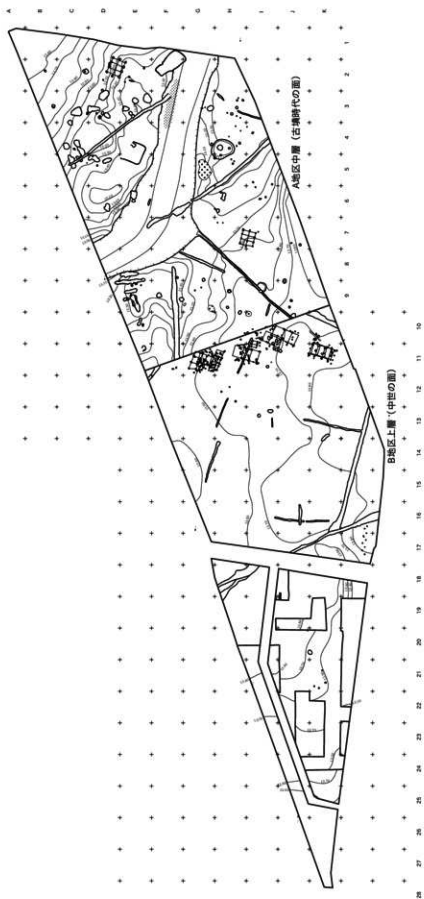
発出番号	器種	出土地点		法量 (cm)			遺存状況	木取り	樹種	備考	
		グリッド	層位	長さ	幅	高さ					
246	覆板	2D16	03SH001	33.8	24.2	4.0	完整	横切	オニグルミ	当り 15.7cm×16.3cm、転用材? 03F49	
247	覆板	2D17	03SH001	36.2	23.8	4.2	完整	横切	オニグルミ	当り 16.3cm×14.4cm、03SK45	
248	板	10Z7	03P1223		37.9	16.2		上部欠	丸材	オニグルミ	
249	板	6G	03H001	中層			1.6	完整	横切	スギ	径2.2cm、中央に内側のくぼみ・輪痕あり
250	漆材	5F	03H001	中層	14.5	14.3	1.2	上部欠	横切	スギ	4条の溝あり
251	不明	4F	03H001	中層	24.8	1.0	0.9		横切	スギ	
252	漆材	6G	03H001	中層	23.5	2.0	1.0	上部欠	横切	スギ	表面と裏面に2個ずつ孔あり
253	不明	3F	03H001	中層	27.5	11.0	1.7	1/2欠	横切	スギ	内面に沿って溝あり
254	不明	5F	03H001	中層	19.7	4.3	1.1	上下欠	横切	スギ	
255	不明	4F	03H001	中層	14.0	11.8	2.7	下部欠	横切	カエデ	裏面にV字状に痕あり
256	丸	7F	03H001	中層	20.1	4.6	4.5	上下欠	横切	トネリコ	断面径10cm
257	不明	5G	03H001	中層	29.7	2.8	1.7	上部欠	横切	スギ	上部にV字状に痕あり
258	弓下駄?	5F	03H001	中〜下層	40.7	2.5	1.5	下部欠	丸切	イタヤ	内面の丸面を加工
259	不明	3F	03H001	中層	48.3	4.0	1.5	完整	横切	スギ	上部に溝あり
260	漆材	7F	03H001	中層	33.4	1.9	1.9	下部欠	丸切	イタヤ	表面を平削り加工
261	背板(漆)	6F	03H001	中層	25.2	18.6		弓欠	横切	スギ	裏面に溝あり
262	組杖木製品	7G	03H001	中層	6.1	16.3	0.8	下部欠	横切	スギ	左右両端取り、穿孔
263	組杖木製品	5G	03H001	中層	13.7	24.6	0.9	完整	横切	スギ	左右両端取り、穿孔
264	漆材	6F	03H001	中層	27.7	14.8	2.0	左側欠	横切	スギ	
265	漆材	7F	03H001	中層	32.5	10.4	1.0	上部欠	横切	スギ	輪痕あり
266	不明	4G	03H001	下層	47.4	3.8	2.0	完整	丸切	スギ	下部をV字状に削り出す
267	漆材	6G	03H001	下層	27.2	3.1	0.9	完整	横切	スギ	3か所穿孔
268	不明	7F	03H001	下層	23.0	3.3	0.8	上部欠	横切	スギ	
269	不明		03H001		22.3	5.2	1.4	上下欠	横切	スギ	下部穿孔
270	組杖木製品		03H001		5.9	15.9	0.8	下部欠	横切	スギ	左右両端取り、穿孔
271	弓下駄?		03H001		40.3	34.8	1.5	左側欠	横切	スギ	
327	漆	4H14・15	SK209	層上層	11.7	5.0		横断	横切	モリシロ	
328	漆	4H14・15	SK209	層上1	34.5	6.2		完整	横切	ニシホウ	
329	漆物	5H12	03SF72	層上5	9.7	11.0		完整	横切	スギ	網印?
330	漆刷毛	4H24	03SK94	層上層	口径9.8、高さ1.4、直径7.2		1/3欠	横切	コナラ	内外面溝、外底面削	
331	漆刷毛	4G24	03SF110	層上2・4	口径10.0、高さ1.0、直径8.0		1/2欠	横切		内外面溝、外底面削、外底面削	
332	漆刷毛	4G24	03SF110	層上1・4	口径9.8、高さ1.2、直径7.8		1/3欠	横切		内外面溝、外底面削、外底面削、網印と網痕	
333	漆物	4H4・5	03SK113	層上層	11.9	16.6		完整	横切	スギ	径15.5〜17.0cm、網印
334	背板?	10I19	03SF1245	層上	2.4	13.1			左右側欠	横切	ヒノキ
335	漆	10I19	03SF1245	層上5	19.9	0.8		下部欠	横切	スギ	
336	漆	10I19	03SF1245	層上	20.1	0.7		上部欠	横切	スギ	
337	漆	10I25	03SF1283	層上5	20.5	0.6		上部欠	横切	スギ	
338	漆	10I25	03SF1283	層上7	21.9	0.8		上部欠	横切	スギ	
339	漆物?	7I20	03SK150	層上1・2	28.8	0.8		上下欠	横切	スギ	輪痕あり
340	丸	7I20	03SK150	層上1・2	42.5	8.5		下部欠	丸切	アサ	径7.2〜7.4cm
341	丸板	11H3	02P1040		41.1	8.9		上部欠	丸切	ケリ	径約2.0cm、03SK006
342	丸板	11H5	03P1077		54.4	7.2		上部欠	丸切	ケリ	径2.8〜3.6cm、03SK005
351	上層漆材	11H5		Ⅱ-2	31.7	8.8		上部欠	横切	スギ	径2.0あり

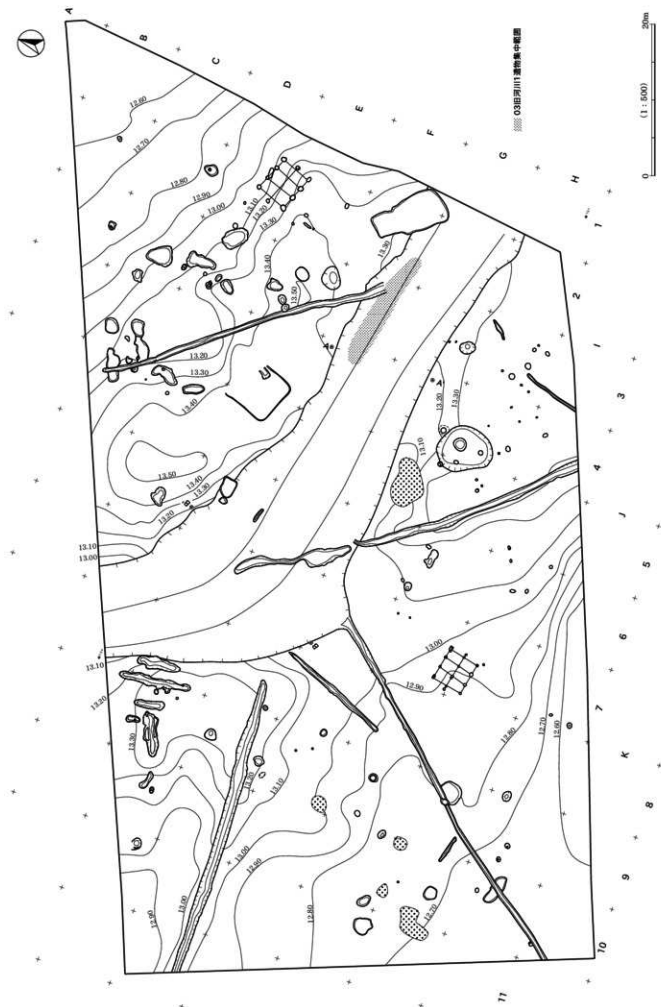
銭貨観察表

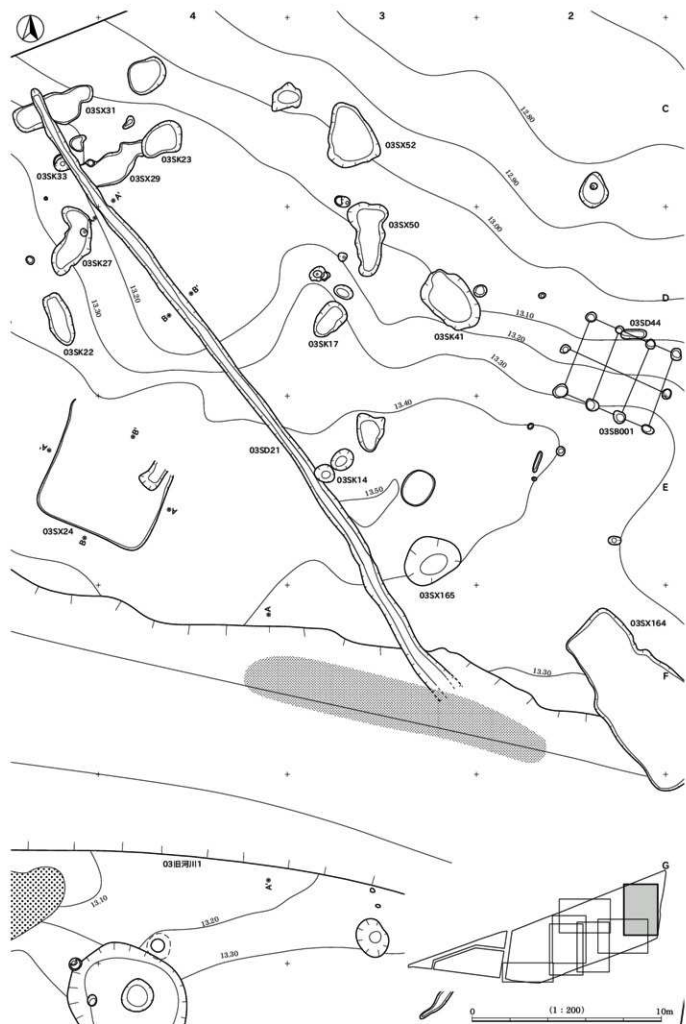
発出番号	銭貨名	出土地点		法量 (mm・g)					鋳年	上製名	備考	
		グリッド	層位	外径	内径	内径	重量	厚さ				
352	開元通寶	11K	Ⅱ-2	24.10	24.15	6.45	6.50	1.30	3.17	621年	唐	背文字
353	宋通元寶	11K	Ⅱ-2	24.35	24.50	6.45	6.20	1.15	3.05	960年	北宋	
354	淳化元寶	11K	Ⅱ-2	25.05	25.05	5.70	5.60	1.05	3.13	990年	北宋	
355	咸平元寶	11K	Ⅱ-2	24.15	24.10	6.75	6.90	1.00	2.20	998年	北宋	
356	天禧通寶	11K	Ⅱ-2	25.35	25.40	6.45	6.30	1.10	3.05	1017年	北宋	
357	天禧通寶	11K	Ⅱ-2	24.75	25.00	5.50	5.45	1.10	3.42	1017年	北宋	孔ずれ
358	天聖元寶	11K	Ⅱ-2	25.00	24.95	6.45	6.60	1.35	3.21	1023年	北宋	
359	皇宋通寶	11K	Ⅱ-2	24.15	24.40	7.30	7.75	1.05	3.11	1038年	北宋	
360	嘉祐元寶	11K	Ⅱ-2	23.35	23.85	5.80	5.95	1.25	3.15	1056年	北宋	
361	元豐通寶	11K	Ⅱ-2	22.15	22.00	6.20	6.05	1.20	2.21	1078年	北宋	
362	元祐通寶	11K	Ⅱ-2	23.25	24.25	6.25	6.20	1.10	2.43	1086年	北宋	
363	紹興元寶	11K	Ⅱ-2	23.95	24.00	5.60	5.85	1.15	2.54	1094年	北宋	
364	聖元元寶	11K	Ⅱ-2	23.10	23.00	6.80	6.85	1.20	2.03	1101年	北宋	
365	天聖元寶	16L10	Ⅱ-2	24.20	24.05	7.50	7.45	1.15	2.06	1023年	北宋	網痕あり
366	元祐通寶	16I19	Ⅱ-2	24.60	24.25	5.95	6.35	1.00	2.41	1086年	北宋	
367	景祐元寶	10J9	Ⅱ-2	22.70	22.95	6.25	6.35	0.85	0.81	1004年	北宋	輪痕と文字面のみ残
368	元祐通寶	15L20	Ⅱ-2	24.35	24.35	6.85	6.90	1.10	3.07	1078年	北宋	
	銭文銭	14G18	Ⅱ-2	20.55	21.05	7.75	7.40	0.70	1.22			写本のみの残

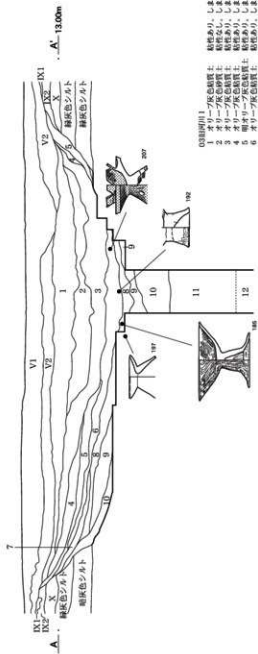
図 版

- 1 礎板・柱根は  のスクリーントーンで示した。
- 2 土師器の赤彩範囲は  のスクリーントーンで示した。
- 3 土器・陶磁器の断面は、灰軸は点描、その他は白抜きとした。
- 4 漆の塗布範囲と腐着物は  のスクリーントーンで示した。
- 5 木製品の木目は、木取部位表示を目的としているため、年輪幅は実際を示していない。
- 6 遺物の写真図版の縮尺は、図面図版と同じである。



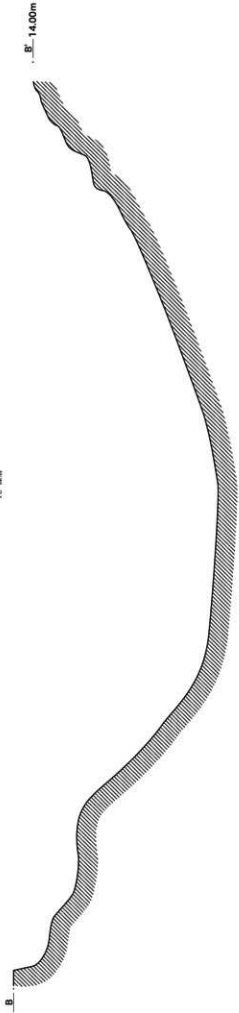


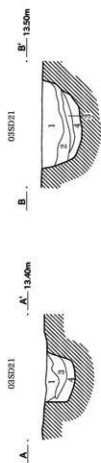




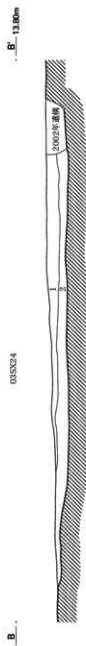
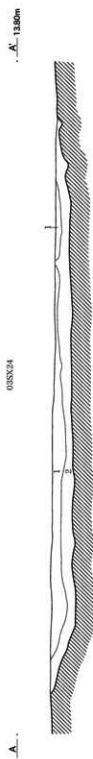
調査坑 1 下段色灰質土
 2 本リコープ段色砂質土
 3 本リコープ段色灰質土
 4 本リコープ段色砂質土
 5 暗トマア段色灰質土
 6 本リコープ段色灰質土
 7 暗トマア段色灰質土
 8 暗トマア段色砂質土
 9 本リコープ段色灰質土
 10 本リコープ段色灰質土
 11 母灰色砂
 12 礎石

緑灰色あり、上層あり、原産物を多量含む。
 黒灰色あり、上層あり、原産物を多量含む。
 緑灰色あり、上層あり、原産物を多量含む。
 黒灰色あり、上層あり、原産物を多量含む。
 暗トマアあり、上層あり、原産物を多量含む。
 本リコープあり、上層あり、原産物を多量含む。
 暗トマアあり、上層あり、原産物を多量含む。
 本リコープあり、上層あり、原産物を多量含む。
 本リコープあり、上層あり、原産物を多量含む。
 本リコープあり、上層あり、原産物を多量含む。
 本リコープあり、上層あり、原産物を多量含む。
 本リコープあり、上層あり、原産物を多量含む。
 本リコープあり、上層あり、原産物を多量含む。



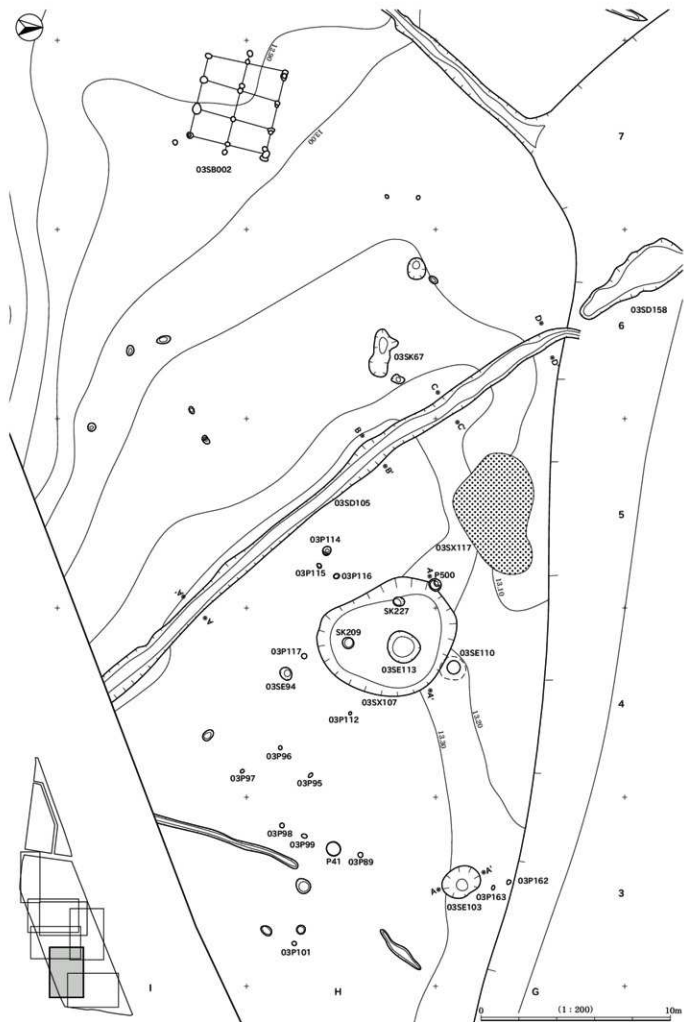


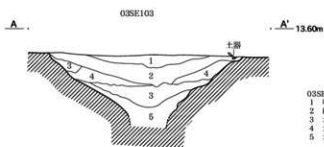
- 03SD21
- 1 黒褐色砂質土
 - 2 黒褐色砂質土
 - 3 黒褐色砂質土
 - 4 黒褐色砂質土



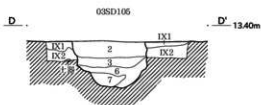
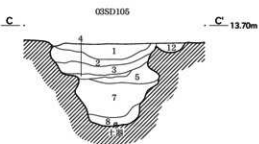
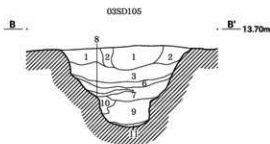
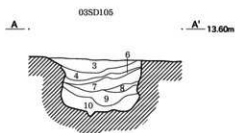
- 03SN24
- 1 黒褐色砂質土
 - 2 黒褐色砂質土



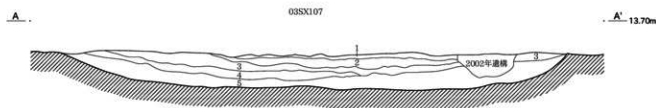




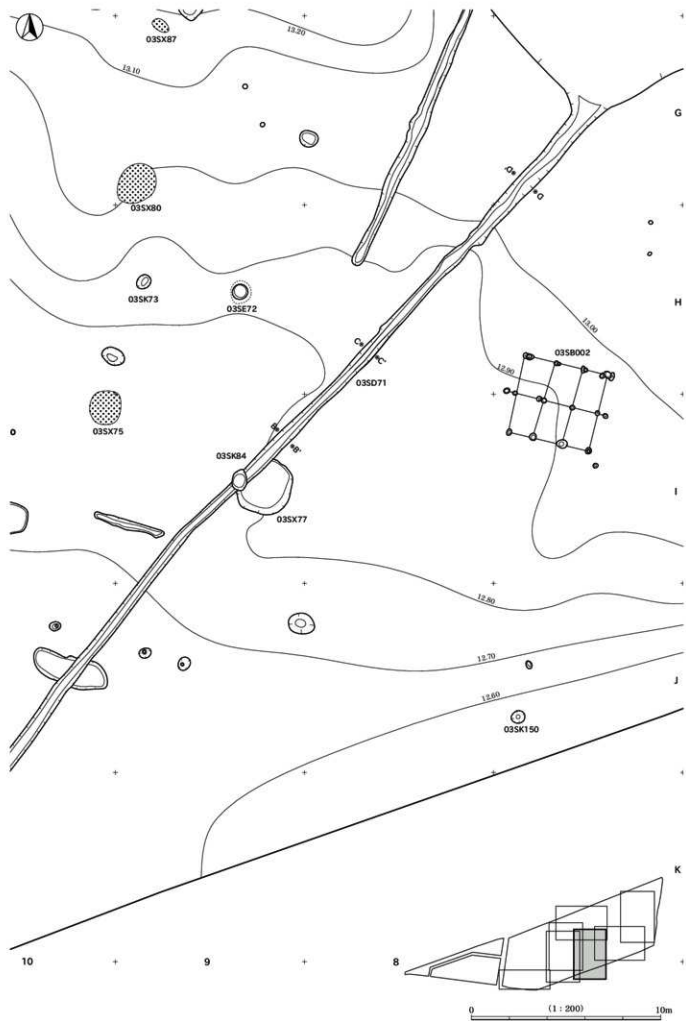
- 03SE103
- | | |
|-------------|------------------------|
| 1 明褐色粘質土 | 粘性あり。しまりあり。IX2層を多く含む。 |
| 2 緑褐色粘質土 | 粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。 |
| 3 オリーブ灰色粘質土 | 粘性あり。しまりあり。炭化物を偏状に含む。 |
| 4 オリーブ褐色粘質土 | 粘性あり。しまりあり。炭化物を含む。 |
| 5 オリーブ灰色粘質土 | 粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。 |

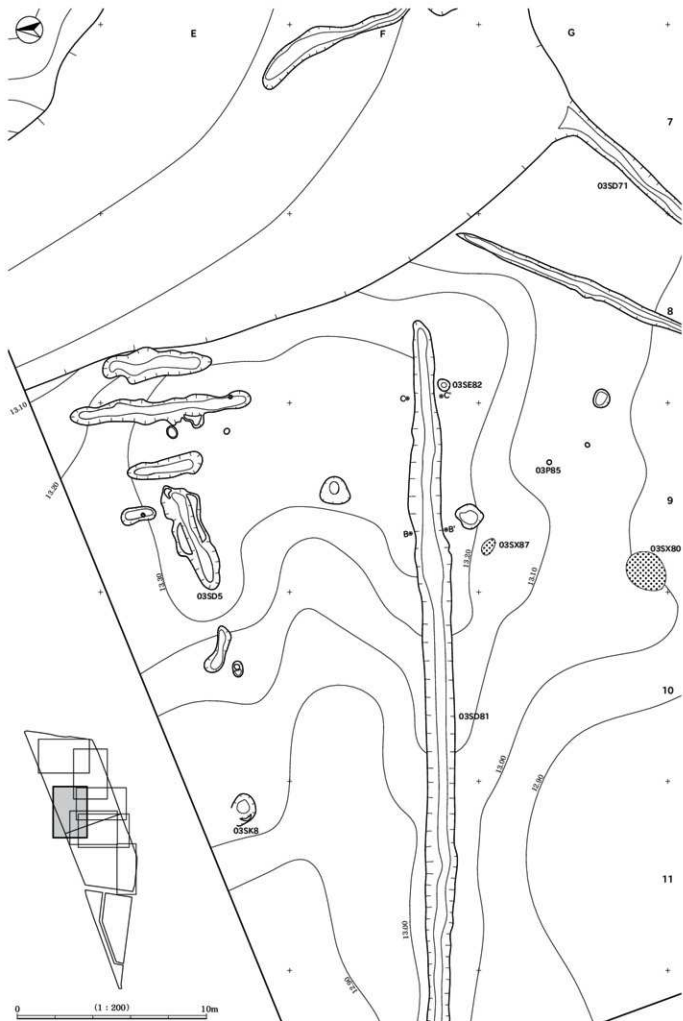


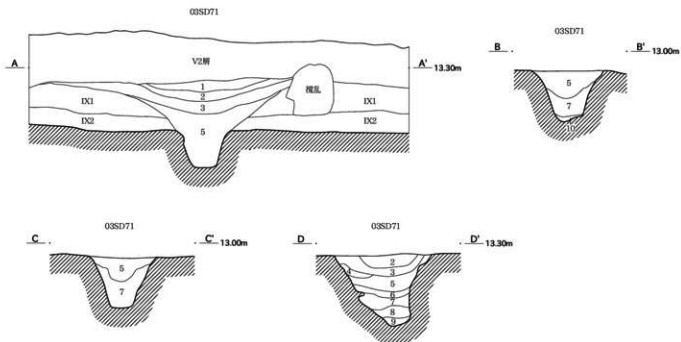
- 03SD105
- | | |
|-----------|--|
| 1 明褐色粘質土 | 粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。暗褐色粘質土をブロック状に含む。 |
| 2 青灰色粘質土 | 粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。暗褐色粘質土を多く含む。 |
| 3 明褐色粘質土 | 粘性ややあり。しまりややあり。 |
| 4 緑褐色粘質土 | 粘性あり。しまりあり。 |
| 5 明褐色粘質土 | 粘性ややあり。しまりややあり。 |
| 6 灰色砂 | 粘性なし。しまりなし。 |
| 7 灰色シルト | 粘性ややあり。しまりなし。 |
| 8 灰色砂質土 | 粘性なし。しまりなし。 |
| 9 灰色シルト | 粘性ややあり。しまりなし。 |
| 10 灰白色シルト | 粘性ややあり。しまりなし。 |
| 11 暗灰色砂 | 粘性なし。しまりなし。 |
| 12 青灰色粘質土 | 粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。 |



- 03SX107
- | | |
|----------|----------------------------|
| 1 暗灰色粘質土 | 粘性あり。しまりややあり。 |
| 2 灰色粘質土 | 粘性あり。しまりややあり。灰色粘質土を少量含む。 |
| 3 灰色粘質土 | 粘性あり。しまりややあり。灰色粘質土をやや多く含む。 |
| 4 灰色粘質土 | 粘性あり。しまりややあり。 |
| 5 灰色粘質土 | 粘性あり。しまりややあり。炭化物を多く含む。 |

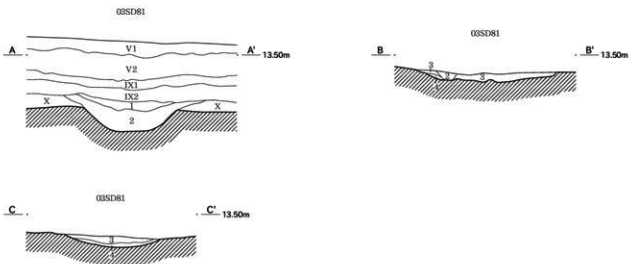






03SD71

- 1 オリーブ褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、灰色粘質土の酸化した土。
- 2 オリーブ褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、1層より酸化的で細かい砂が干固い。
- 3 オリーブ褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を凝状に含む。
- 4 暗青灰色土 粘性なし、しまりなし。
- 5 暗青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を多く含む。IX1層に類似する。
- 6 灰色土 粘性ややあり、しまりややあり。
- 7 灰色土 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物、腐植物を多く含む。
- 8 暗青灰色土 粘性ややあり、しまりややあり。
- 9 暗青灰色土 粘性ややあり、しまりややあり、灰色土をブロック状に含む。
- 10 灰オリーブ色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を多く含む。



03SD81

- 1 暗オリーブ灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、X層に類似する。
- 2 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を多く含む。
- 3 褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。灰色粘質土をごく少量含む。
- 4 赤い褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む、灰色粘質土を多く含む。

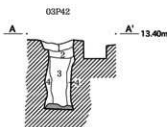
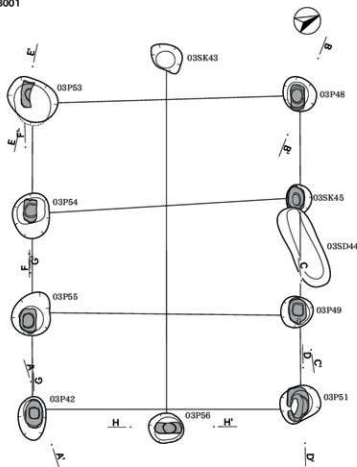


03SX1322
 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり。炭化物を多く含む。
 2 灰白色粘質土 粘性あり、しまりあり。炭化物をごく少量含む。

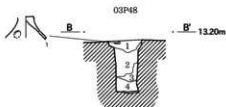
0 1 2 (1:40) 2m
 南面図

0 10 9 (1:200) 10m

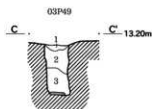
03SB001



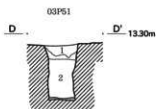
- 03P42
- | | |
|-------------|----------------------------|
| 1 青灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。 |
| 2 オリーブ灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、明赤褐色粘質土を帯状に含む。 |
| 3 灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。 |
| 4 オリーブ灰色粘質土 | 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。 |



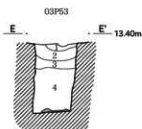
- 03P48
- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1 黒褐色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。 |
| 2 灰オリーブ色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。 |
| 3 灰オリーブ色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。 |
| 4 灰色粘質土 | 粘性あり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。 |



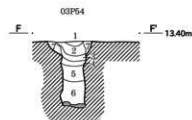
- 03P49
- | | |
|------------|------------------------|
| 1 赤い赤褐色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物を多く含む。 |
| 2 灰褐色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物を多く含む。 |
| 3 灰褐色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。 |



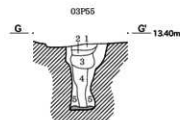
- 03P51
- | | |
|----------|----------------------|
| 1 灰褐色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。 |
| 2 灰褐色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物を多く含む。 |



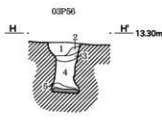
- 03P53
- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 1 青灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。 |
| 2 オリーブ灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、明赤褐色粘質土をブロック状に含む。 |
| 3 明赤褐色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。青灰色粘質土を多く含む。 |
| 4 灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。 |



- 03P54
- | | |
|-------------|--|
| 1 青灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。 |
| 2 オリーブ灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、明赤褐色粘質土をブロック状に含む。 |
| 3 赤褐色粘質土 | 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物を多く含む。 |
| 4 オリーブ灰色粘質土 | 粘性あり、しまりややあり、炭化物を多く含む。 |
| 5 オリーブ灰色粘質土 | 粘性あり、しまりややあり、炭化物を少量含む。 |
| 6 灰色粘質土 | 粘性あり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。 |
| 7 青灰色粘質土 | 粘性あり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。赤褐色粘質土をブロック状に含む。 |



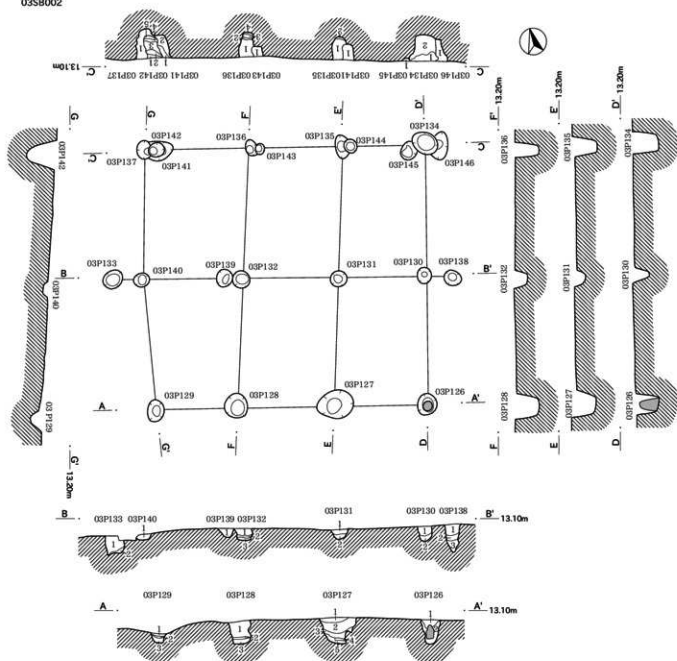
- 03P55
- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 1 青灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。 |
| 2 明赤褐色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。青灰色粘質土を多く含む。 |
| 3 灰色粘質土 | 粘性ややあり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。 |
| 4 灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。 |
| 5 オリーブ灰色粘質土 | 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。 |



- 03P56
- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 1 青灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。 |
| 2 オリーブ灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、明赤褐色粘質土をブロック状に含む。 |
| 3 明赤褐色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。青灰色粘質土を多く含む。 |
| 4 灰色粘質土 | 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。 |
| 5 オリーブ灰色粘質土 | 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。 |

0 (1:60) 3m

03S8002



03P128

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。
- 2 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり。

03P127

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 2 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。
- 3 粘性あり、しまりややあり、砂をごく少量含む。
- 4 黒褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、腐植物を含む。
- 5 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり。

03P126

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 2 黒褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、腐植物を含む。
- 3 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、灰色粘質土をブロック状に含む。

03P129

- 1 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 2 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 3 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。

03P130

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 2 青灰色粘質土 粘性あり、しまりや中あり、炭化物をごく少量含む。

03P131

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 2 灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。

03P132

- 1 暗青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 2 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり。
- 3 黒褐色粘質土 粘性あり、しまりややあり、腐植物をごく少量含む。

03P133

- 1 暗青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 2 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり。

03P134

- 1 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。明青灰色粘質土をブロック状に含む。
- 2 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。明青灰色粘質土をまばらに含む。

03P135

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。
- 2 灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。

03P136

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。
- 2 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり。
- 3 灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり。
- 4 灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり。

03P137

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。

03P138

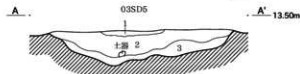
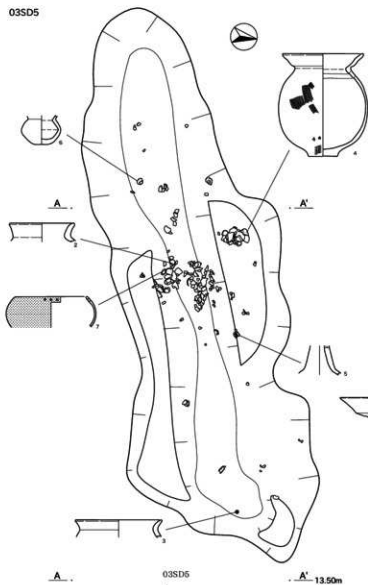
- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。
- 2 灰白色粘質土 粘性あり、しまりあり、暗灰色粘質土をブロック状に含む。
- 3 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。暗灰色粘質土をブロック状に含む。

03P140

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり。明青灰色粘質土をブロック状に含む。

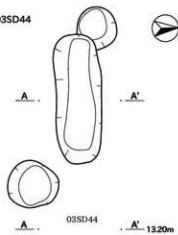
0 (1:60) 3m

03SD5



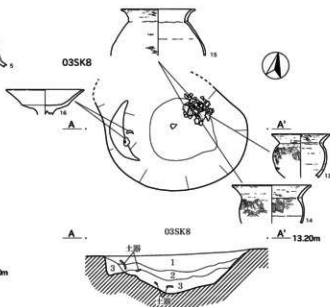
- 03SD5
- 1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物を多く含む。
 - 2 黒褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
 - 3 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。

03SD44



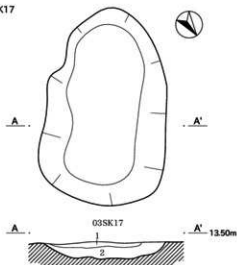
- 03SD44
- 1 黒褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

03SK8



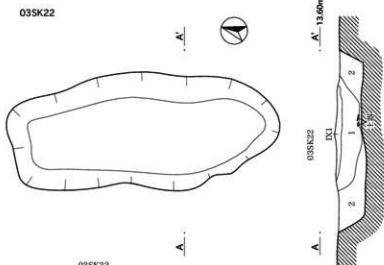
- 03SK8
- 1 暗灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。
 - 2 黒褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む、灰白色粘質土をごく少量含む。
 - 3 黒褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を多く含む。

03SK17



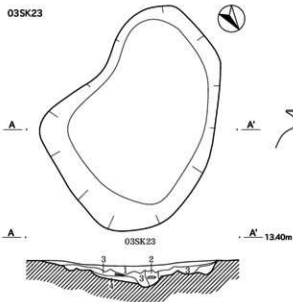
- 03SK17
- 1 黒褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 - 2 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をまばらに含む。

03SK22



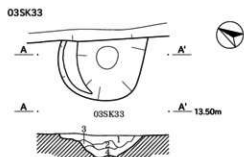
- 03SK22
- 1 褐灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 - 2 褐灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を多く含む。

0 1 : 40 2m



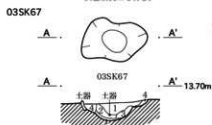
03SK23

- 1 褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
- 2 褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。
- 3 褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。
- 4 二色い褐色粘質土 粘性あり、しまりあり。



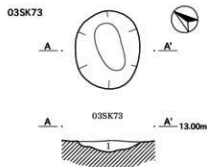
03SK33

- 1 暗褐色粘質土 粘性なし、しまりあり、炭化物を多く含む。
- 2 暗褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 3 灰褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 4 灰褐色粘質土 粘性あり、しまりなし、炭化物を少量含む。



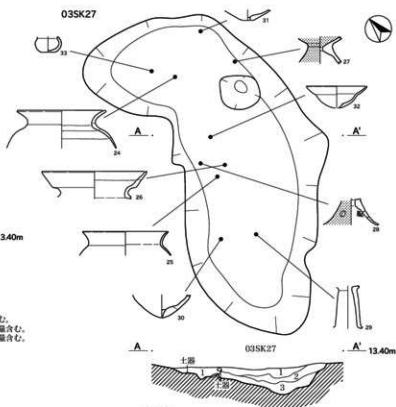
03SK67

- 1 暗青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。黄褐色土をブロック状に含む。
- 2 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。
- 3 青灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり、黄褐色土をブロック状に含む。
- 4 青灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり、炭化物をやや多く含む。



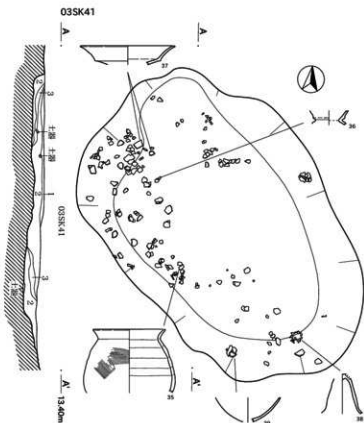
03SK73

- 1 黒色粘質土 粘性あり、しまりなし、炭化物をやや多く含む。



03SK27

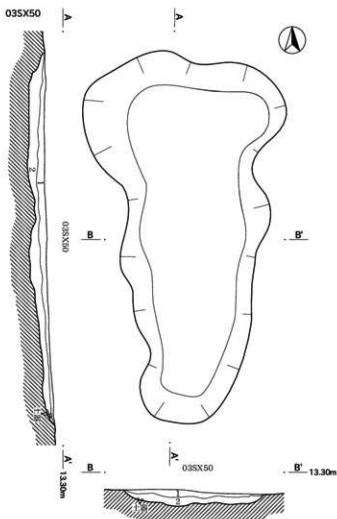
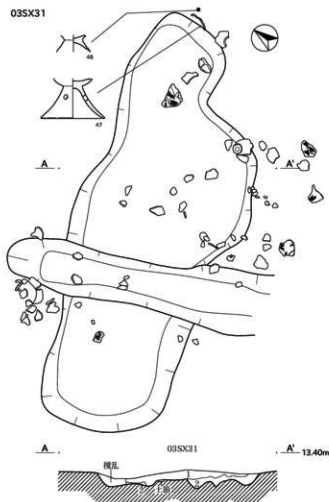
- 1 褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 2 灰褐色粘質土 粘性あり、しまりあり。
- 3 褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。



03SK41

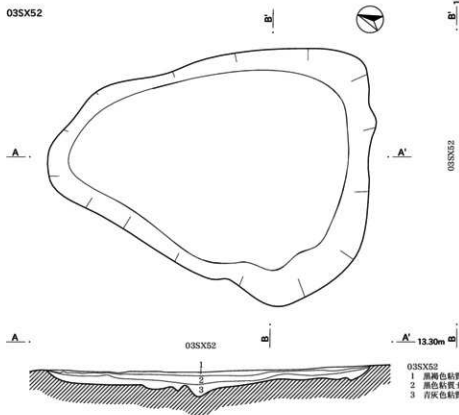
- 1 黄褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む。
- 2 青灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。赤褐色土をブロック状に含む。
- 3 暗灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

0 1:40 2m



- 03SX31
- 1 褐色粘質土 粘性あり。しまりやあり。炭化物をごく少量含む。灰色粘質土を含む。
 - 2 灰褐色粘質土 粘性あり。しまりやあり。炭化物を少量含む。灰色粘質土を含む。

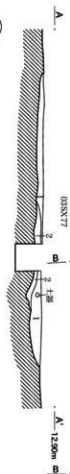
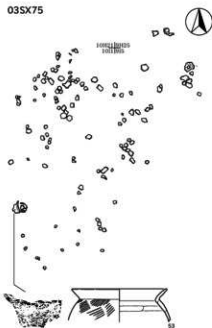
- 03SX50
- 1 黒褐色粘質土 粘性あり。しまりややあり。炭化物をやや多く含む。
 - 2 青灰色粘質土 粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。



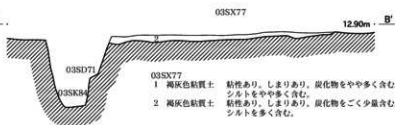
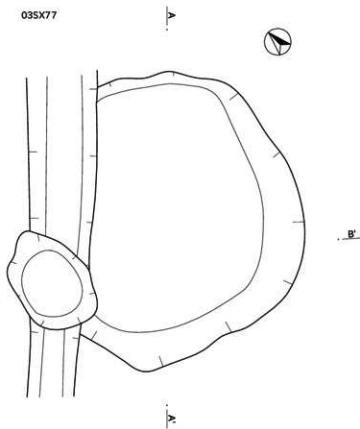
- 03SX52
- 1 黒褐色粘質土 粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。
 - 2 黒色粘質土 粘性あり。しまりややあり。炭化物を多く含む。
 - 3 青灰色粘質土 粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。

0 1:40 2m

03SX75

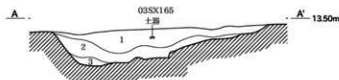
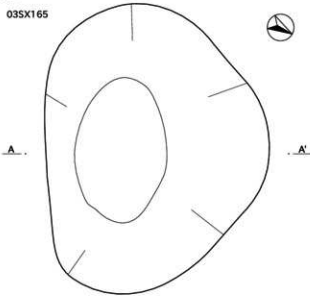
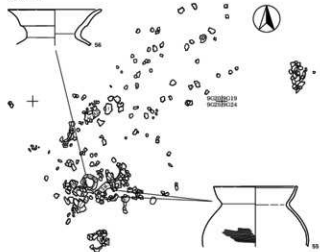


03SX77



- 03SX77
- 1 褐灰色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。シルトを中や多く含む。
 - 2 褐灰色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。シルトを多く含む。

03SX80



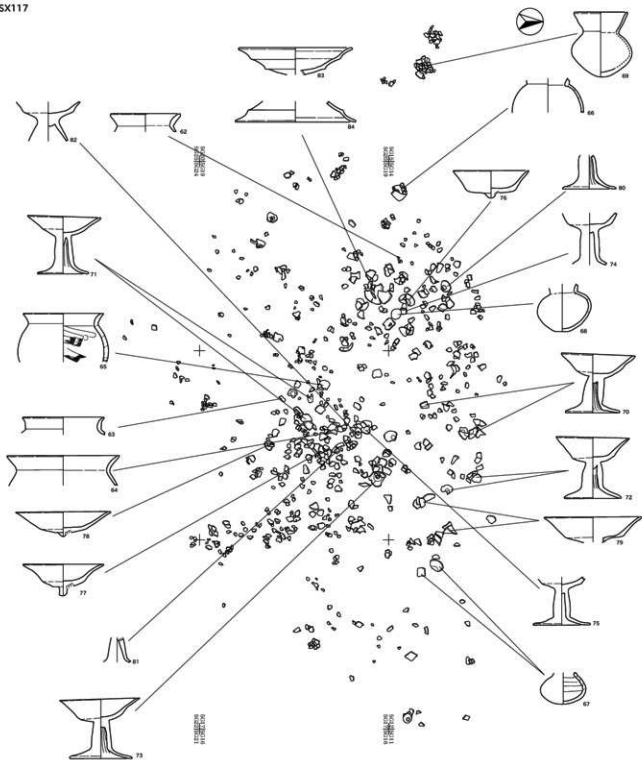
- 03SX165
- 1 明灰褐色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。
 - 2 明灰褐色粘質土 粘性あり。しまりややあり。炭化物を多く含む。
 - 3 褐灰色粘質土 粘性あり。しまりなし。炭化物を多く含む。

0 1:40 2m

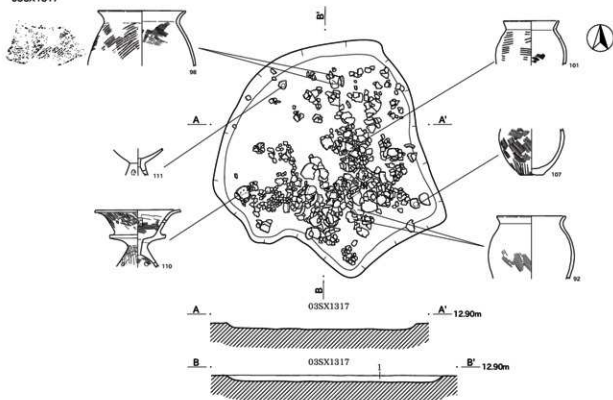
03SX87



03SX117



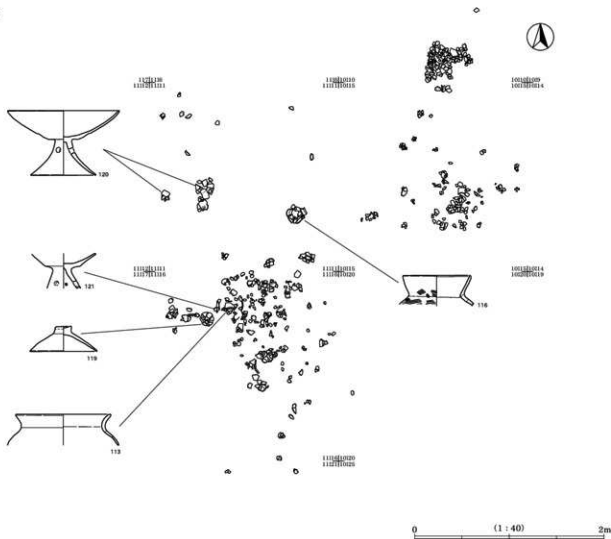
03SX1317



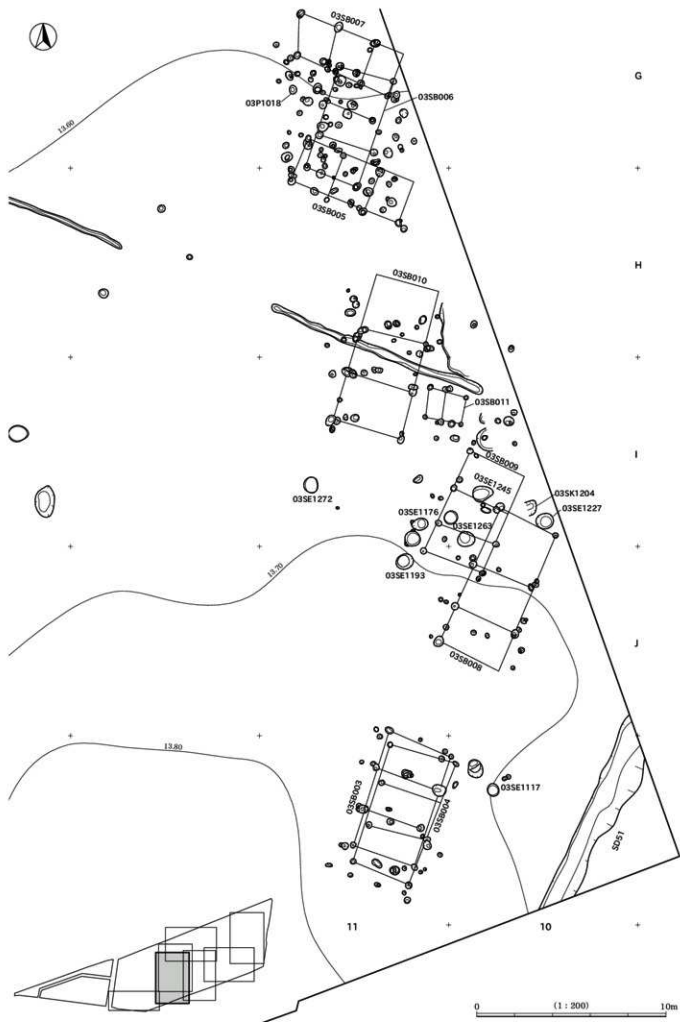
03SX1317

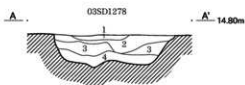
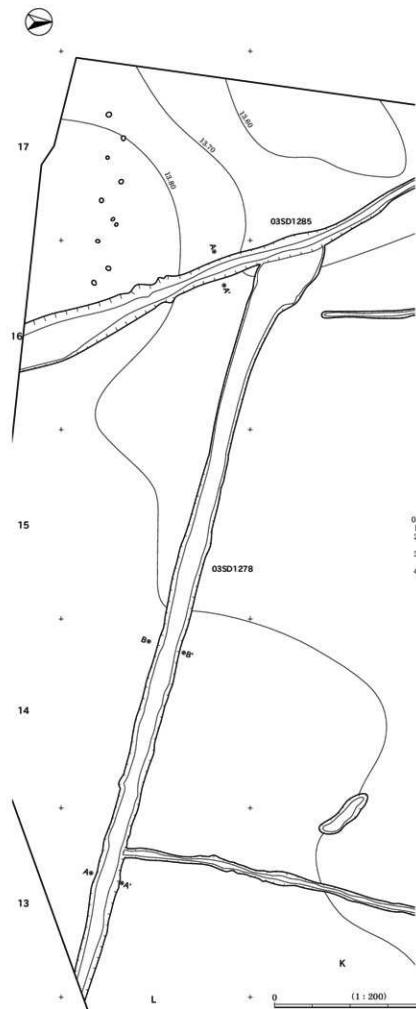
1 灰白色粘質土 粘性あり。しまりあり。

03SX1318



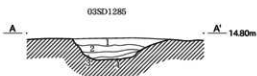






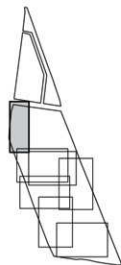
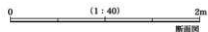
03SD1278

- 1 黒色粘質土 粘質あり、しまりあり、V2層をブロック状に含む。
- 2 黒色粘質土 粘質あり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。
- 3 灰色粘質土 粘質ややあり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。酸化鉄をごく少量含む。
- 4 黒色粘質土 粘質なし、しまりなし。炭化物を中やや含む。酸化鉄を多く含む。砂礫を多く含む、V2層をまばらに含む。

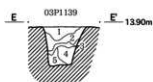
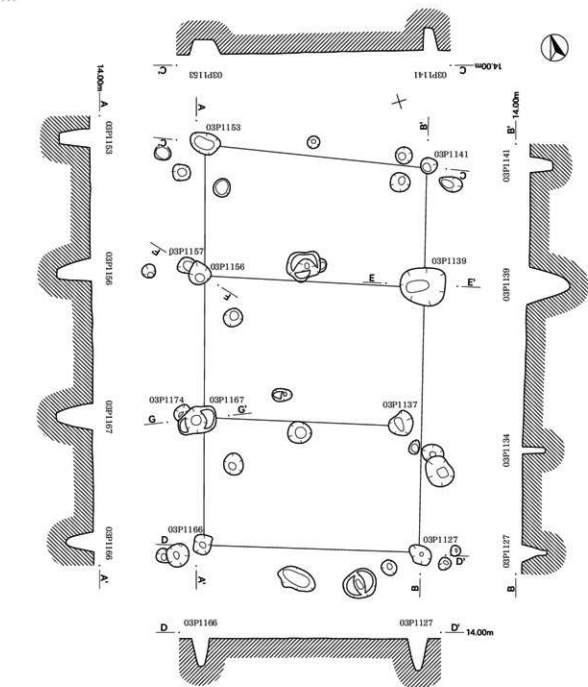


03SD1285

- 1 黒色粘質土 粘質あり、しまりあり、炭化物をごく少量含む。
- 2 黒色粘質土 粘質ややあり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。V2層をブロック状に含む。
- 3 黒色粘質土 粘質あり、しまりややあり、炭化物をごく少量含む。V2層をまばらに含む。
- 4 灰色粘質土 粘質なし、しまりややあり。

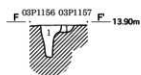


035B003



OSP1139

- 1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり、炭化物をまばらに含む。V2層をブロック状に含む。
- 2 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物をまばらに含む。
- 3 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物を多く含む。
- 4 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりあり。炭化物を少量含む。V2層をブロック状に含む。
- 5 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。



OSP1156

- 1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり。炭化物を少量含む。
- OSP1157
- 1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物を少量含む。V2層をブロック状に含む。

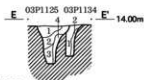
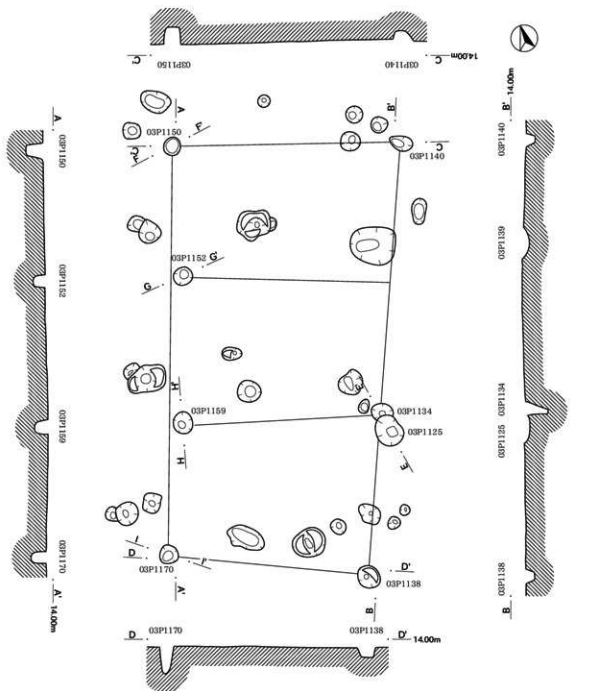


OSP1167

- 1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物を少量含む。V2層をブロック状に含む。

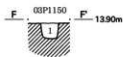
0 (1:60) 3m

03SB004



- 03P1125
- 1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりあり。炭化物をまばらに含む。
 - 2 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりあり。炭化物をまばらに含む。V2層をブロック状に含む。
 - 3 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり。
 - 4 灰色粘質土 粘性ややあり。

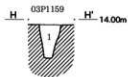
- 03P1134
- 1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり。炭化物をまばらに含む。
 - 2 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりあり。



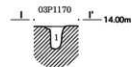
- 03P1150
- 1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。



- 03P1152
- 1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり。炭化物をまばらに含む。V2層をまばらに含む。



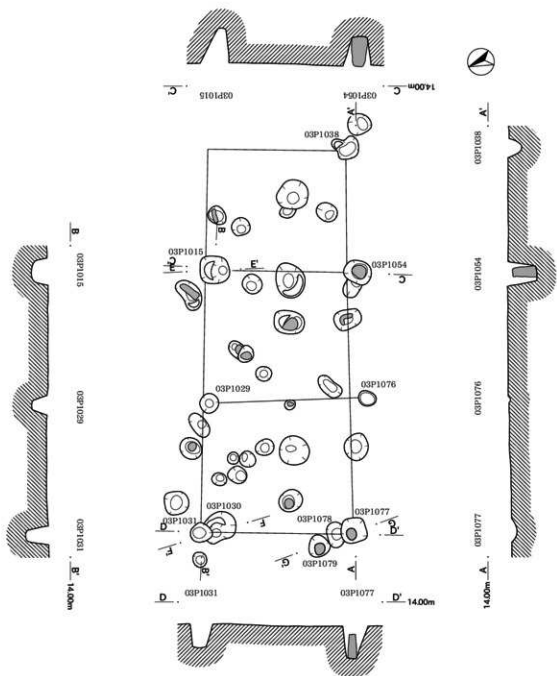
- 03P1159
- 1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。V2層をブロック状に含む。



- 03P1170
- 1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。

0 (1 : 60) 3m

03SB005



F 03P1015 E 13.80m



03P1015
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり。炭化物を少量含む。
2 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。

F 03P1030 03P1031 F 13.80m



03P1030
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり、V2層をブロック状に含む。
03P1031
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり。炭化物をまばらに含む、V2層をブロック状に含む。

G 03P1078 03P1077 03P1079 G 14.00m



03P1077
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりあり。
03P1078
1 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物を少量含む。
03P1079
1 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。

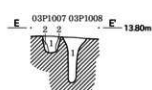
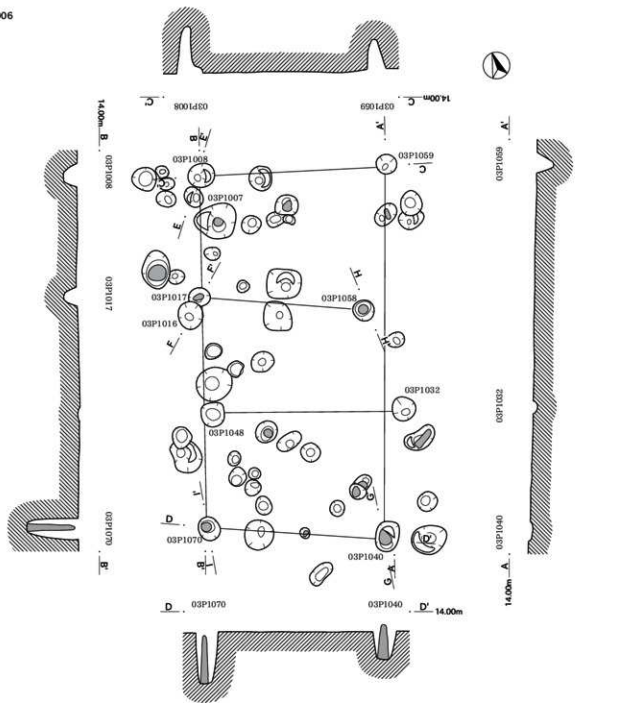
H 03P1039 03P1054 H 13.80m



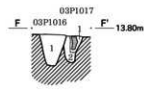
03P1039
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりあり。
03P1054
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり。
2 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり、V2層をブロック状に含む。

0 (1:60) 3m

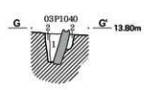
03S8006



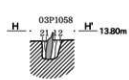
03P1007
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり、
2 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりなし。



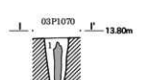
03P1016
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり、V2層を
ブロック状に含む。



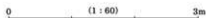
03P1040
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり、V2層を
まばらに含む。
2 灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり、V2層を
ブロック状に含む。



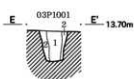
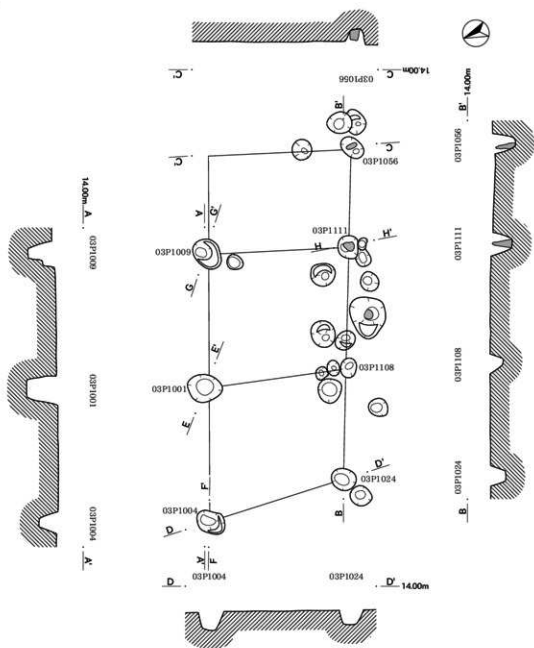
03P1058
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり、
2 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりなし。



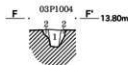
03P1070
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり。



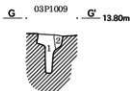
03SB007



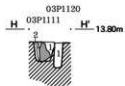
03P1001
 1 黒色粘質土 粘性あり。しまりややあり。
 2 黒色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。V2層をブロック状に含む。



03P1004
 1 黒色粘質土 粘性あり。しまりややあり。V2層をブロック状に含む。
 2 黒色粘質土 粘性あり。しまりややあり。V2層を少量含む。



03P1009
 1 黒色粘質土 粘性あり。しまりややあり。V2層をブロック状に含む。
 2 黒色粘質土 粘性あり。しまりややあり。

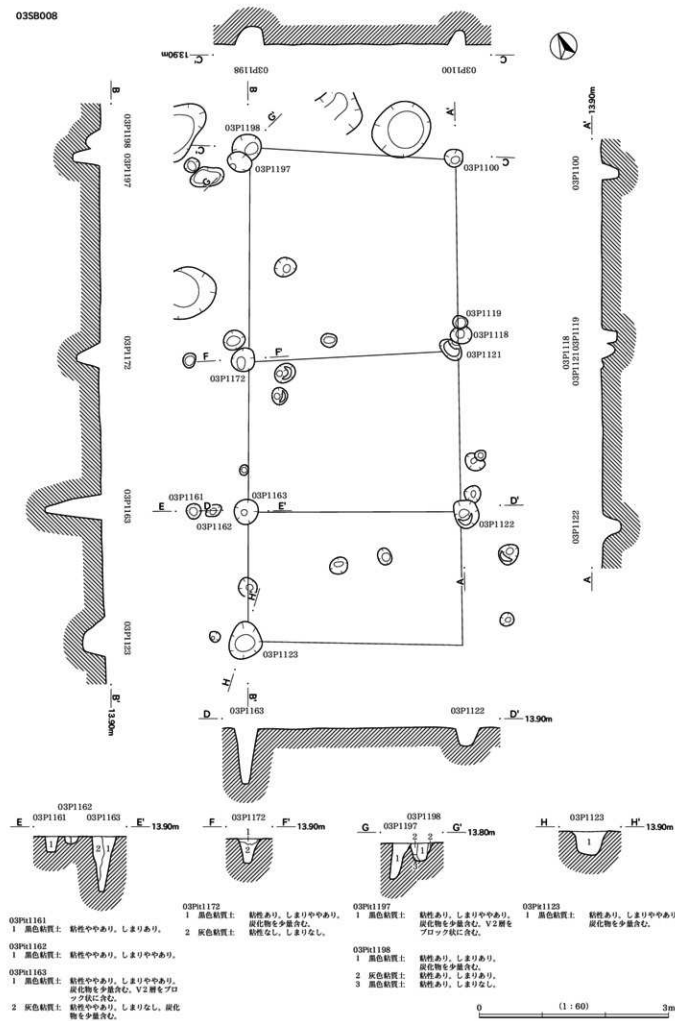


03P1111
 1 黒色粘質土 粘性ややあり。しまりあり。炭化物をまばらに含む。
 2 灰色粘質土 粘性ややあり。しまりややあり。

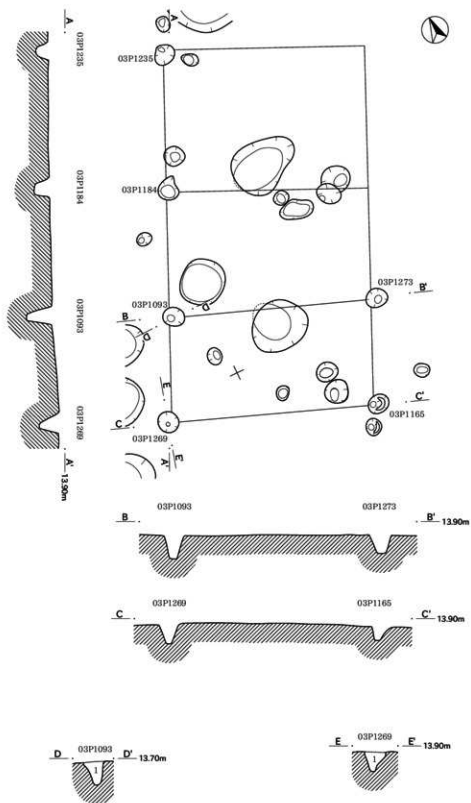
03P1120
 1 黒色粘質土 粘性ややあり。しまりあり。



03S8008



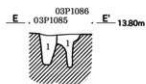
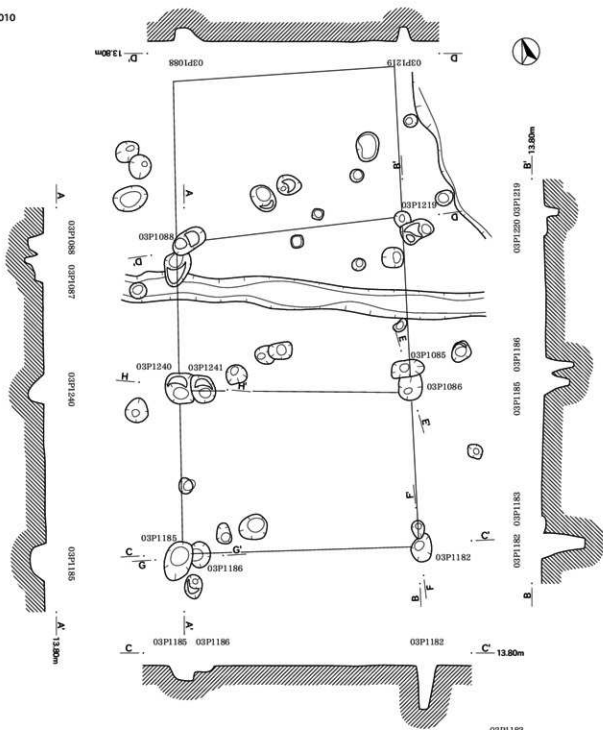
035B009



03P1093
I 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりあり。

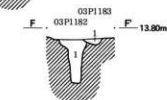
03P1269
I 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり。

03SB010



03P1085
1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり、V2層をまばらに含む。

03P1086
1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりあり、V2層をまばらに含む。



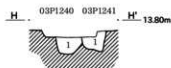
03P1182
1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を少量含む。

03P1183
1 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり。



03P1185
1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物を少量含む、V2層をブロック状に含む。
2 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物をやや多く含む。
3 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりなし。

03P1186
1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり。

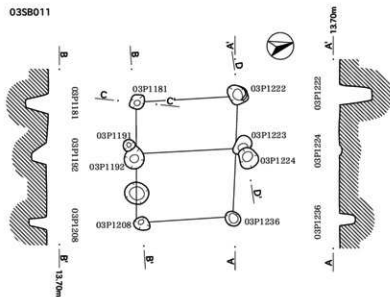


03P1240
1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物を少量含む、V2層をブロック状に含む。

03P1241
1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり、V2層をブロック状に含む。

0 1:60 3m

03SB011



03P1181
C C' 13.90m



03P1181
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりややあり。V2層をブロック状に含む。

03P1222 03P1223 03P1224 D D' 13.70m



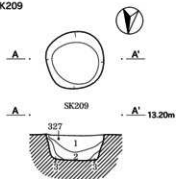
03P1222
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。酸化鉄を少量含む。
2 灰色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。酸化鉄をやや多く含む。1層をブロック状に含む。

03P1223
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりなし。炭化物をごく少量含む。V2層をブロック状に含む。

03P1224
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。V2層をまばらに含む。

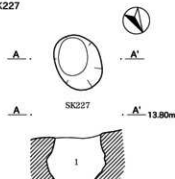
0 (1:60) 3m

SK209



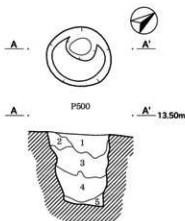
SK209
1 灰色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。灰白色粘質土をまばらに含む。
2 灰色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。1層より灰白色粘質土を少量含む。
3 灰白色粘質土 粘性あり。しまりあり。X層に相当する。

SK227



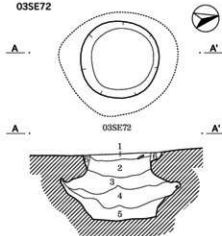
SK227
1 暗オリーブ灰色粘質土 粘性あり。しまりなし。灰白色粘質土を少量含む。

P500



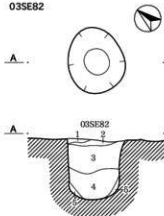
P500
1 灰色粘質土 粘性あり。しまりややあり。灰白色粘質土をまばらに含む。
2 灰白色粘質土 粘性あり。しまりあり。灰色粘質土を少量含む。
3 灰白色粘質土 粘性あり。しまりあり。灰色粘質土をやや多く含む。
4 灰色粘質土 粘性あり。しまりややあり。灰白色粘質土をやや多く含む。
5 灰白色粘質土 粘性あり。しまりややあり。灰色粘質土をごく少量含む。

03SE72



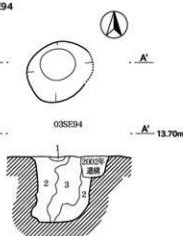
03SE72
1 暗褐色粘質土 粘性あり。しまりあり。灰白色粘質土と黄褐色粘質土を含む。
2 暗褐色粘質土 粘性あり。しまりあり。灰褐色粘質土と褐色粘質土を含む。
3 灰褐色粘質土 粘性あり。しまりあり。2層より褐色粘質土を多く含む。
4 灰褐色粘質土 粘性あり。しまりあり。3層より褐色粘質土を多く含む。
5 灰褐色粘質土 粘性あり。しまりあり。4層より褐色粘質土を多く含む。
6 暗褐色粘質土 粘性あり。しまりあり。X層に相当する。

03SE82



03SE82
1 におい褐色粘質土 粘性あり。しまりややあり。炭化物をやや多く含む。V2層をブロック状に含む。
2 黒褐色粘質土 粘性あり。しまりややあり。炭化物をやや多く含む。シルトをブロック状に含む。
3 黒褐色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。シルトをブロック状に含む。
4 褐色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。シルトをやや多く含む。
5 褐色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。シルトを多く含む。

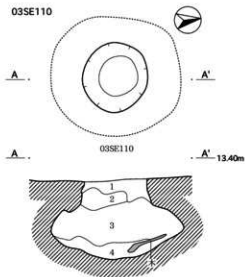
03SE94



03SE94
1 オリーブ灰色粘質土 粘性あり。しまりなし。
2 暗オリーブ灰色粘質土 粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。灰色粘質土をブロック状に含む。
3 オリーブ灰色粘質土 粘性あり。しまりなし。径2~4cmの円環を多く含む。

0 (1:40) 2m

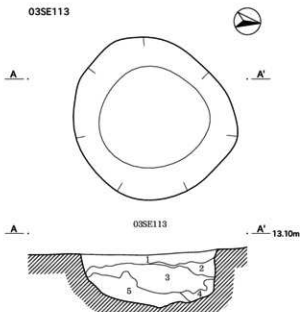
03SE110



03SE110

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、灰白色粘質土をブロック状に含む。
 2 灰白色粘質土 粘性あり、しまりあり、灰粘質土を少量含む。
 3 灰色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む、灰白色粘質土をブロック状に含む。
 4 灰オリーブ色粘質土 粘性あり、しまりあり。

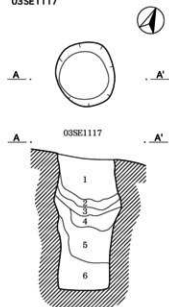
03SE113



03SE113

- 1 灰色粘質土 粘性あり、しまりややあり、炭化物を多く含む、灰白色粘質土を少量含む。
 2 灰白色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 3 灰白色粘質土 粘性あり、しまりあり、X層に類似する。
 4 褐色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む、灰白色粘質土を少量含む。
 5 灰白色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む、灰白色粘質土を少量含む。

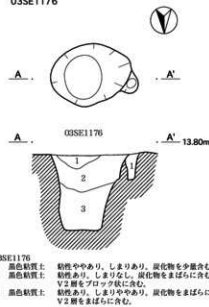
03SE1117



03SE1117

- 1 暗緑灰色粘質土 粘性ややあり、しまりなし、炭化物をまばらに含む。
 2 黒色粘質土 粘性なし、しまりなし、炭化物を多く含む。
 3 オリーブ黒色粘質土 粘性ややあり、しまりなし、炭化物をまばらに含む。
 4 黒色粘質土 粘性なし、しまりなし、炭化物を多く含む。
 5 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりなし、V2層をブロック状に含む。
 6 オリーブ黒色粘質土 粘性なし、しまりなし、炭化物を多く含む、炭素を多く含む。

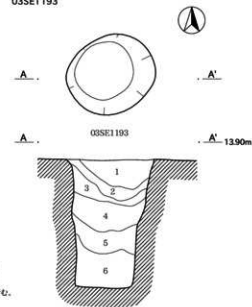
03SE1176



03SE1176

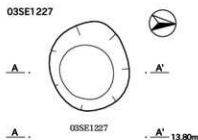
- 1 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 黒色粘質土 粘性あり、しまりなし、炭化物をまばらに含む、V2層をブロック状に含む。
 3 黒色粘質土 粘性あり、しまりややあり、炭化物をまばらに含む、V2層をまばらに含む。

03SE1193

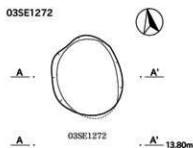


03SE1193

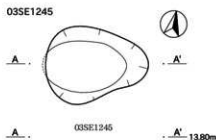
- 1 黒色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む、V2層をブロック状に含む。
 2 黒色粘質土 粘性あり、しまりあり、炭化物をやや多く含む、V2層をまばらに含む。
 3 灰色粘質土 粘性ややあり、しまりなし、炭化物を少量含む。
 4 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を少量含む、V2層をブロック状に含む。
 5 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物を少量含む。
 6 黒色粘質土 粘性ややあり、しまりなし、炭化物をごく少量含む。



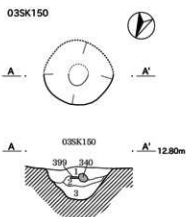
- 03SE1227
- 1 黒色粘質土 粘性あり、しりり中やあり、炭化物をごく少量含む。燧石殻を少量含む。V2層をブロック状に含む。
 - 2 黒色粘質土 粘性あり、しりりなし。炭化物を多く含む。V2層をブロック状に含む。
 - 3 黒色粘質土 粘性あり、しりりなし。炭化物を多く含む。V2層をごく少量含む。



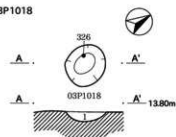
- 03SE1272
- 1 黒色粘質土 粘性中やあり、しりりあり、V2層をブロック状に含む。
 - 2 黒色粘質土 粘性あり、しりりあり。炭化物を少量含む。燧石殻を少量含む。V2層をブロック状に含む。
 - 3 黒色粘質土 粘性あり、しりり中やあり。燧石殻を多く含む。
 - 4 灰色粘質土 粘性あり、しりり中やあり。炭化物をごく少量含む。
 - 5 黒色粘質土 粘性あり、しりり中やあり。炭化物を少量含む。V2層をブロック状に含む。
 - 6 黒色粘質土 粘性あり、しりりなし。炭化物を多く含む。
 - 7 黒色粘質土 粘性あり、しりりなし。炭化物を少量含む。
 - 8 黒色粘質土 粘性なし、しりりなし。炭化物を少量含む。白色粒子を少量含む。



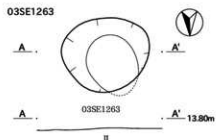
- 03SE1245
- 1 黒色粘質土 粘性中やあり、しりり中やあり。炭化物をまばらに含む。
 - 2 黒色粘質土 粘性あり、しりり中やあり。炭化物を少量含む。
 - 3 黒色粘質土 粘性あり、しりり中やあり。炭化物を中や多く含む。V2層をブロック状に含む。
 - 4 黒色粘質土 粘性あり、しりり中やあり。炭化物をごく少量含む。
 - 5 黒色粘質土 粘性なし、しりりなし。炭化物を多く含む。



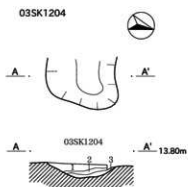
- 03SK150
- 1 黒色粘質土 粘性あり、しりり中やあり。炭化物を少量含む。
 - 2 灰オリーブ色粘質土 粘性あり、しりり中やあり。炭化物を少量含む。
 - 3 暗オリーブ灰色粘質土 粘性あり、しりり中やあり。炭化物をごく少量含む。



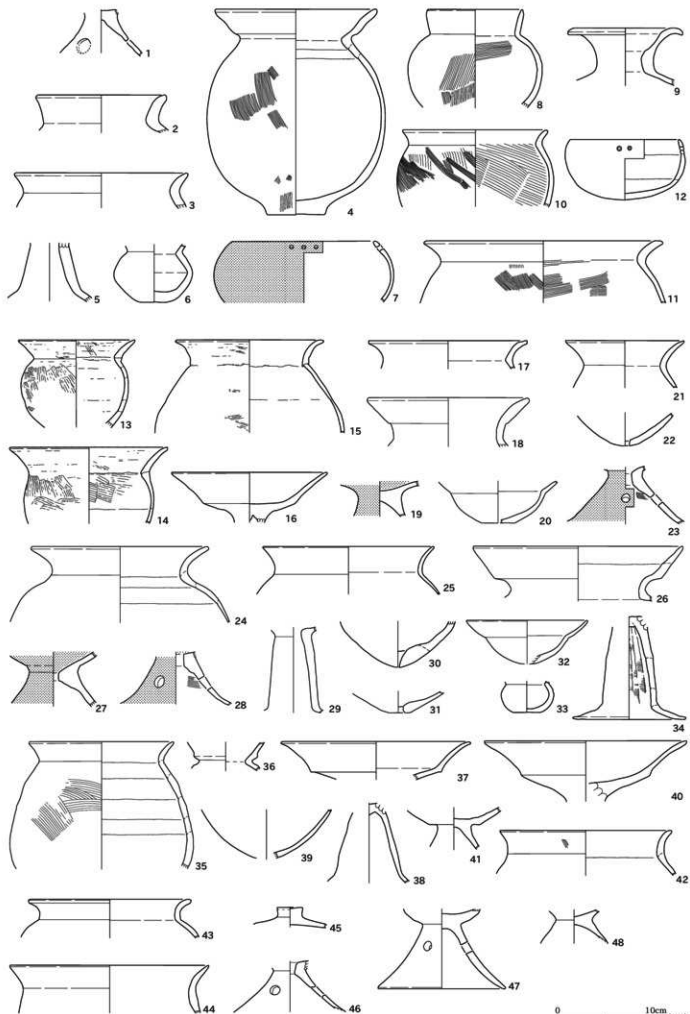
- 03P1018
- 1 黒色粘質土 粘性あり、しりりあり。

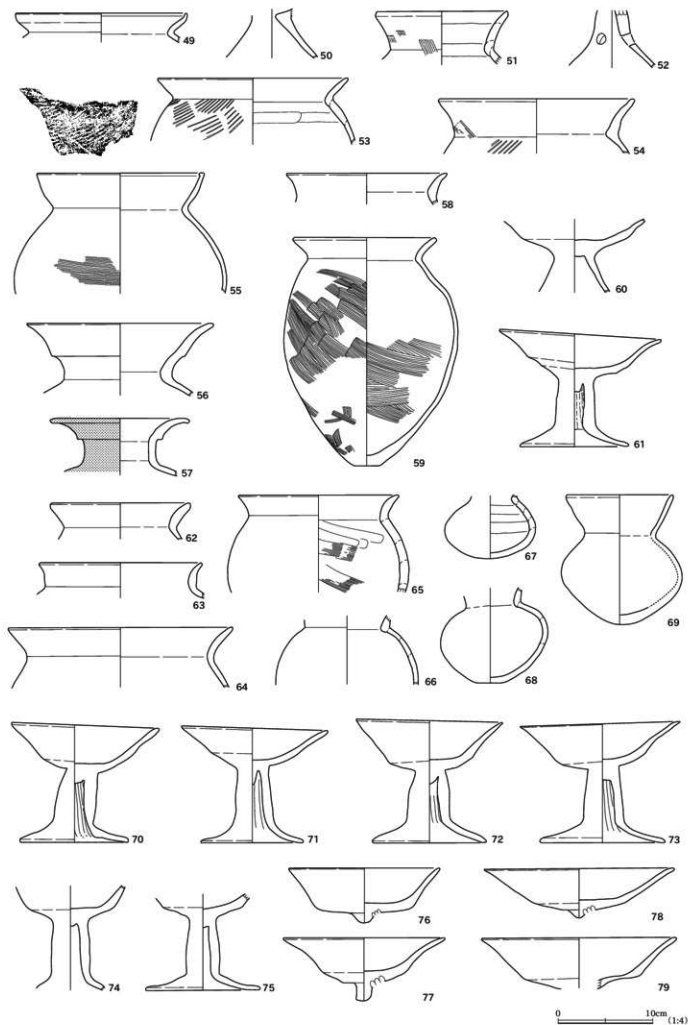


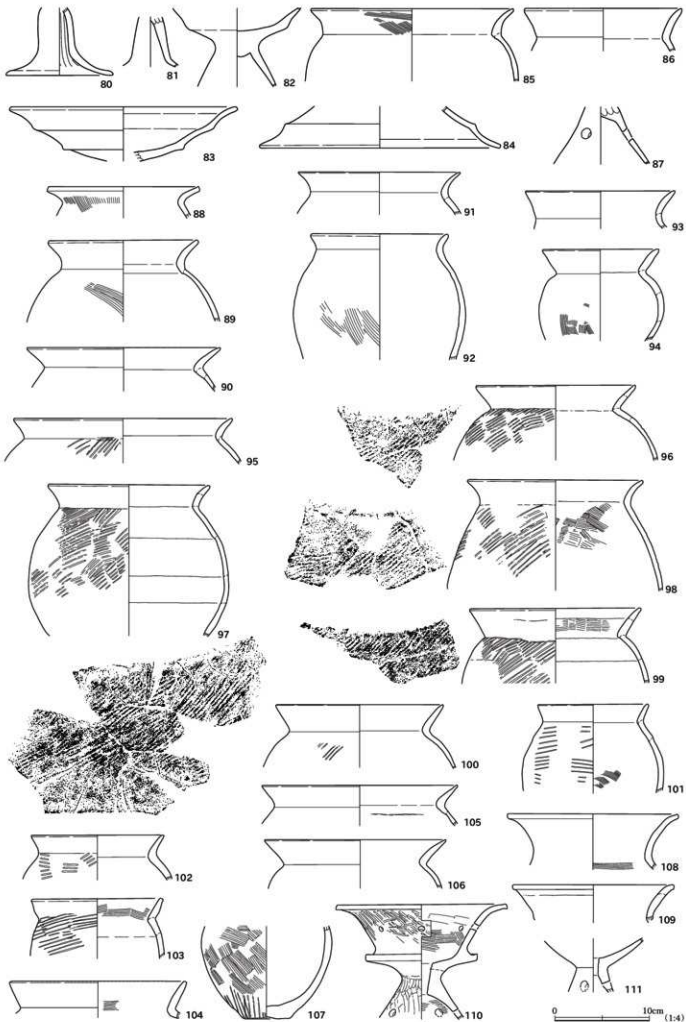
- 03SE1263
- 1 黒色粘質土 粘性中やあり、しりり中やあり。炭化物を少量含む。
 - 2 黒色粘質土 粘性中やあり、しりりあり。炭化物を多く含む。
 - 3 黒色粘質土 粘性中やあり、しりりあり。炭化物をごく少量含む。
 - 4 黒色粘質土 粘性あり、しりり中やあり。炭化物を少量含む。V2層をブロック状に含む。
 - 5 黒色粘質土 粘性あり、しりりなし。炭化物を少量含む。V2層をブロック状に含む。
 - 6 黒色粘質土 粘性あり、しりりなし。層をごく少量含む。炭化物をごく少量含む。
 - 7 黒色粘質土 粘性あり、しりりなし。層を少量含む。炭化物を少量含む。
 - 8 黒色粘質土 粘性あり、しりりなし。暗オリーブ灰色粘質土を含む。
 - 9 黒色粘質土 粘性あり、しりりなし。層を少量含む。炭化物を少量含む。暗オリーブ灰色粘質土をブロック状に含む。

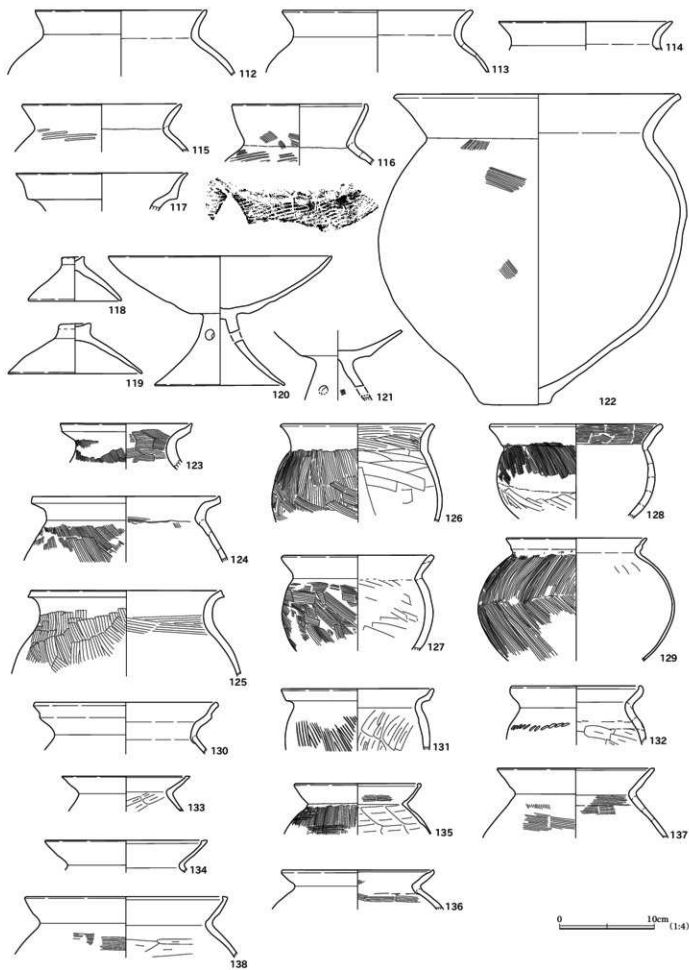


- 03SK1204
- 1 黒色粘質土 粘性中やあり、しりりあり。
 - 2 黒色粘質土 粘性あり、しりりあり。炭化物を中や多く含む。
 - 3 黒色粘質土 粘性中やあり、しりりあり。炭化物を少量含む。







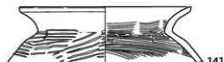




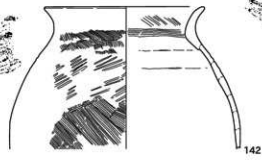
139



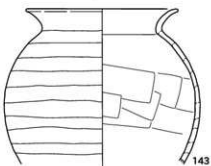
140



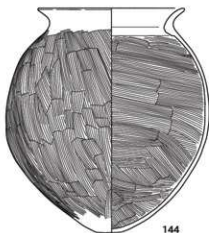
141



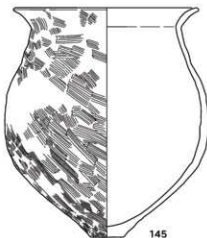
142



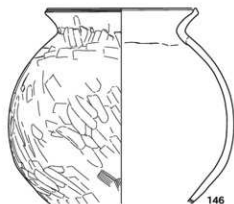
143



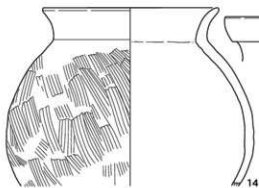
144



145



146



147



148



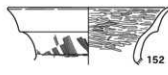
149



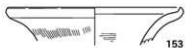
150



151



152



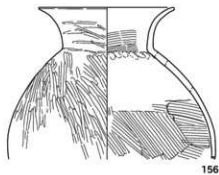
153



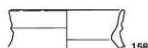
154



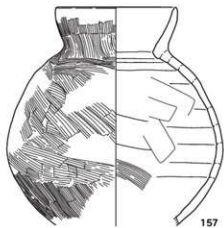
155



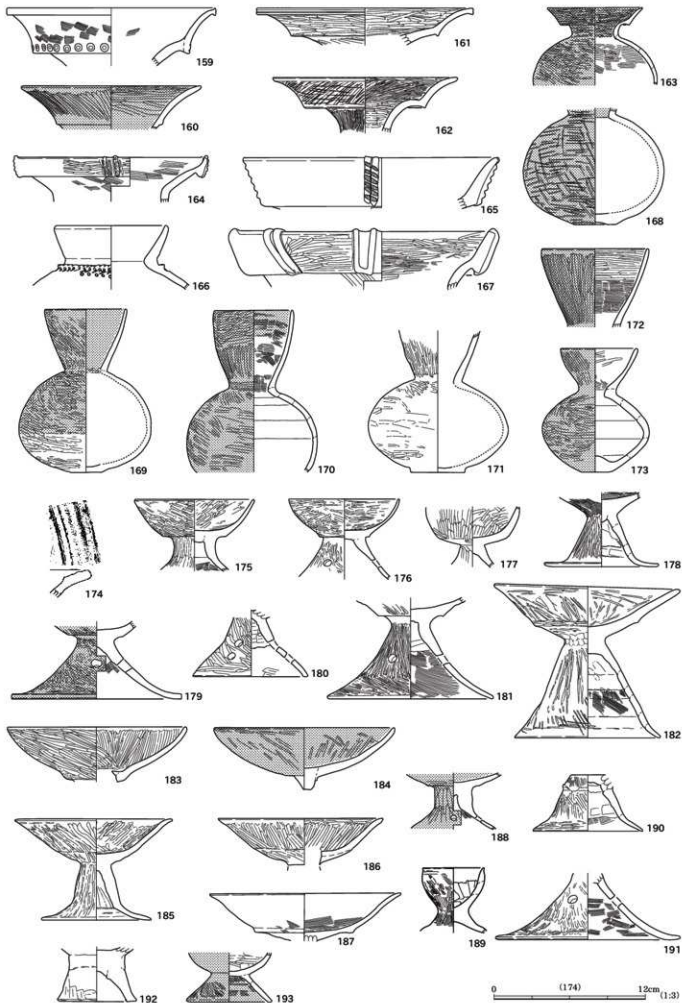
156

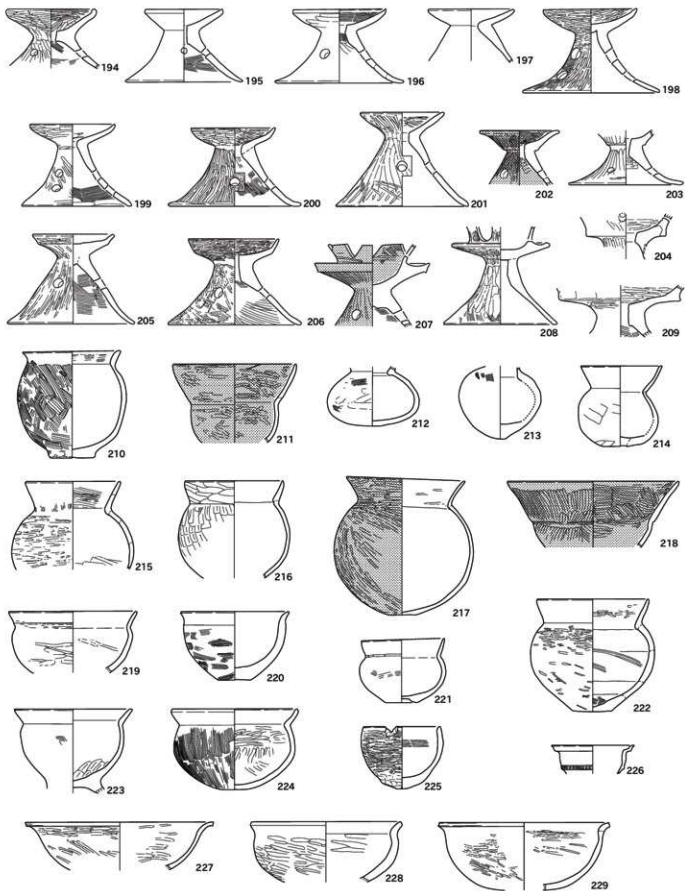


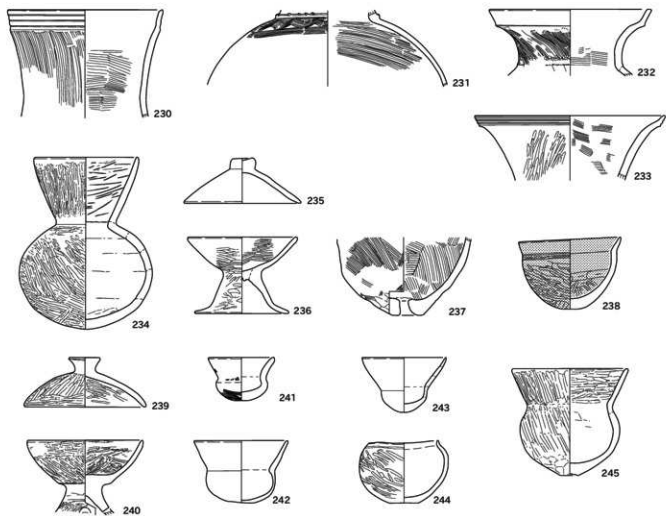
158



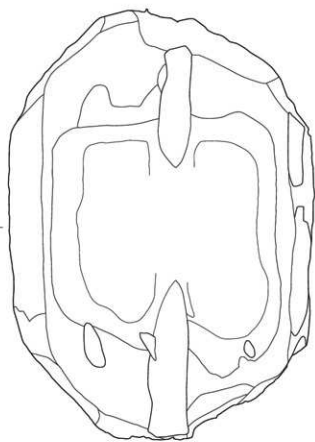
157



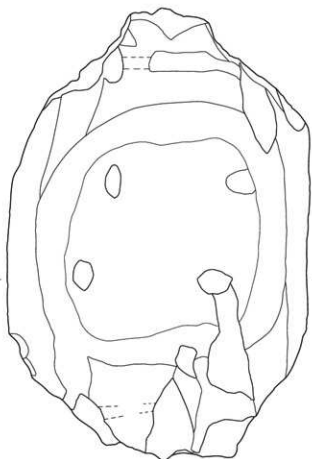




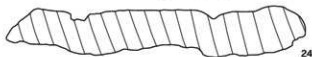
0 10cm (1:4)



246



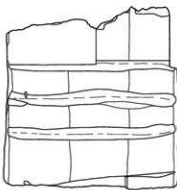
247



248



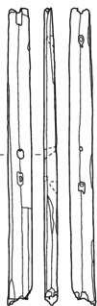
249



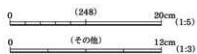
250

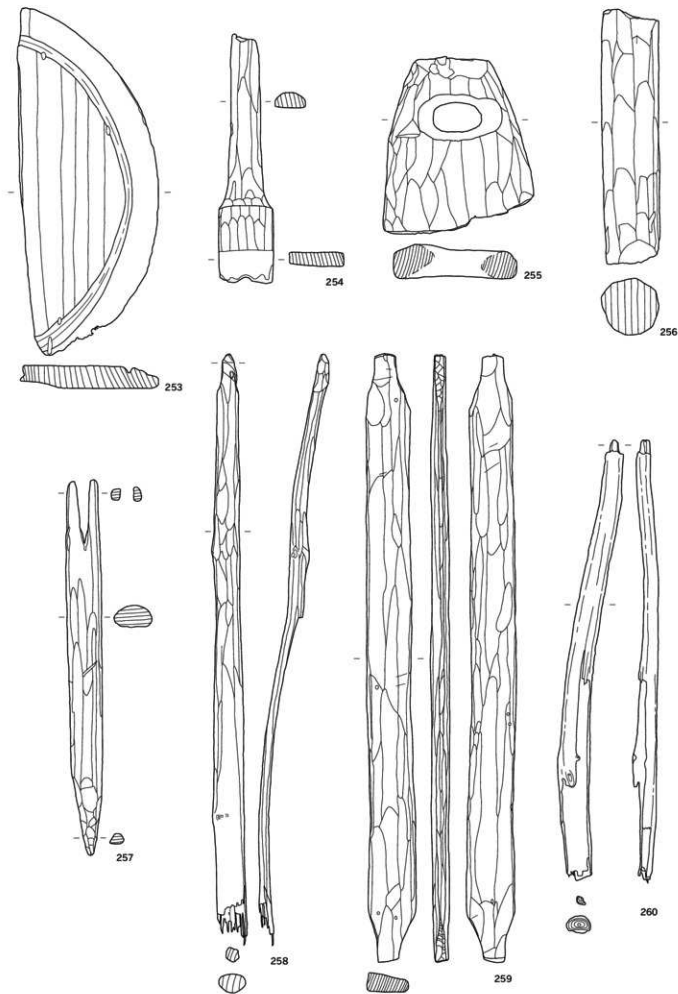


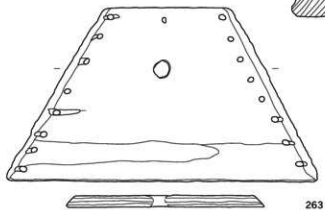
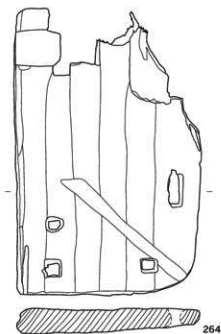
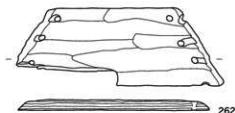
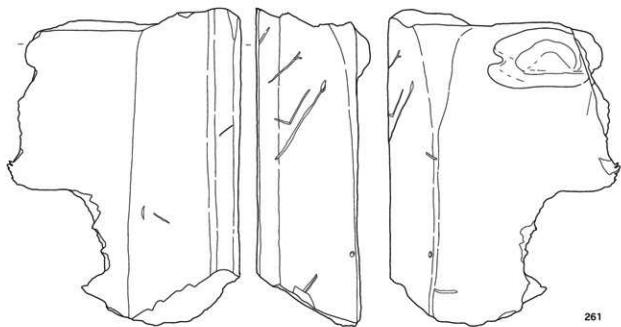
251

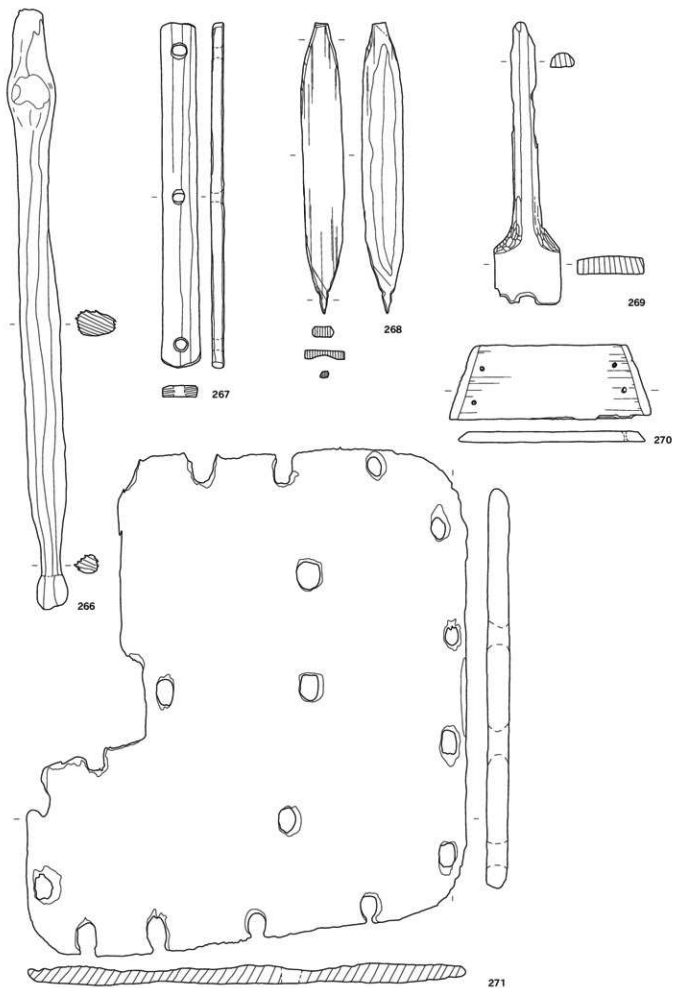


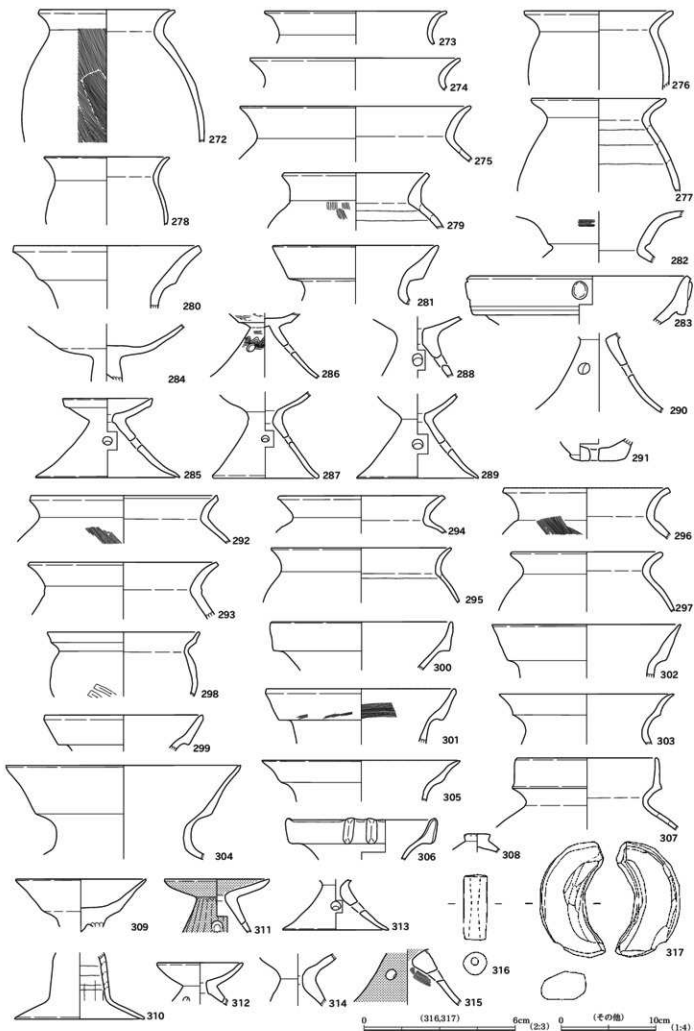
252

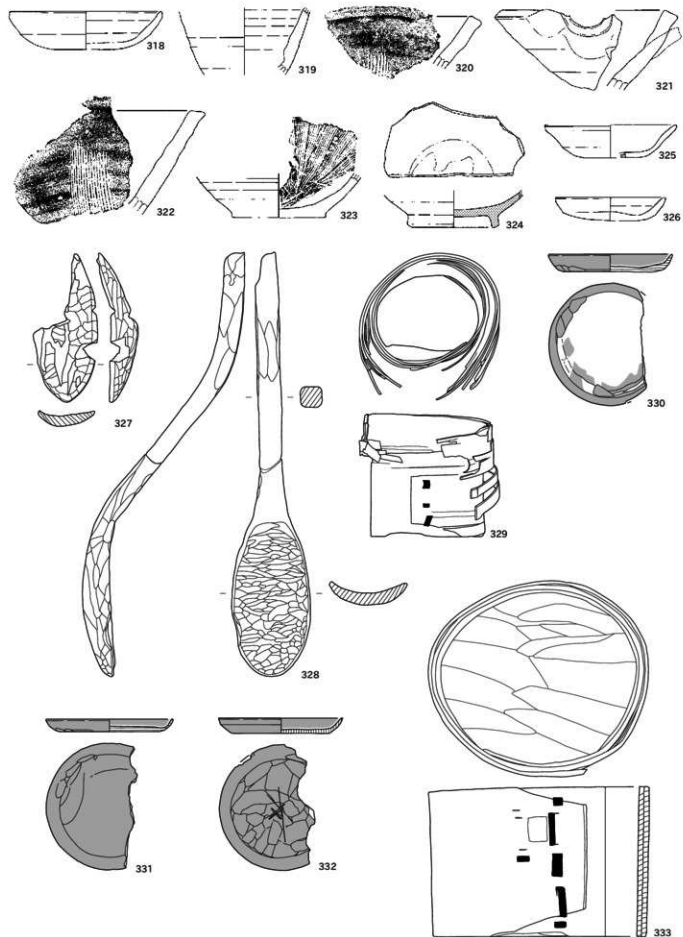






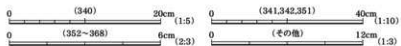
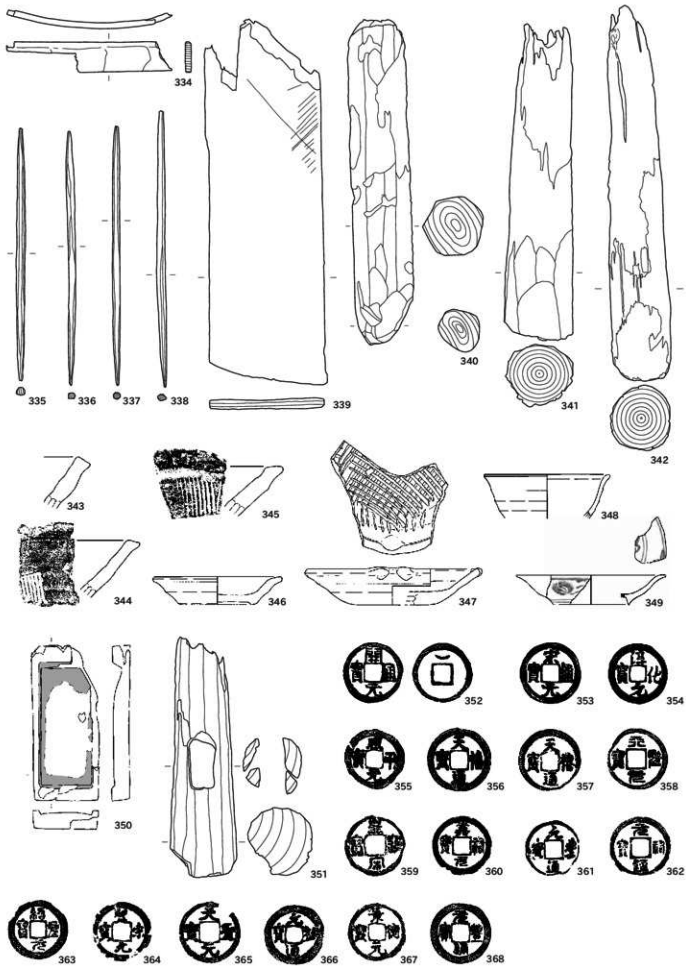






0 (319,323) 20cm (1:5)

0 (その他) 12cm (1:3)

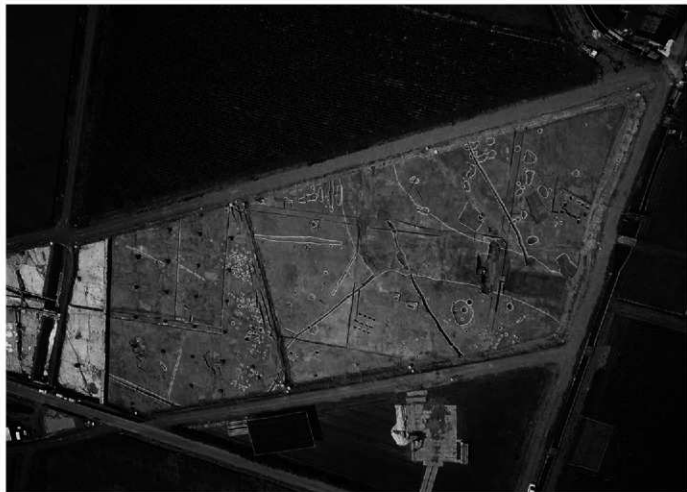




調査区近景（東から）



調査区近景（西から）



A地区・B I・II・V・VI区 (上空から)



B地区 古墳面 (上空から)



A I・II・V～Ⅵ区 (上空から)



A I・II・Ⅴ・Ⅵ区 (上空から)



A地区基本層序 (①・東から)



B地区基本層序 (⑨・東から)



03SB001 完掘 (東から)



03SK45 完掘 (北から)



03P48 断面 (南から)



03P48 完掘 (南から)



03P49 断面 (南から)



03P49 完掘 (南から)



03S8002 検出 (西から)



03S8002 完掘 (西から)



03P126 断面 (南から)



03P126 完掘 (南から)



03P127 断面 (南から)



03P127 完掘 (南から)



03P137・141・142 断面 (北から)



03P137・141・142 完掘 (北から)



03SE103 断面 (東から)



03SE103 完掘 (西から)



03SD5 断面 (東から)



03SD5 完掘 (東から)



03SD21 断面A-A' (南東から)



03SD21 断面B-B' (北西から)



03SD44 断面 (西から)



03SD44・03SK45 完掘 (南から)



03SD71 断面A-A' (北東から)



03SD71 断面B-B' (南西から)



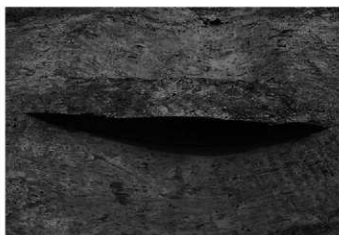
03SD71 断面C-C' (南西から)



03SD71 断面D-D' (北東から)



03SD81 断面A-A' (東から)



03SD81 断面C-C' (西から)



03SD105 断面A-A' (北西から)



03SD105 断面B-B' (南東から)



03SD105 断面C-C' (南東から)



03SD105 断面D-D' (南東から)



03SK8 断面 (南から)



03SK8 完掘 (南西から)



03SK17 断面 (北から)



03SK17 完掘 (西から)



03SK22 断面 (南から)



03SK22 完掘 (北東から)



035K23 断面 (北東から)



035K23 完掘 (東から)



035K27 断面 (南西から)



035K27 完掘 (東から)



035K33 断面 (西から)



035K33 完掘 (西から)



035K41 断面 (西から)



035K41 完掘 (南西から)



03SK67 断面 (東から)



03SK67 完掘 (東から)



03SK73 断面 (南西から)



03SK73 完掘 (南西から)



AⅡ区 完掘 (北東から)



03SX24 完掘 (北から)



03SX31 断面 (北西から)



03SX31 完掘 (北から)



03SX50 断面A-A' (西から)



03SX50 完掘 (南から)



03SX52 断面A-A' (南西から)



03SX52 完掘 (南から)



03SX75 検出 (東から)



03SX80 検出 (南から)



03SX77 検出 (東から)



03SX77 断面A-A' (西から)



03SX77 断面B-B' (南から)



03SX77 完掘 (北から)



03SX87 検出 (南から)



03SX117 検出 (北から)



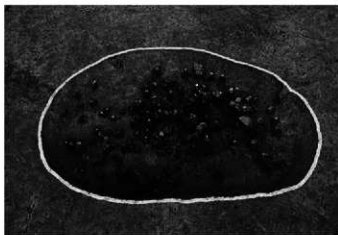
03SX107 断面 (南から)



03SX107 完掘 (西から)



03SX165 断面 (東から)



03SX165 完掘 (南から)



03SX1317 完掘 (南から)



03SX1318 横出 (南から)



03SX1322 完掘 (東から)



03旧河川1 断面 (南西から)



03旧河川1 出土状況 (4F)



03旧河川1 出土状況 (4F)



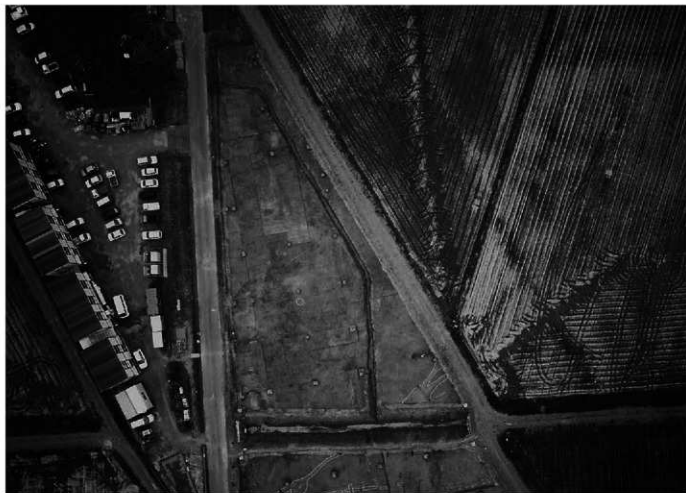
03旧河川1 出土状況 (4F)



03旧河川1 作業風景 (東から)



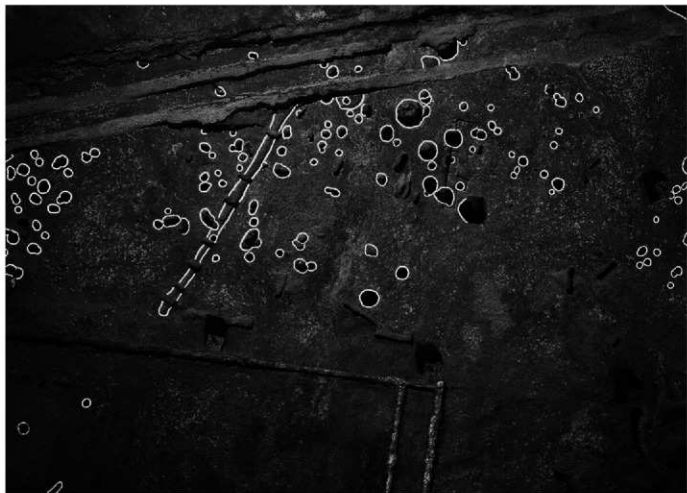
B I・II・V・VI区 (上空から)



B III・IV・VII~VIII区 (上空から)



B V区 (上空から)



B I・V区 (上空から)



B I・II区 (上空から)



B III区 (南東から)



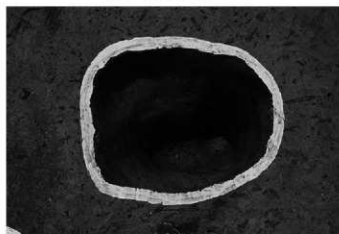
03SB003・004 完掘 (南西)



柱穴 検出状況 (北西から)



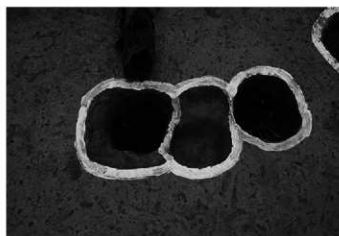
03P1139 断面 (南から)



03P1139 完掘 (北から)



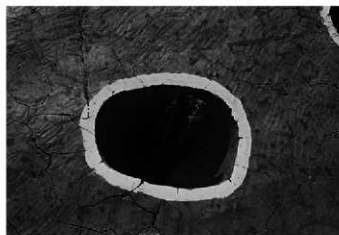
03P1077 断面 (東から)



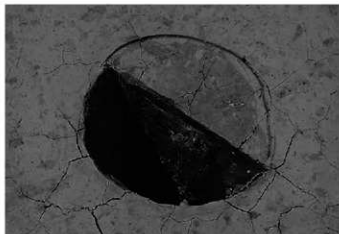
03P1077・1078・1079 完掘 (東から)



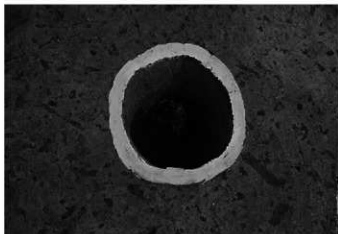
03P1040 断面 (南東から)



03P1040 完掘 (南東から)



03P1070 断面 (北東から)



03P1070 完掘 (南から)



03P1111・1120 断面 (西から)



03P1111・1120 完掘 (西から)



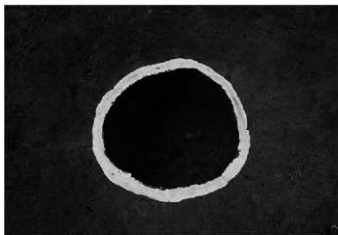
P41 断面 (南東から)



P41 完掘 (南東から)



SK209 断面 (北から)



SK209 完掘 (北から)



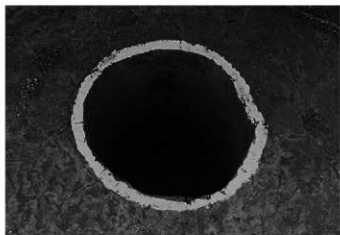
SK227 断面 (北から)



SK227 完掘 (東から)



P500 断面 (南東から)



P500 完掘 (南東から)



03SE72 断面 (東から)



03SE72 完掘 (東から)



03SE82 断面 (西から)



03SE82 完掘 (西から)



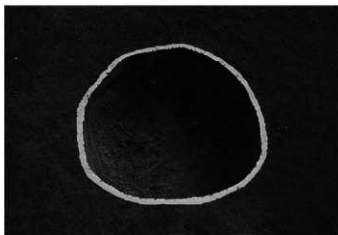
03SE94 断面 (南東から)



03SE94 完掘 (北西から)



03SE113 断面 (東から)



03SE113 完掘 (東から)



03SE113 出土状況 (東から)



03SE110 断面 (東から)



03SE1117 断面 (南から)



03SE1117 完掘 (南から)



03SE1176・03P1177 断面 (北から)



03SE1176・03P1177 完掘 (南から)



03SE1193 断面 (南から)



03SE1193 完掘 (南から)



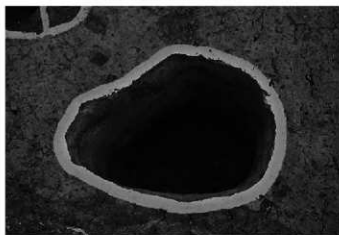
03SE1227 断面 (東から)



03SE1227 完掘 (南から)



03SE1245 断面 (南から)



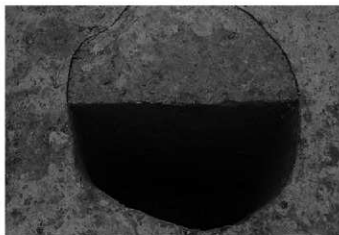
03SE1245 完掘 (北から)



03SE1263 断面 (北から)



03SE1263 完掘 (北から)



03SE1272 断面 (南から)



03SE1272 完掘 (南から)



03SD1278 断面A-A' (南東から)



03SD1278 断面B-B' (南東から)



03SD1285 断面 (南東から)



03SD1285 完掘 (南東から)



03SK150 断面 (西から)



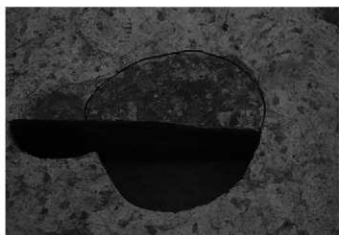
03SK150 完掘 (北から)



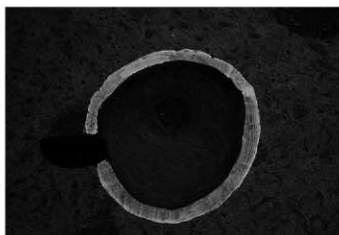
03SK1204 断面 (東から)



03SK1204 完掘 (東から)



03P1018 断面 (南東から)



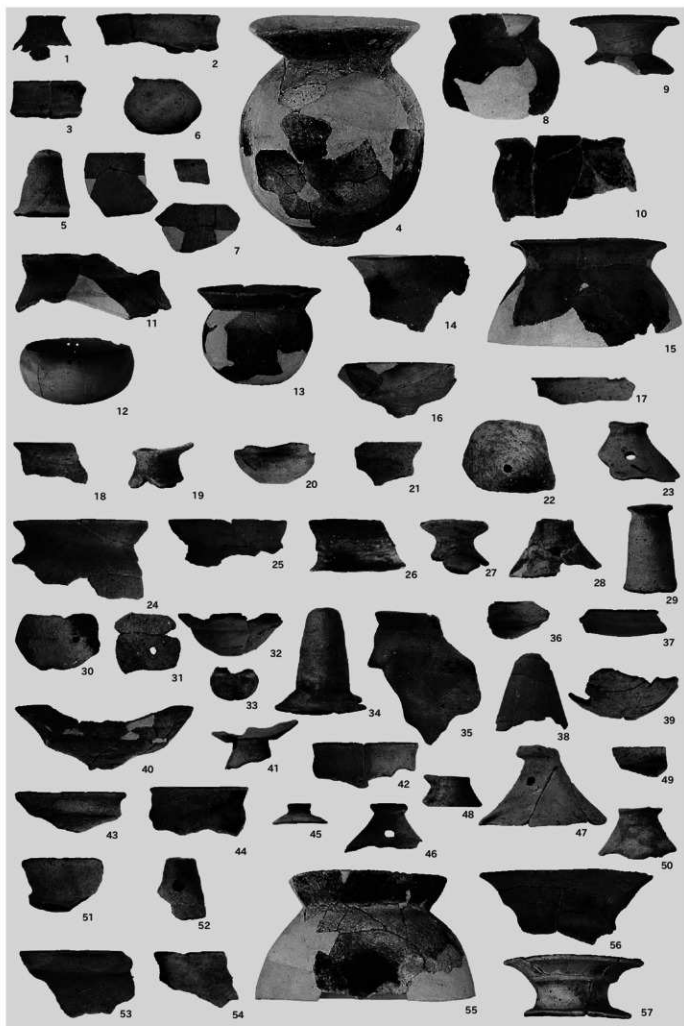
03P1018 完掘 (南東から)



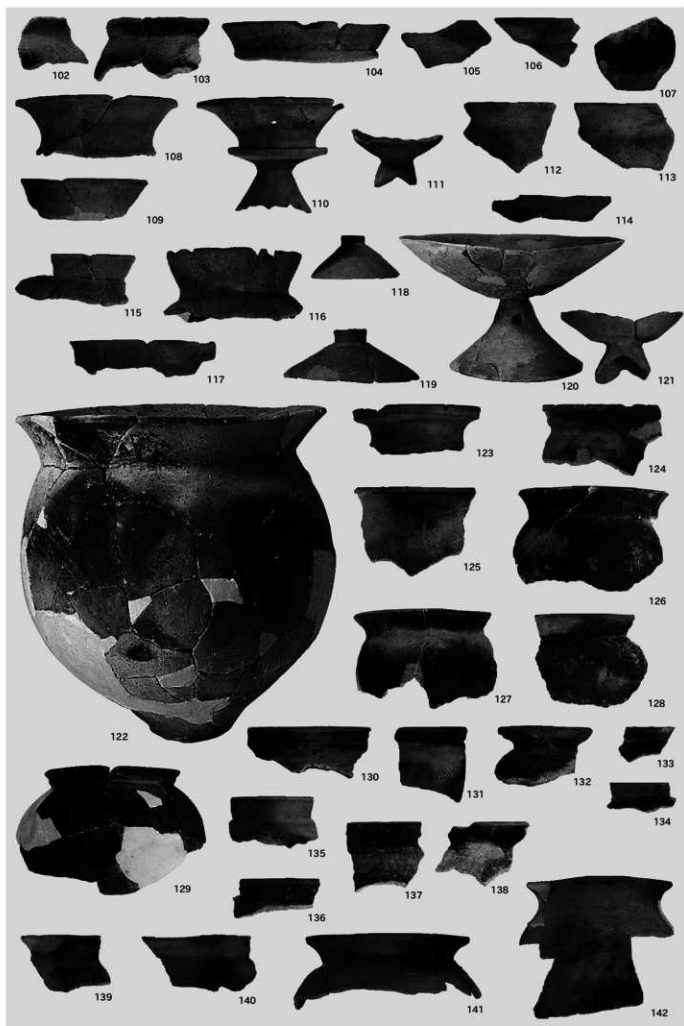
A地区 作業風景

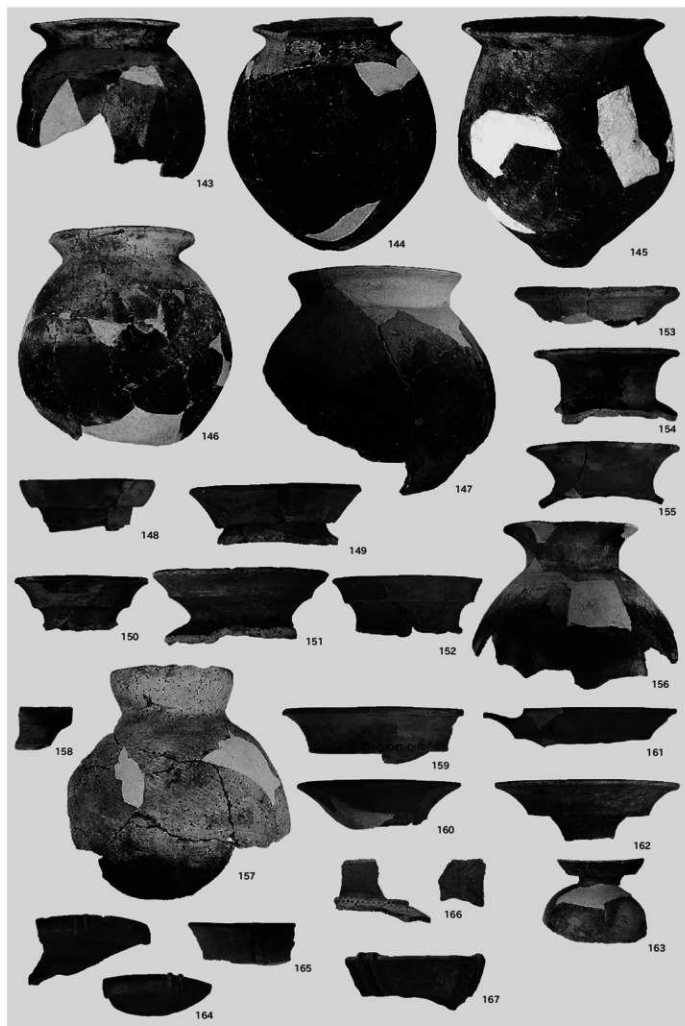


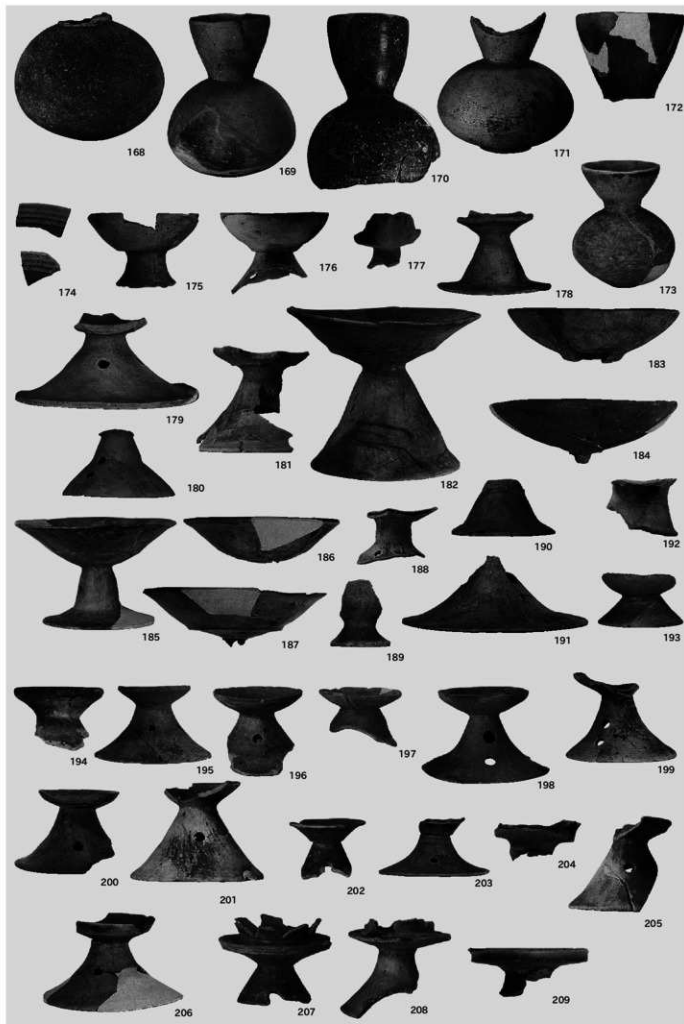
B地区 作業風景

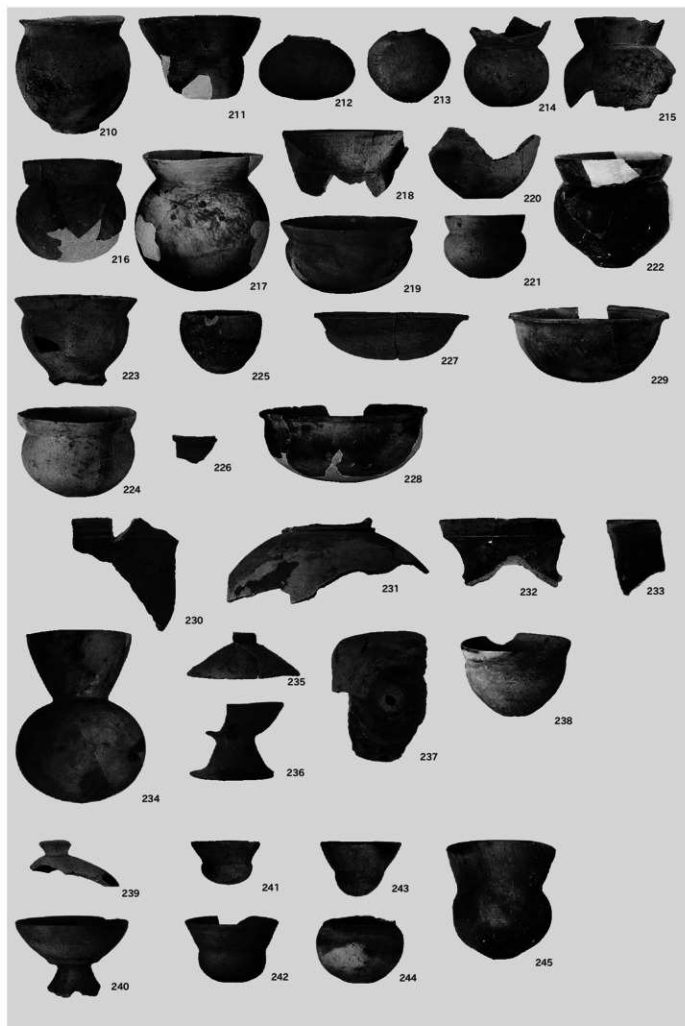


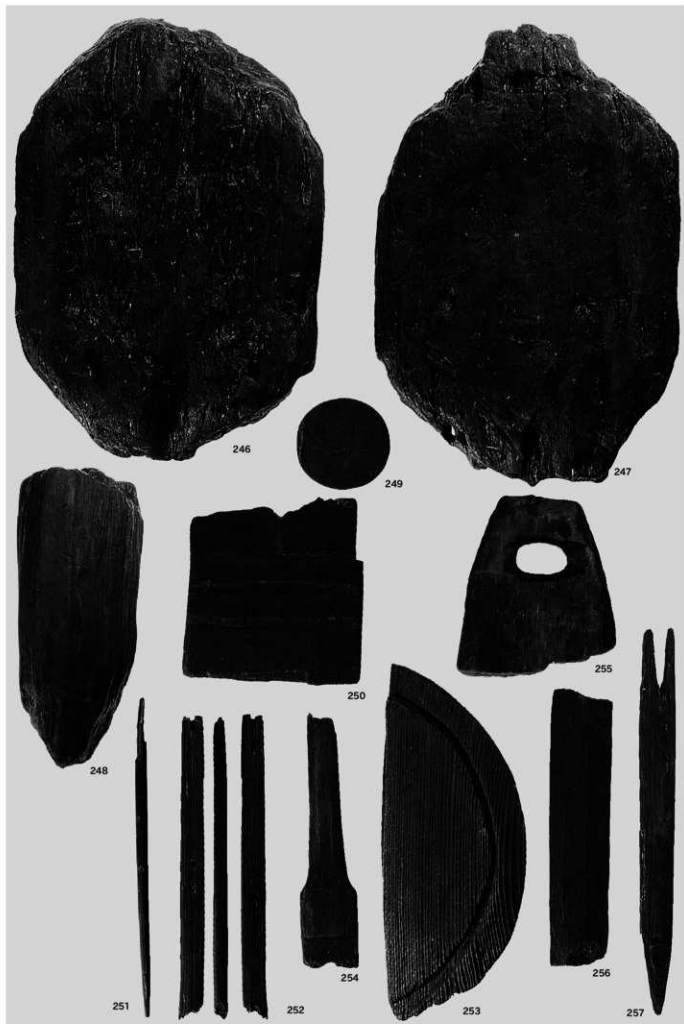


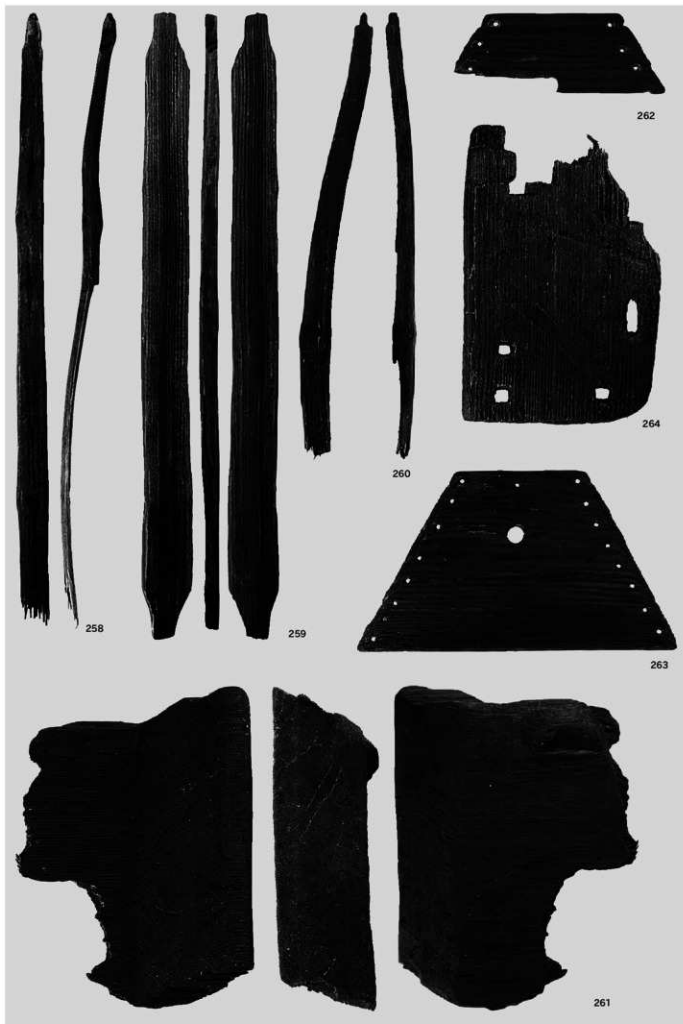


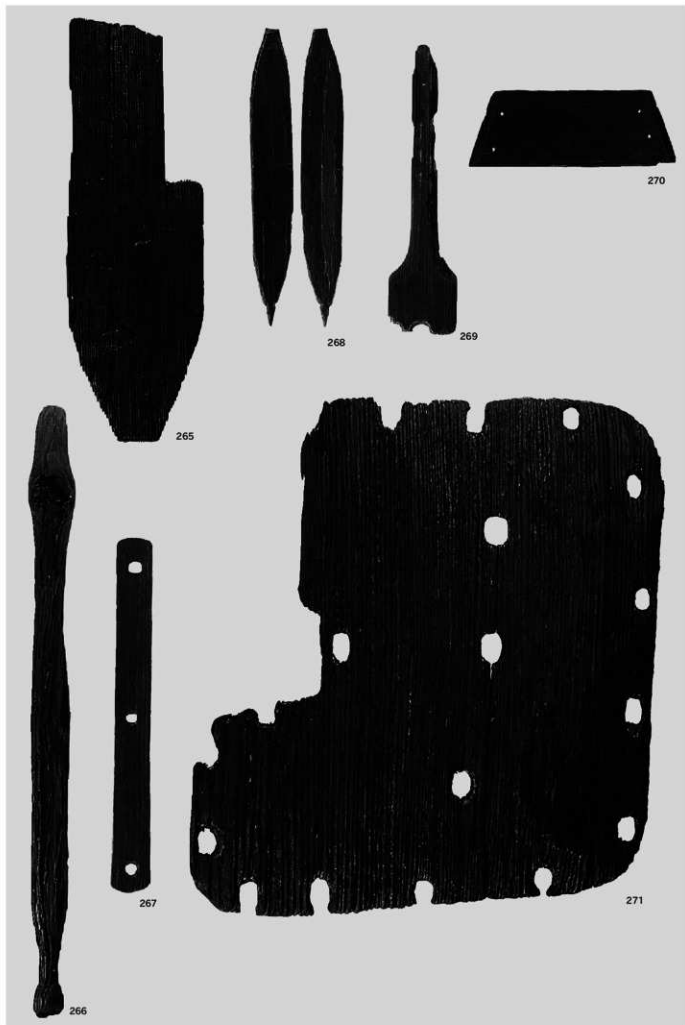




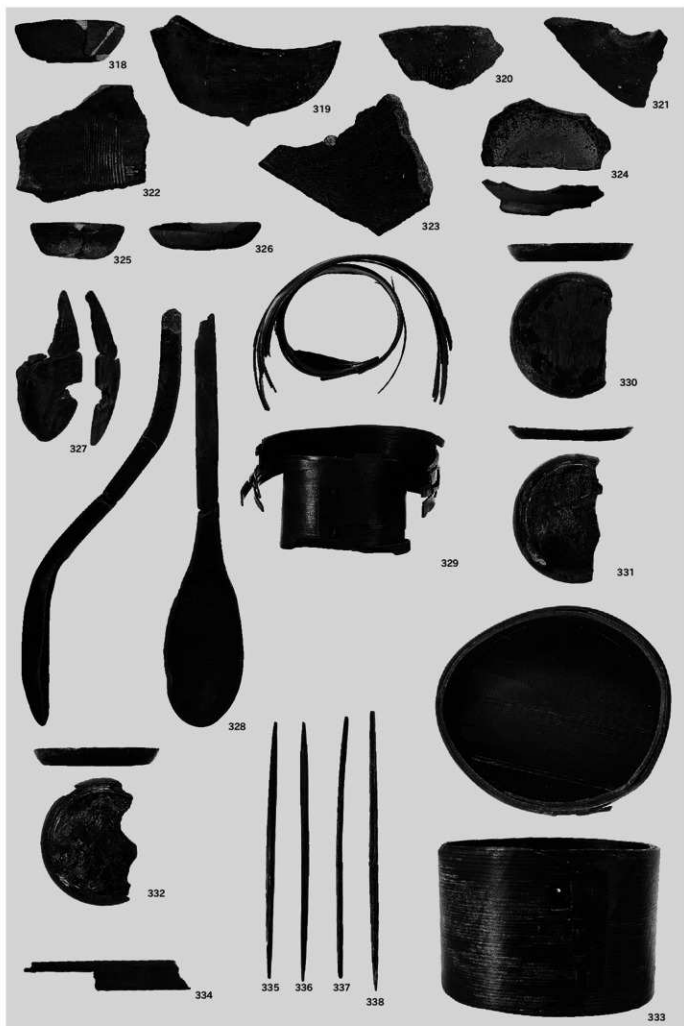


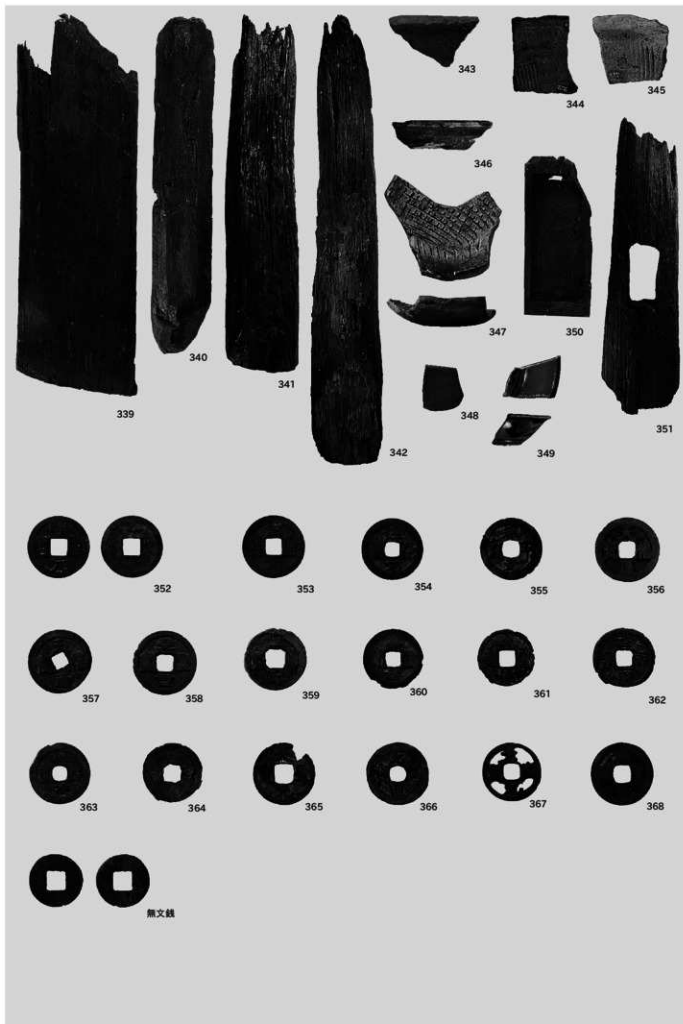












報告書抄録

ふりがな	しもわりいせき に							
書名	下朝遺跡Ⅱ							
副書名	一般国道253号 上越三和道路関係発掘調査報告書							
巻次	Ⅱ							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第134集							
編著者名	山崎忠良 金子正宏 橋 一之 継 実							
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒956-0845 新潟県新津市大字金津93番地1 TEL 0250 (25) 3981							
発行年月日	西暦2004(平成16)年3月31日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
下朝遺跡	新潟県上越市大字米岡字下朝 1,205ほか	15222	266	37度 8分 1秒	138度 18分 57秒	20030407 ～20031121	14,600m ²	道路(上越三和道路)建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
下朝遺跡	集落	古墳時代	掘立柱建物(2棟) 井戸(1基) 溝(16条) 土坑(41基) 旧河川(1条)	土器(土師器) 木製品(礎板、柱根) 石製品(管玉、勾玉未成品)		自然堤防上に、礎板をもつ掘立柱建物と總柱の掘立柱建物を検出		
	散布地	古代(奈良・平安時代)	土坑(1基) ピット(5基)	土器(須恵器、灰輪陶器)				
	集落	中世(鎌倉・室町時代)	掘立柱建物(9棟) 井戸(16基) 溝(15条) 土坑(8基) ピット(298基)	土器・陶磁器(土師質土器、珠洲焼、越前焼、瀬戸美濃、青磁、中国染付) 木製品(漆器、曲物、箸) 石製品(硯) 金属製品(銭貨)		溝に区画された屋敷地が集まり集落を形成		

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第134集
一般国道253号 上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅱ
下朝遺跡Ⅱ

平成16年3月30日印刷
平成16年3月31日発行

編集・発行 新潟県教育委員会

〒950-8570 新潟市新光町4番地1
電話 025(285)5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新津市大字金津93番地1
電話 0250(25)3981
FAX 0250(25)3986

印刷・製本

株式会社 第一印刷所
〒950-8724 新潟県新津市和合町2丁目4番18
電話 025(285)7161